

## 日本語の言いさし文の談話機能：「共話」「対話」 という観点からみた日中対照研究

葉, 郁禮

<https://doi.org/10.15017/2534369>

---

出版情報：Kyushu University, 2019, 博士（比較社会文化）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：

日本語の言いさし文の談話機能

—「共話」「対話」という観点からみた日中対照研究—

## 要旨

「言いさし」や「中途終了型発話」に関する先行研究は文法研究、話者の使用調査、テキスト分析など、さまざまな角度から数多く行われてきている(白川 2009 ; 陳 2000 ; 高田・福盛 2001 など)。しかし、それらの研究のほとんどが接続助詞を中心とした文法研究や教科書における言いさし文の提示頻度を中心とするものであり、実際の会話における言いさし文の用法に関する談話分析的な分析はまだ少ない。また、中国語を母語とする日本語学習者は母語話者が使っている言いさし文に不慣れなため正しく理解することができず、誤解を招く場合も多い。実際の会話における日本語母語話者の言いさし文の使用意図などの解明を行い、その結果を日本語教育への還元することが期待されている。本論文では、日中両言語の母語話者の自然会話を分析資料とし、「共話」と「対話」の観点から両言語の言いさし文が会話中でどのような役割を果たし、また会話の進行にどんな影響を与えるかの解明を試みる。

本論文は 6 章から構成される。

第 1 章から第 3 章では本論文の目的、先行研究及び分析データについて述べる。

第 4 章は日本語の言いさし文に関する分析である。まず、発話を実質的発話と相槌的発話の二種類に分け、実質的発話のみを分析対象とし、完全文と言いさし文の割合を調べた。その結果、言いさし文が会話全体の約三分の一を占めていた。また、文末終了形式を「名詞終了」、「副詞終了」、「助詞終了」、「て形終了」、「その他」の五種類に分け、使用傾向を調べた結果、「助詞終了」、「名詞終了」、「その他」の合計は全体の九割近くであることが明らかになった。さらに、「助詞終了」を「接続助詞終了」、「副助詞終了」、「格助詞終了」に細分化し、出現する頻度を調べた結果、多くの先行研究で指摘されている通り、接続助詞の使用頻度が最も高かった。また、品詞の枠を超え、文末に多く観察されている「たり」、「かも」、「みたいな」などのぼかし表現の用法を再整理し、その使用傾向についても調査した。その結果「みたいな」の使用が全体の半数以上となり、かなり偏っている傾向がみられた。それについては、国語世論調査でも、若者における「みたいな」の使用が例年増加する現状が報告されていた。したがって、本論文で取り扱ったデータにおいて「みたいな」の多用が観察されたのは一種データの属性の反映だと考えられる。また、文末におけるぼかし表現の男女差については、具体的な事例としては、女性は男性より二つ以上の文末におけるぼかし表現を併用することによって、それらの機能をより強くする傾向が観察された。最後に、実際の会話例の分析を通して、水谷信子(1980)が提案した「共話」に基づき、話者間の親疎関係について分析を行った。

その結果、言いさし文は、疎である人間関係では、上位者が言いさし文を使って話題をリードする傾向があるのに対して、親である人間関係では、共通経験などを通して積極的に話題へ参与することで、話者間の連帯感を形成させ、会話を促進させるのに貢献していた。

第5章では、中国語の日常雑談会話を使って、言いさし文の機能について分析し、第4章の日本語の分析結果と対照させた。まず、雑談会話における日中両言語の言いさし文の使用率については、日本語が37%であったのに対して、中国語はわずか8%であった。換言すれば、中国語の雑談会話は、ほとんど完全文で構成されているといえる。次に、両言語の言いさし類型の出現率に関して比較してみると、日本語では助詞終了が最も多いのに対して、中国語では述語欠落が最も多く観察された。さらに、言いさし文の機能を「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」、「その他」の四つに分け、日中両言語の言いさし文四機能の使用割合を調査した。その結果、日常雑談場面では、言いさし文は日中両言語とも「情報伝達」に最も多い傾向が見られたが、文末品詞と機能の対応関係に関しては、日本語においては助詞終了の使用が最も多かったのに対して、中国語では述語欠落が最も多く観察された。次に、共話の観点からみた日中言いさし文の使用については、日本語の共話の構成は、言いさし文が2文連続から7文連続までの例が見つかったが、中国語は2文連続が四例と4文連続が一例の結果であった。さらに詳細に見てみると、中国語の共話では、最後に必ず文が完成されるのに対して、日本語では言いさし文で文を未完了のまままで終える例もいくつか観察された。したがって、中国語の会話では、やはり対話の傾向が強いことが明らかになった。また、日本語の言いさし文の使用には上下関係が関わるが、中国語にはそのような現象が見られなかった。

第6章では、5章までの内容をまとめた上で、今後の課題について述べた。

言いさし文については数多くの研究が行われているが、日中対照研究は多くは見られない。また、従来の日中対照研究はドラマや映画のシナリオを分析資料とするものも多く、談話分析に基づき日本語の中国語の言いさし文を対照させたものは数少ない。さらに、共話・対話の観点から行った日中言いさし文に関する対照研究は管見の限りでは存在しない。本研究の成果は、日中対照研究に大きく貢献しうるものと期待できる。

## 目次

第1章	序論.....	1
1.1	本論文の背景.....	1
1.2	本論文の目的.....	4
1.3	本論文の構成.....	4
第2章	先行研究概観と本論文の課題.....	6
2.1	日本語の言いさし文について.....	6
2.1.1	言いさし文の定義.....	6
2.1.2	言いさし文の機能.....	15
2.1.3	各観点からの言いさし文に関する研究.....	18
2.2	言いさし文に関する対照研究.....	27
2.3	日本語の共話に関する先行研究.....	29
2.3.1	共話の定義.....	29
2.3.2	共話の表現形式.....	30
2.3.3	共話の機能.....	31
2.4	先行研究での議論を踏まえた上での本論文の研究課題.....	35
第3章	分析データ及び研究方法.....	38
3.1	データの文字化の方法.....	38
3.1.1	発話文の認定について.....	38
3.1.2	表記方法及び記号について.....	39
3.2	第4章のデータと研究方法について.....	40
3.3	第5章のデータと研究方法について.....	42
第4章	日本語における言いさし文の研究.....	44
4.1	分析方法.....	44
4.1.1	分析の観点.....	44
4.1.2	分析対象.....	44
4.1.3	言いさし文の分類及びその認定について.....	46
4.2	自然会話における言いさし文の量的分析.....	47
4.2.1	自然会話における日本語母語話者の言いさし文の使用頻度.....	47
4.2.2	日本語の言いさし文の文末形式及びその出現頻度.....	48
4.2.2.1	名詞終了による言いさし文.....	48

4.2.2.2	副詞終了による言いさし文.....	49
4.2.2.3	助詞終了による言いさし文.....	49
4.2.2.4	て形終了.....	52
4.2.2.5	その他.....	53
4.3	日本語における言いさし文の質的分析.....	54
4.3.1	言いさし文の機能.....	54
4.3.2	自然会話における言いさし文の各機能の出現状況.....	57
4.3.3	言いさし文における各機能と文末形式の相互関係.....	62
4.3.4	文末におけるぼかし表現.....	74
4.3.4.1	分析対象.....	74
4.3.4.2	文末におけるぼかし表現の出現実態.....	78
4.4	日本語の言いさし文の男女差について.....	91
4.4.1	使用頻度から見る言いさし文の形式の男女差.....	91
4.4.2	実例から見るぼかし表現の男女差.....	97
4.5	日本語における言いさし文と共話について.....	99
4.5.1	本論文で取り扱うデータについて.....	100
4.5.2	分析方法.....	101
4.5.3	分析結果.....	103
4.5.3.1	量的分析.....	103
4.5.3.2	質的分析.....	105
4.6	まとめ.....	110
第5章	言いさし文についての日中対照研究.....	111
5.1	分析方法.....	111
5.1.1	分析対象.....	111
5.1.2	中国語の言いさし文の認定及び類型について.....	114
5.2	日中両言語の言いさし文の量的分析.....	118
5.2.1	自然会話における中国語の言いさし文の出現頻度.....	118
5.2.2	自然会話における日中両言語の言いさし文の出現頻度の比較.....	119
5.3	日中両言語の言いさし文の質的分析からの比較.....	121
5.3.1	言いさし文の機能.....	121
5.3.2	中国語における言いさし文の各機能の出現状況.....	123

5.3.2.1	中国語における言いさし文の各機能の出現頻度及び出現率.....	123
5.3.2.2	中国語における言いさし文の各機能の統語的特徴.....	124
5.3.3	日中両言語における言いさし文の各機能の比較.....	131
5.4	日中両言語の共話について.....	135
5.4.1	中国語の共話について.....	135
5.4.2	日中両言語の共話使用上の比較.....	138
5.4.2.1	日中両言語の言いさし文と共話の相関関係.....	138
5.4.2.2	日中両言語の言いさし文による共話の相違点.....	142
5.4.2.3	上下関係による日本語の言いさし文の使用.....	143
5.5	まとめ.....	144
第6章	結論.....	146
6.1	本論文の概要.....	146
6.2	本論文の意義.....	147
6.3	本論文における研究課題の結果.....	148
6.4	今後の課題.....	148
参考文献	.....	150
謝辞	.....	155

## 図一覧

図 2-1 陳文敏(2000)会話における発話のスピーチレベルの構成.....	16
図 2-2 岡田安代(1991)会話における「共話」と「対話」のモデル.....	30
図 2-3 嶺川(2001) 日本語母語話者のゼミにおける対話の使用条件.....	32
図 4-1 発話の分類.....	57
図 4-2 辻(1999)若者語としての認知度.....	89
図 4-3 平成 26 年度の「国語に関する世論調査」に基づく「みたいな」の使用年齢層...90	
図 4-4 水谷信子(2015)対話と共話.....	100

## 表一覧

表 2-1 伊集院(2004)発話末省略と述語文の具体例.....	14
表 2-2 李恩美(2008)言いさし文の機能.....	17
表 2-3 陳文敏(2001)日本語母語話者が 言いさし文を使用する理由及び目的一覧.....	25
表 3-1 各章で使われるデータ.....	38
表 3-2 表記例.....	39
表 3-3 日本語母語話者である会話参加者の属性.....	40
表 3-4 久志(2007)の会話参加者の属性.....	41
表 3-5 台湾人中国語母語話者である会話参加者の属性.....	42
表 4-1 各文末形式の出現数及び出現率.....	48
表 4-2 文末における各助詞終了の出現数及び出現率.....	50
表 4-3 文末における接続助詞終了の内訳.....	50
表 4-4 李恩美(2008)による言いさし文の機能.....	55
表 4-5 言いさし文の各機能の出現頻度及びその割合.....	58
表 4-6 李恩美(2008)による言いさし文における各機能の出現頻度と出現率(一部抜粋).....	58
表 4-7 言いさし文の機能についての本研究の結果と李恩美(2008)の結果との比較.....	59
表 4-8 各文末形式と各機能の対応関係.....	62
表 4-9 各文末形式終了の出現分布(表 4-8 の再掲).....	68



表 4-10 情報伝達における接続助詞終了の内訳.....	69
表 4-11 各文末形式の出現数及び出現率.....	73
表 4-12 各機能と各文末形式の対応関係.....	73
表 4-13 文末の品詞の種類及びその内訳.....	75
表 4-14 各文末におけるぼかし表現の出現率.....	79
表 4-15 文末におけるぼかし表現と各機能の対応関係.....	80
表 4-16 平成 26 年度の「国語に関する世論調査」に基づく若者の言い方の使用頻度..	89
表 4-17 男女別の各言いさし文の使用状況.....	92
表 4-18 男女別の文末の各助詞終了形式の出現数及び出現率.....	92
表 4-19 男女別の文末の接続助詞終了の使用状況.....	93
表 4-20 男女別の文末ぼかし表現の使用実態.....	93
表 4-21 男女別の言いさし文の機能の使用実態.....	94
表 4-22 男女別の機能と文末における品詞別終了の対応関係.....	95
表 4-23 男女別の機能と文末ぼかし表現の対応関係.....	96
表 4-24 会話参加者の属性.....	101
表 4-25 各データにおいて使われる各共話の種類の使用状況.....	104
表 5-1 中国語における各言いさし文の出現類型及び出現率.....	119
表 5-2 日本語における各文末形式の出現数及び出現率(表 4-1 の再掲).....	120
表 5-3 日本語の文末における各助詞終了の出現数及び出現率(表 4-2 の再掲) .....	120
表 5-4 中国語の言いさし文における各機能の出現頻度及び出現割合.....	123
表 5-5 中国語における各言いさし文の形式と各機能の対応関係.....	124
表 5-6 中国語における各言いさし文の形式と各機能の対応関係(表 5-5 の再掲).....	130
表 5-7 日本語における各言いさし文の形式と各機能の対応関係(表 4-8 の再掲).....	130
表 5-8 日中両言語の言いさし文における共話の誘発率.....	140
表 5-9 共話における言いさし文の連続出現回数.....	142

## 本論文における表記の方法について

- 1.長音：ー
- 2.言いよどみ：…
- 3.発話の途中で挟まれる話し相手のあいづちは、()の中に入れて、発話文と同一の行に入れる。ただし、一つの発話が終了した後のあいづちの発話は、一つの独立した発話として認める。
- 4.会話進行中に発された会話以外の音声を()で表記する。例えば、(笑い)など。
- 5.会話中に出てくる人名、企業名などはプライバシー保護のために伏せる。
- 6.聞き取れない部分はXXで表記する。
- 7.話参加者の記号は、Jは日本語母語話者を、Tは台湾人中国語母語話者を示す。Fは女性(Female)を、Mの場合は男性(Male)を表し、続くそれぞれの記号は各参加者を示す。

# 第1章 序論

## 1.1 本論文の背景

言葉の使用は、相手の身分、年齢、性別、対人関係だけでなく、場面など様々な要因と深く関わっている。母語話者は日常の言語環境での使用を通して、その使い分けを自然に身につける。しかし、その言葉を外国語として学ぶ学習者はそのような言語環境に恵まれず、自国で教科書に頼り、教室で勉強するという場合がほとんどである。また、以上にあげた要因は一般的な教科書では細かく提示されないことが多いため、実際に母語話者とコミュニケーションを取る際に、意思の伝達には差し支えないが、話し相手になんらかの違和感を覚えさせてしまうことがよくある。水谷信子(1985:14)はその現象を「非用」と呼び、誤用以上に母語の影響の根強さを語るものであることを以下のように説明している。

「非用」は筆者の造語である。「誤用」というのは実際にある言語を用いて、その結果面にあらわれた間違いである。つまり現象面に出た「使用の失敗例」である。ところが、もっとも外国語話者にとって学習しにくいものは、「誤用」として表面に出ないのが事実である。日本語話者がしばしば言う

お茶でも飲みませんか

の「でも」は英語話者には使用例がきわめて少ない。これは英語で

Shall we have tea or something like that?

というような習慣がなく

How about a cup of tea?

のような表現が普通であるため、日本語を使うとき

オ茶ヲ飲ミマセンカ

となる。「でも」の「誤用例」が表面化しないものである。

水谷信子 (1985:14)

水谷信子(同上)の事例と類似した「非用」に、言いさし文の「非用」がある。日本語の日常会話では、言いさし文の使用が目立つが、中国語を母語とする日本語学習者が母

話話者と会話する際に、言いさし文を用いず、完全文で表現することがしばしば起こる。誤用ではないのだが、日本語母語話者からすれば、やはり違和感を覚えてしまうだろう。また、日本語母語話者の言いさし文を突然発話を途中で止めてしまったと誤解してしまい、しばらく待っていてもその続きがなかったという経験を持つ学習者も多い。母語話者の言いさし文に不慣れで、戸惑いを感じてしまい、コミュニケーションに支障をきたすケースも少なくない。水谷信子(2001:97)から例を借りて、以下の例 1-1 で説明する。

#### 例 1-1

「どちらさまでしょうか」と聞かれて名前を言う時も

山本です

もあろうが

山本ですが

山本ですけど

のように終ることも少なくない。文末あるいは発話末に「けど」「が」「から」「もの」等の接続表現が来るのは、一般に予想される以上の頻度である。こうした接続表現で終る発話をどう解釈するか、話しことばでは重要な問題である。

水谷信子(2001:97)

「山本です」にしる、「山本ですが・山本ですけど」にしる、中国語に直訳する場合は同じ「我是山本」という完全文となってしまう。そのため、言いさし文に不慣れな学習者は、例 1-1 の三例が話し言葉において多少異なるニュアンスをもっていることに気づかず、同じ用法だと解釈して完全文の「山本です」を使ってしまう可能性が大きい。

また、現行の日本語教科書では、「です」、「ます」で完結させる完全文を中心とするものが多く、言いさし文についての提示はまだ不足している。さらに、従来の日本語の言いさし文に関する研究は、断り表現や依頼表現などの特定の発話行為に着目するものがほとんどで、その多くは言いさし文の機能を話し相手に対する配慮を示すという結論で終わっている。しかし、以下の例 1-2 のように、実際に収録した日本語母語話者の雑談会話データを観察してみると、特に相手に頼み事がなくても言いさし文が頻繁に使われている。

例 1-2

6-102-JMM あの、電子掲示板にはここと事故の件数とか書いてるのを見て、(お一) すげえと思って。

6-103-JML それはね、もう、福岡ですから。(JML、JMM が笑う) どうもね、福岡怖いらしいけん、(あ一) 他の県の人から見るとしたら。

6-104-JMM 俺は大阪の方が怖いと思いますけど。

6-105-JML 俺もそう思う。

例 1-1 で述べたように、中国語は、日本語の接続助詞のような話し相手に働きかける機能を持つ表現を持たないため、その会話はほとんど完全文で構成されている。そのため、中国語を母語とする学習者にとっては日本語の言いさし文は難解である。また、日本語の会話は、頻繁に言いさし文を用いて、相手にその続きを引き取ってもらう「共話」的な話し方であることがしばしば指摘されている。それについて、岡田安代・水谷修(1988:155)では日本語の「対話的姿勢」に対する「共話的姿勢」について、次のような説明をしている。

談話行動への「対話的姿勢」は、二人の話者が相対して話のキャッチボールをするような姿勢であり、それに対して、「共話的姿勢」、は二人の話者がバレーボールをする時のように同方向を向いて、協力しながら談話を成立させるという姿勢であると言えよう。

岡田安代・水谷修(1988:155)

さらに、岡田安代・水谷修(同上)では、中国人インフォーマントに文学部にいる大学院生の多門氏を訪ねさせた際、共話的話し方に慣れないそのインフォーマントは文学部の玄関でたまたま出会った女性に「多門さんをご存知でしょうか」という唐突な聞き方をしてしまったという結果を報告している。

同論文では、さらに、上記の中国人インフォーマントの聞き方がなぜ唐突の感を与えてしまったかについて次のような説明をしている。

「～を知っていますか」と聞く前に「～を探しているんですが...」と事情の説明だけをして相手の反応を待つというやり方は、日本人がよく使うものであるが、これに対して「ああ、その人なら知っていますよ」とか「わかりませんから教務で聞いてください」とかいう反応が出てくるのは、聞き手が「共話的姿勢」で話者の意図をくみ取った

からに違いない。ところが、こうした共話的姿勢の談話行動に慣れない中国人インフォーマントが、対話的姿勢で、いきなり「～ご存じですか」と聞くので、そこに違和感が生じたのではないだろうか。

岡田安代・水谷修(1988:155)

日本語の言いさし文に関する研究は、すでに数多く行われている（李恩美 2008、伊集院 2004、白川 2009 等）。しかし、言いさし文に関する日中対照研究は未だに数が少ない（李曉博 2008、荻原 2013 等）。しかも、その多くがドラマや映画などのシナリオを分析資料とするものであり、言いさし文と共話との関係を詳しく論じたものは殆ど見つからない。前述したように、言いさし文と共話は深く関わっており、その関係を明らかにすることは、中国語を母語とする学習者を対象とする日本語教育に大きく貢献することができると思われる。

## 1.2 本論文の目的

前述の状況に鑑みて、本論文は、中国語母語話者に対する日本語教育に貢献することを目指して、日本語の自然会話の談話分析を行うことで日本語の言いさし文と共話との関係を明らかにした後、共話・対話という観点から日中言いさし文の頻度および機能を対照させ、その類似点・相違点を明らかにすることを目的とする。

上記の目的を達成するために、まず日本語の自然会話を分析することで、言いさし文形式の使用実態および機能、さらにその相互関係を明らかにした上で、言いさし文と共話との関係を探る。その中で、日本語の特徴とされている「ぼかし表現」と言いさし文との関わり、文の倒置の用法と言いさし文との関わりについても明らかにしたい。

次に、中国語の自然会話を分析することで、言いさし文の使用実態および機能を明らかにした後、日本語の言いさし文の使用実態および機能と対照させ、共話・対話という観点から日中両言語の会話構造を対照させて考察を行う。

## 1.3 本論文の構成

本論文は 6 章から構成されている。第 2 章から第 6 章までの主な内容は次の通りである。

第 2 章では言いさし文、共話などの先行研究を概観しながら、これらの先行研究で未だ明らかになっていない点を指摘し、本論文の位置付けを行う。

第3章では各章で使われる会話データおよび分析方法について紹介する。

第4章では雑談場面の自然会話データを使って、日本語の言いさし文についての分析を行う。とりわけ、共話の観点から、言いさし文の使用について分析する。まず、実質的発話における言いさし文の文末終了形式を「名詞終了」、「副詞終了」、「助詞終了」、「て形終了」、「その他」の五種類に分け、使用傾向を調べる。次に、言いさし文の機能を「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」の三つに分け、言いさし文における各機能と文末形式の相互関係についても調査する。さらに、文末に多く観察されている「たり」、「かも」、「みたいな」などのぼかし表現の用法を再整理し、その使用傾向について検討する。最後に、実際の会話例の分析を通して、水谷信子(1980)が提案した「共話」に基づき、話者間の親疎関係について分析を行う。

第5章では中国語の自然会話中の言いさし文の分析を行い、第4章の結果と対照させる。まず、第4章と同様に、実質的発話における中国語の言いさし文の出現率を算出する。その後、中国語の言いさし文の類型を「目的語が欠落している発話」、「述語が欠落している発話」、「接続詞で終了している発話」、「副詞で終了している発話」の四種類に分け、それぞれの出現率を調査する。また、言いさし文の各機能の使用率及び言いさし文の各類型との相互関係についても調べる。さらに、日中両言語の言いさし文における共話の誘発率及び共話における言いさし文の連続出現回数を調べることで、日中両言語の共話と言いさし文との関わりの相違について議論を行う。

第6章は、結論である。本論文の議論をまとめ、今後の課題を述べる。

## 第2章 先行研究概観と本論文の課題

本章では、言いさし文についての研究、日本語と他言語との対照研究、共話についての研究について概観し、本研究の研究課題を明らかにする。まず2.1では言いさし文の定義、機能、様々の研究分野からの言いさし文の研究について概観する。次に2.2では、日本語の言いさし文と他言語との対照研究を概説する。また、本研究では、特に対話・共話という観点から言いさし文を分析するため、2.3では、日本語の共話についての先行研究をまとめ、言いさし文との関わりについて述べる。最後に、2.4では、先行研究を踏まえた上で本研究の立場を明らかにし、2.5において本論文の研究課題について述べる。

### 2.1 日本語の言いさし文について

#### 2.1.1 言いさし文の定義

これまでの先行研究では、「言いさし」(佐藤勢紀子:1993、日本語表現・文型事典:2002)、「言いさし表現」(曹:2004)、「言いさし文」(白川:2009)、「中途終了型発話」(宇佐美:1995、陳文敏:2000)、「発話末省略」(伊集院:2004)などの用語が使われている。以下、主な研究における定義を概説した上で、本研究の言いさし文の定義をする。

#### 言いさし

佐藤勢紀子(1993:42-43)はビデオ教材の用例を対象として、「...が／けど」という形の言いさしについて分析を行い、その定義を「話し手にとって伝達すべき内容が明白であるにもかかわらず話し手自身によって文が中断されていて、しかもその後に来るべき内容の文言が会話の中の他の部分に見られず、その場の状況から自明でもない場合である」として、次のような例を挙げて説明している。

まず、第一条件—話し手にとって伝達内容が明らかであること—により、次のような例2-1はここでの言いさしから除外する。

#### 例2-1

- A 沢木さんは、どんなお仕事お仕事が多いんですか。  
B 多いというと、.....まあ、いろいろ.....。



(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 14 佐藤勢紀子(1993:42))

この例は、見合いの場での質問と回答である。同論文によると、Bの発話の中断ははぐらかしではなく、その性格と緊張からきている。

次に、第二の条件—話し手自身によって文が中断されること—により、他者によって発言が遮られた例 2-2 も除外する。

#### 例 2-2

A (用紙を見ながら)ええと、これは.....。

B (さえぎって)そちらに記入例があります。

(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 21 佐藤勢紀子(1993:42))

第三の条件—後に来るべき内容の文言が会話の他の部分に見られないこと—については、大きく二つの場合が除外されると考えられる。一つは、後に来るべき内容が既に何らかの形で発言されていて、その繰り返しを避ける場合である。例えば、次の例 2-3 のようになる。

#### 例 2-3

A あらー、ごめんなさい。電話長くなっちゃって。

(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 7 佐藤勢紀子(1993:42))

のようないわゆる倒置の例 2-4 は当然として、

#### 例 2-4

A あの、お仕事じゃなくて、ご自分のテーマもお撮りになるんでしょう。

B ええ、一応.....。

A はあ.....。 どんな、あのう、ものを?

(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 14 佐藤勢紀子(1993:42))

このように、他者の発言においてであるにせよ(B)、自分の発言においてであるにせよ(A)、すでに言及されたその場の了解事項となっていることを改めて繰り返さない反復

回避の例も言いさしと考えない。ただし、この場合は、反復回避の対象となる事柄は、回避の行われる発話の直前に現れているとは限らないことに注意する必要がある。

第三の条件による除外のもう一つの場合は、次の例 2-5 に見ることができる。

#### 例 2-5

A あのう、実はわたし、あのお仕事の前から彼を知っておりまして。実は彼とお見合いをしたことがあって。

B ほう、なんだ、そう。

A それもわたしの方から断っていたもので。

B おやおや。

A ええ、お仕事で一緒にになってしまって、本当に困ってしまっただんですが。

B そうでしょうね。それで。

A ええ、初めに見た彼の写真が、あのう、私の感じにぴったり来て。

B ふーん。

A 一緒にお仕事をしているうちに、だんだん彼の考え方とか、感じ方とか、わかる気がしてきたんです。

(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 16 佐藤勢紀子(1993:42))

こうした、途中でポーズをおいて相手の反応を見ながら話を続けていくやり方は、日本語の談話の展開の仕方を特徴づけるものとして、聞き手の相槌とともに注目されているところである。この種の文の中断を、広い意味での言いさしとみることもできようが、後続部分が明示されている点から、言いさしから外して考えることにする。

最後に、言いさしが成立するための第四の条件—後に来るべき内容がその場の状況から自明でないこと—についていえば、次のような例 2-6、2-7 がこの条件に反する。

#### 例 2-6

A いらっしやいませ。

B スープ・セット売り場は?

(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 8 佐藤勢紀子(1993:42))

#### 例 2-7

A 失礼いたします。

B (座るようにすすめて)そこへ。

(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 10 佐藤勢紀子(1993:42))

上記の二例はいずれも、Bの発言の意味が、その場の非言語的文脈によって自明であるため、言いさしの対象から除外する。

また、同論文では、あえて条件としてあげていないが、後に一定の言葉を補足しうるが、特にくだけた会話ではそれだけで用いることも多い表現形式や決まり文句も言いさしとみなさない。例えば、次のような例 2-8、2-9、2-10 があげられる。

例 2-8

「どんなイベント」といった copula の脱落した形

(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 20 佐藤勢紀子(1993:42))

例 2-9

「行ってこなくちゃあ」

(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 7 佐藤勢紀子(1993:42))

例 2-10

「すみません、やたいっていうのは」

(『日本語教育映像教材 中級編』セグメント 20 佐藤勢紀子(1993:42))

などの略体の表現形式、また、「どうも」「よろしく」「じゃ、また」などの略式の挨拶や「それで」「そんな」などの一定の機能を持つ慣用的表現についても言いさしとみなしていない。

佐藤勢紀子(1993)は、具体例を用いて説明されており分かりやすいのだが、とりわけ第三条件、第四条件、その他については、実際の文脈を見ながら判断する必要があると論じている。一方、水谷信子(2001)は、次の例 2-11 をあげ、倒置と見るか、それぞれ独立した二つの文とみるか、どちらも可能であると述べている。

例 2-11

どうぞお構いなく、すぐ失礼しますから。

水谷信子(2001:98)

後述するが、実際の会話中に現れた場合、上記のような例を倒置とするか否かについては判断することが難しいものが多い。本論文では、このような「倒置的文末」（水谷信子:同上）も文脈を見ながら、共話との関わりから分析していくことにする。また、上記の慣用的表現や自明な動詞を省略した例 2-8、2-9、2-10 についても同様である。

## 言いさし表現

曹(2004:104)は言いさし表現の定義は以下の二つを満たす発話であると定義づけている。

- 1.形の上で、文を最後まで言わずに途中で終わっている発話である。
- 2.相手の割り込みではなく、話者の意志により完結している発話である。

ただし、次の例をあげて、(1)倒置、(2)独り言、(3)相手の発話の一部あるいは全部をそのまま繰り返す形、(4)言いさし表現とも言い切り表現ともとれる発話の四つを言いさし表現とみなさない。以下にその例をあげる。

### (1) 倒置

#### 例 2-12

キチョル：どうぞ

スヒョン：じゃなくても一つ買おうと思ったけど。この間直してくれたところがたびたび壊れちゃって

((韓国映画「接続」)曹(2004:105))

### (2) 独り言

#### 例 2-13

署長：余ったものもらってきた。

スマレ：あたしのももらってくれればよかったのに、ごはん食べたいんけど

((日本映画「踊る大捜査線」)曹(2004:105))

### (3) 相手の発話の一部あるいは全部をそのまま繰り返す形

#### 例 2-14

探偵：ご主人にそれとなくお尋ねになったことは?

ショウコ：ええ、何（とかそうしようと思ったんですけど。

探偵：思ったんですけど?

((日本映画「Shall we ダンス?」)曹(2004:105))

(4) 言いさし表現とも言い切り表現とも取れる発話

例 2-15

アオシマ：マシタは？

ユキノ：こっち。

((日本映画「踊る大捜査線」)曹(2004:106))

曹(2004)については、佐藤勢紀子(1993)のように厳しい定義はしていないが、本研究では、(1)倒置の取り扱いについては、佐藤勢紀子(1993)と同様の理由で、文脈を観察しながら、言いさし文と判断できるものは言いさし文として分析する。

### 言いさし文

白川(2009:7-11)は言いさし文を「言い残し」と「言い終わり」の二種類に分け、「従属節だけで言いたいことを言い終わっている文」を研究対象として、複文の中で、ケド節、カラ節、タラ節、レバ節、シ節、テ形節で従属節のみで終了した文の談話機能を分析した。さらに、後件に相当する内容、すなわち、従属節の内容と関係づけられるべき内容が文脈に存在するか否かによって、「関係づけ」と「言い尽くし」に再分類できるとした。

まず、「言い残し」は「言うべき後件を言わずに途中で終わっている文」とし、その理解を聞き手に委ねる言いさし文のタイプである。例えば、下の例 2-16 では、明示されなかった話し手の発話意図は、聞き手である正樹が自ら理解しなければならない。

例 2-16

正樹「今日泊まって行けよ。」

慎平「そうしたいけどね(溜息をつく)」

((鎌田敏夫『男たちによろしく』 p.29)白川(2009:8))

それに対して、「言い終わり」を「従属節だけで言いたいことを言い終わっている文」と定義して、その下位分類を「関係づけ」と「言い尽くし」に分けている。まず、「関係づけ」は関係づけられるべき事態が文脈に存在しており、語用的推論から、主節の再

現が可能であるタイプである。白川(2009:9)は、その一例を次の例 2-17 で示している。

#### 例 2-17

永尾 「悪いー」

リカ 「あー後ちょっとで出来上がりだったのに」

((柴門ふみ『東京ラブストーリー』 p.62)白川(2009:9))

一方、「言い尽くし」は、言い残しがなく、従属節の内容のみで言いたい内容を言い尽くし、語用論的の推論が不必要なタイプである。具体例は次の例 2-18 のようになる。

#### 例 2-18

こずえ 「ほかにつきあってる女の子いるのかしら?」

響子 「さあ.....あなただけみたいですけど」

こず 「ほんとうですか!!」

響子 「ええ。」

((高橋留美子『めぞん一刻 2』 p.188)白川(2009:10))

白川(2009)については、具体例をあげながら、従属節のみで終了した文の談話機能を論理的に分かりやすく分析し、その文法的位置づけを行っているが、実際の会話における言いさし文については、従属節のみの言いさし文に限られるわけではない。本研究では、収集した自然会話を分析するため、白川では取り扱われていない従属節のみで終了した言いさし文以外の言いさし文も取り扱う。

#### 中途終了型発話

宇佐美(1995:35)は「言いさし文」を「中途終了型発話」と呼び、下の例 2-19 をあげて、次のような定義をつけている。

述語が省略される場合や複文の場合、従属節のみで主節が省略されたりする発話、すなわち、最後まで言い切っていない発話を「中途終了型発話」と呼ぶ。

#### 例 2-19

北原 1： いずれは、日本にお帰りになることもあるんです？

河井 1： そうですね。

河井 2： それに、やっぱ仕事のことを考えると、それが一番……

河井 3： こっちで、アメリカ人に英語を教えるわけにもいかないし……

宇佐美(1995:35)

宇佐美(同上)はこの例は日本語の会話にはよくあるように、最初から話者は主節を続けるつもりではなかった感があると指摘している。また、下線部である「いかないし」とも「いきませんし」とも取れるため、相手への待遇により、使い分けが可能であると考えられる。ちなみに、この例は前述の白川(2009)の「言い尽くし」のタイプの言いさし文にあたると考えられ、取り扱われている言いさし文の範囲は限定されている。本研究では、より広い範囲の言いさし文を取り扱う。

陳文敏(2000)は宇佐美(1995)に従い、「中途終了型発話」という用語を使い、その定義を「文法的には言い切っておらず、不完全な発話であるが、情報伝達においては不完全なところは何もなく、言い終わっているものを指す」としている。また、具体例として以下の例 2-20 をあげている。

#### 例 2-20

JM2 経済学部の経済学科だったんですけど、はい(そうだったんですか)

JM1 じゃ、もうほとんど同じ路線に……

JM2 ま、あのころは勉強してなかったですね。

陳文敏(2000:129)

上記の陳文敏(2000)にあげられた用例は白川(2009)の「関係づけ」のタイプの言いさし文にあたると考えられる。白川(2009)、宇佐美(1996)で述べられたものと同様、本研究で取り扱う言いさし文は、陳文敏(2000)のものとは比べ、より広範囲のものである。

#### 発話末省略

伊集院(2004:16)は、発話末省略文とは文法的に完結していないため、省略された述部がデス・マス体かダ体か判断できない発話を指すとする。ただし、本来接続助詞であ

る「けど」「が」「から」「し」に関しては、「けど」「が」を含む発話が単なる前置き表現・言いさし表現で、後続文との間に逆接の関係がない時・後続文が存在しない時、及び「から」「し」が後続する文との間に因果関係をもたない時・後続文が存在しない時は、これらの接続助詞は終助詞化したものとみなし、発話末省略ではなく述語文に分類した。また、伊集院(2004)は以下の表 2-1 のように、発話末省略と述語文の具体例を示している。

表 2-1 発話末省略と述語文の具体例

デス・マス体	～です。～ません。～ですか。～です(よ)ね。～ですけど。
ダ体	勉強した。いい(よ)ね。22 だけど。学生。漢字は簡単。
発話末省略	～と思って。～へ行ったり。～みたいな。先輩が。3 年から。

伊集院(2004:16)

伊集院(同上)では、接続助詞「けど」「が」等で終わるものを言いさし文としては取り扱っておらず、本研究での言いさし文とはかなり異なる。

### 本研究での言いさし文

先行研究の定義を観察してみると、言いさし文の定義は、主に次の二つに分類できる。まず、主節が省略され、従属節が接続助詞の形で終了しているとする研究である。この研究では、文の形式は整っていないが、話者が伝達しようとすることに不完全なところが何もなくすでに述べられているため、主に話者の心的態度や人間関係の調節において使われる終助詞的な用法として認定されていることが多い。もう一つは、主節だけでなく、従属節も省略され、文の機能と形態の両方ともが言いさされているものである。研究者によって定義は様々であるが、まとめてみると、言いさし文とは、主節や述部は省略されても意思伝達の障害にはならない発話であると言える。また、一部の先行研究(伊集院 2004)は接続助詞で終了している文は言いさし文と見なさないものもあるが、本研究は、話し相手の出方を伺いながら会話を進行させるという共話の観点に研究の焦点に置くため、それも言いさし文に含めるものとする。さらに、言いさし文と共話との関わりについて触れた水谷信子(2001)に従い、本研究では倒置文についても文脈次第では言いさし文として取り扱う。従って、本研究では言いさし文を以下のように定義し、とりわけ共話との関わりから、文脈を考慮しながら言いさし文について考察していく。



## 本研究での言いさし文の定義

言いさし文とは、他者からの割り込みではなく話者自身の意志によって、途中で終了された発話である。

### 2.1.2 言いさし文の機能

池田(1995:128-129)は、言いさし文の機能について、「一つの機能は婉曲に表現することである。依頼や苦情、反対意見の表明等、言いにくいことを言わなければならない場合には、『～なんですけど』のような形がしばしば使われる(中略)すなわち、話し手は文の途中で一度口を閉ざして、言いたいことを相手に察してもらうとすると同時に相手の反応を探りながらコミュニケーションを続けようとするのである。」としている。

水谷信子(1993:7)は、「途中まで言って、聞き手に結末をつけさせる、あるいはその意思を理解させることができる。できるというより、相手に発話完結の機会を与えることがプラスとされ、すべてを言い尽くす話し方は、むしろ『切り口上』としてうとまれる。」と述べている。この点については、宇佐美(1995:35)も「最後まで言い切らないことによって明言を避け、発話を緩和したり、相手に発話の機会を与える機能を持つ」と類似したような指摘している。

曹(2000:31-32)は、相手の反応を手がかりにして分析した結果、次のような三つの機能に分類できるとした。

#### ①相手伺い

「相手伺い」の言いさしは、話者自身のことばが相手にきちんと認識されているか、相手の反応を伺うものである。

#### ②話者思考中

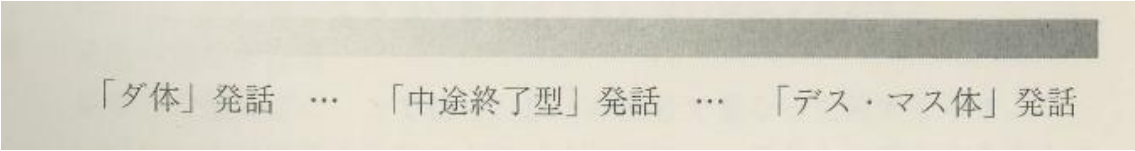
「話者思考中」の言いさしは、話者自身がこれから話す談話を整理するため、あるいは話すことが思い出せず、思考が続いていることを示す。

#### ③ターン譲り

「ターン譲り」の言いさしは、相手からの割り込みがあり、途中で話が中断され、ターンを譲るものである。

陳文敏(2000:138)は次の図 2-1 に示すように、『ダ体』発話寄りとも『デス・マス発

話』とも解釈可能で、その両者の間に介在しており、話し相手との心的距離の調節においては『親』と『疎』の調節機能を備えている発話である」と説明している。



「タ体」発話 … 「中途終了型」発話 … 「デス・マス体」発話

図 2-1 会話における発話のスピーチレベルの構成 陳文敏(2000:138)

永田(2001)では、以上の研究で言及されなかった「談話」という観点から言いさしを分析している。永田(同上)によると、接続による言いさしのうち「ケド」で終止するものについてはそれを「談話」という単位の中でとらえることによって、この表現形式が従来指摘されてきた「やわらげ」などといった表現効果にかかわる機能の他に談話展開に関する機能を持つとした。

具体的には、以下の二つの機能を持つとした。

- ① 言いさしはトピックの展開に関して、提示された発話内容がその後のトピックとなることを明示する機能を持つ。
- ② turn-talking に関して、ケドによる言いさしは従来指摘されるように turn を譲渡するだけでなく、その後の談話の進め方を完全に相手に委ねてしまうことを示す機能を持つ。

さらに、李恩美(2008)は、永田(2001)の談話における言いさし文の機能という観点をさらに推し進め、言いさし文を「中途終了型発話」と呼び、その機能を「働きかけるタイプの発話（情報要求、情報伝達）」と「反応するタイプの発話（情報応答、あいづち）」の二タイプに分け、次の表 2-2 のような機能をもつとした。

表 2-2 言いさし文の機能

<p>情報要求 (Q:Question)</p>	<p>相手から何らかの情報を引き出そうとする発話「ですか?」などと明らかに疑問形式で相手に働き掛けているもの以外にも、相手の言った内容の分からない部分を確認して聞き出すための発話も、情報要求とみなす。</p>
<p>情報伝達 (S:Statement)</p>	<p>自分から何らかの情報を伝えることで相手の反応を引き起こす発話。話し手が自分の持つ情報や意見、感想などを自ら積極的に伝達するものである。</p>
<p>情報応答、情報提供 (A:Answer)</p>	<p>相手の情報要求発話に対して情報で応答する発話。対話相手の情報要求に対して情報を提供するものである。</p>
<p>あいづち (B : Backchannel)</p>	<p>相手の情報伝達発話に対して反応を示す発話。相手の情報伝達や、情報応答に対して、「聞いている」「理解している」ということを表したりすることによって、働き掛けるタイプの発話(情報要求、情報伝達)に反応しているものである。</p>
<p>その他 (O:Others)</p>	<p>独り言や、相手の発話に割り込まれることによって途中で終了された発話で、その発話の機能が分からない発話などがある。</p>

李恩美(2008:132-133)

本研究では、基本的には永田(2001)や李恩美(2008)と同様の観点を取る。ただし、永田(同上)では、「ケド」で終わる言いさし文のみを取り扱っているため、本研究の言いさし文の機能を全て網羅することはできない。李恩美(同上)の分類は言いさし文を網羅的に分類しており、本研究もその分類を中心にして言いさし文の機能を分類する。ただし、本研究では実質的発話のみを対象とするため、相槌については言いさし文の機能には含めない。

### 2.1.3 各観点からの言いさし文に関する研究

#### (1) 日本語テキストを用いた考察

高田・福盛(2001)の研究では、教科書分析と母語話者及び日本語学習者の発話実態調査の二段階に分けて行われた。同論文では、非言い切り文の中で、特に最も多く提示されている「が・けど」に焦点を当て、その機能を細かく、「前置き用法」、「提題用法」、「間接的働きかけ用法」、「遠慮型直接働きかけ用法」、「共話的用法」、「逆接用法」、「対比用法」の七つに細かく分類し、出現数を統計した。その結果、日本語教科書においては、非言い切り文が少なからず提示されているが、教科書によって提示されている頻度がかかなり異なることがわかった。また、「が・けど」が現れやすいと思われる依頼の場面と忘れ物の問い合わせの場面の会話シートを用いて、各レベルの学習者及び母語話者に発話アンケートを試み、実際に話すように書いてもらうという調査をした結果、次の二点が観察されたとしている。

- ①学習者の習得レベルが上がるにつれ、非言い切り文の使用頻度が上がってくる。
- ②学習者の使用頻度は母語話者を大きく下回る。

陳文敏(2008)では、種類(総合、聴解、会話)とレベル(初級と中上級)の異なる18冊の異なる日本語教科書に出現した合計339個のモデル会話から136個の中途終了型発話を抽出して、分析が試みられた。その結果、次のようなことが明らかになったとしている。

I 中途終了型発話の平均出現率は40.1%であった。

II 種類別では、聴解教科書の48.1% > 総合教科書の35.3% > 会話教科書の30.2%のように、差が見られた。

III レベル別の出現傾向に関しては、以下の結果となった。

①初級教科書では13.4%の出現率であるのに対して、中上級教科書では86.6%であった。

②表現形式で見ると、初級教科書で観察された表現形式は少なく、しかもその多くが「述部が省略されている発話」に集中している。一方、中上級教科書の方は表現形式が多岐にわたり、「複文の主節が省略されている発話」にも「述部が省略されている発話」にも、それぞれ五割程度見られた。

③「会話の基本レベル」別に調べると、初級教科書では「デス・マス体ベース」が82.9%と圧倒的に多く現れたが、中上級の教科書では「ダ体ベース」、「デス・マス体ベース」

ともに均等に観察された。しかし、内訳をみると、「条件形表現:たら」のように、「ダ体ベース」に現れやすいものには偏りがあった。

上記の先行研究の結果から、言いさし文の使用は学習者の習得レベルが上がるにつれて使用頻度が上がることが明らかになっていること、教科書についても中上級教科書では言いさし文の出現率が上がっていることが明らかになったが、陳文敏（2008）の結果から分かるように、実際には言いさし文の表現形式には偏りがあることが判明した。本研究では、日本人の自然会話を分析することで、どのような言いさし文が使用されているのかを明らかにしていきたい。本研究の結果を活かせば、より偏りの少ない言いさし文指導の開発につながると期待される。

## (2)日本語母語話者による言いさし文の使用調査

母語話者による言いさし文の使用状況に関する研究には、荻原の一連の研究(荻原2000、2001、2011)と陳文敏(2000)、杉山(2001)、山路(2009)などがある。

荻原(2000)では、一人のインタビュアーによる十六人の日本語母語話者に対するインタビュー資料から、文として完成されなかったものを抜き出し、それに対する話し相手の「察し」がどのように現れているかが分析された。その結果、言いさしが見られたほとんどの箇所、話し相手の何の確認もなく、会話が円滑に進んでいた。すなわち、日本語のコミュニケーションにおいては、話し相手の役割が非常に重要で、会話が成立するためには、言いさしに対する「察し」が欠かせないということが明らかになった。

陳文敏(2000)では、初対面の日本語母語話者の自由会話を資料として、「中途終了型発話」の表現形式及びその生起の理由について調査・分析が行われた。陳文敏(同上)は、発話の構文及び音声的な側面から、発話の表現形式は大まかに次の三種類にまとめられると指摘している。

- ①複文の主節が省略されている発話
- ②述部が省略されている発話
- ③形式は「ダ体」発話だが、音声的には「ダ体」と認められない発話

また、以上の表現形式の生起理由を言語文脈的要因と心理的要因に分けて、次の六つに分類した。

## (1)言語文脈的要因

- ①会話の流れへの依存
- ②会話参加者にある共通経験や知識への参照
- ③「と／って」という表現形式による代用
- ④話し相手のあいづちによる中断

## (2)心理的要因

- ⑤デス・マス呈示の回避
- ⑥明言の回避

さらに、同論文では、上述の「④話し相手のあいづちによる中断」以外、「中途終了型」発話の生起はいずれも話者自身の行動によることから、話し相手への配慮や心的距離の調節などの機能が強いと指摘されている。

萩原(2001)では、「言いさし割り込み」の連鎖について調査を行うことで、話者のコミュニケーションの管理の方法が具体的に示されている。この研究から、割り込みは、必ずしも一方的な行動や、力関係を示す攻撃的行為ではなく、会話を盛り上げたり、強調したり、不明瞭さを無くしたりすることで、より充実した会話を成し遂げる機能を持つことが認められている。

杉山(2001)では、三つの対談番組から七本と健康について啓蒙する番組から三本の談話資料を収集して、陳文敏(2000)の研究を検証し、表現形式及び生起の理由とともに、ゲストとインタビュアーの会話の際にみられた会話ストラテジーを探った。検証の結果としては、番組進行のストラテジーとして、取り上げられた対談番組から多くの中途終了型発話を確認され、日本人の通常会話に注目した陳文敏(2000)の研究結果と一致していた。ただし、興味深いことに、健康について啓蒙する番組のほうでは、専門家が話し、聞き手が聴くという形で、会話参加者のやりとりは文末まで明確にされ、改まった雰囲気を作り出し、場面差による中途終了型発話の使用を制限していることが分かった。

山路(2009)は職場の同僚による昼休憩時の雑談を資料に、会話参加者を勤務年数及び年齢で丁寧体話者と普通体話者に分け、中途終了型発話が待遇度の調整とどう関わっているのかについて分析し、その特徴を以下の八つに分類した。

- ①自分の先行発話の補足

- ②引用+「って」／擬音語・擬態語(+「って」)／既出動詞の省略
- ③他の話者の発話の補足・先取り・繰り返し
- ④依頼・指示・促し・提案の省略
- ⑤反論・言い訳の省略
- ⑥想像してもらえるであろう意見・感想の省略
- ⑦個人的な意見・感想の明言回避
- ⑧省略とも付加とも考えられない、テ形終了

その上で、各会話参加者のグループにおける人間関係の観点から中途終了型発話の使用状況を分析した結果、次の六点が観察されたとしている。

- ①丁寧体話者のうち、親しさを優先とする傾向がある話者には、普通体話者より多くの中途終了型発話が見られたが、丁寧さを優先とする傾向がある話者の中途終了型発話は、普通体話者と同じ程度であった。
- ②話題の主たる話し手となる話者は、ほかの話者が知らない情報について説明することが多く、冗長さを避けるため、自己発話の補足タイプと引用+「って」／擬音語・擬態語(+「って」)／既出の動詞の省略タイプを用いていた。
- ③主たる聞き手となる話者は、ほかの話者への理解や理解確認・同意を示すために、ほかの話者の補足・先取り・繰り返しタイプを用いていた。
- ④グループの中で、指示を受けることが多い話者は、指示の理解を示すために、ほかの話者の発話の補足・先取り・繰り返しタイプを用いていた。
- ⑤グループの中で、地位が一番下にある話者は、ほかの話者に行動を要求することがあまりないため、依頼・指示・促し・提案の省略タイプはほとんど用いていなかった。
- ⑥丁寧体話者のうち、下の立場の者は反論や言い訳を上の方の立場の者に直接的には向けにくいため、反論・言い訳の省略を多用する話者もいた。

荻原(2011)では、日本語母語話者同士の自由会話を資料として、言いさしを「形式的な言いさし」と「実質的な言いさし」に分け、言いさしの形態と言いさしについてその省略部分の推量に必要な負担度という側面から考察を進められた。結果的には、「実質的な言いさし」は全言いさしの半数以上を占めていた。また、「形式的な言いさし」は推量の負担が少ないものであり、友人関係のような親しい話者間で頻繁に使用され、効率的な会話によりリズム感を与え、会話促進機能として働いていた。それに対して、推量負担がより大きい「実質的な言いさし」は先輩対後輩のような改まった人間関係の方

が多く使用されていた。つまり、共有知識が少なくても、「実質的な言いさし」は解釈可能である。また、「実質的な言いさし」といっても、多くの場合は名詞止めなどのような文法知識や談話の中に省略部分を理解するための鍵があり、それも日本語の言いさしが出現しやすい一因であると言える。さらに、注目されるのは、使った自由会話の四割以上が言いさしであるが、その大半が推量の負担度が小さいものであったという点である。これまで指摘されてきた、共有知識を駆使して察するために省略部分を読み取るような言いさしはそれほど多くないことが明らかになった。

以上の先行研究から、日本語の言いさし文についての研究は数多く行われているが、言いさし文と共話との関わりを詳細に論じた研究は殆ど存在しないことがわかった。本研究では、日本語の言いさし文を共話との関わりから詳しく論じていくことにする。

### (3)日本語学習者による言いさし文の習得研究

鮫島(1998)は、談話完成テストを使って、旅行経験、もしくは、語学研修などの目的で日本に滞在したことがない台湾の専門学校で日本語を専攻している 18 歳から 22 歳までの初級後期、中級前期及び中級後期の学習者合計 232 人を対象に、調査を行った。調査対象者の「依頼」、「断り」、「謝罪」の発話行為から文末表現を観察した結果、学習レベルが上がるにつれて、まず依頼型では、「～てください」という直接的な依頼型の漸減と「～ます／～ました／～です」が漸減し、「～てしまいました」という後悔の気持ちを表す表現が漸増し、中級後期になると、文末に「～けど／～が」を付加することによって、謝罪の理由を和らげ、丁寧さを表そうとする用法が増えることが明らかになった。全体的に言えば、学習者のレベルの向上につれて、母語話者の特徴に接近していくことが観察されている。

曹(2002)は、KY コーパスと呼ばれる OPI テープを文字化した韓国人日本語学習者の言語資料をデータとして、学習者の日本語能力を初級、中級、上級、超上級の四段階に分け、言いさしの習得過程を明らかにした。曹(同上)によると、言いさしは文の完結の有無によって、「完結の言いさし」と「非完結の言いさし」に分けられる。また、機能としては、「①情報要求(何らかの情報を与えるよう求める)」、「②行為要求(何らかの行為を行うよう求める。または勧める)」、「③注目要求(相手の発話の一部を繰り返し表現し、確認したり、話者自身の発話が正しいか、確認する)」、「④注目表示(相手の発話を



認識したことを表示する)」、「⑤情報提供(事実内容などを伝える。客観的事実に関する質問に対する答え)」、「⑥意思表示(話者の感情、意思などを表明する。それらに関する質問への答え)」、「⑦発話補完(聞き手に正しく理解してもらうため、または言い足りないことを言うため、補足、前発言の理由に言及する)」の八つが観察された。曹(同上)の調査結果では、以下の三点を明らかになった。

- ①言いさしの使用頻度については、学習レベル別での有意差は見られなかった。
- ②言いさしの種類による使用頻度については、学習レベル別での差が見られた。完結の言いさしでは、上級レベルでの使用頻度が高くなり、超上級レベルになると減る傾向がある。さらに非完結の言いさしでは、上級レベルでの使用頻度が低くなり、超上級レベルになると高くなる傾向にあった。
- ③完結の言いさしの使用状況については、学習レベルが上がるにつれて、注目要求と注目表示の出る頻度が低くなる。発話補完の機能は中級レベルになると出る頻度が高くなるが、中級レベル、上級レベル及び超上級レベルでは有意差が見られなかった。また、情報提供では、上級レベルになると使用頻度が高くなる一方、意思表示の機能は中級レベルになると使用頻度が高くなる傾向にあった。

以上の結果について、曹(同上)は、初級レベルの学習者はまだ日本語能力が十分ではないため、あるいは、相手との意思疎通のため、確認作業を行う注目要求と相手の発話を認識したことを表す注目表示を多用するのではないかと指摘している。また、中級・上級・超上級レベルになると、自由に意思疎通ができるためか、注目要求と注目表示があまり使用されないのに対して、情報提供と相手の発話をきちんと理解した発話補完、及び話者の感情を表す意思表示が多く使われていると述べている。

#### (4)日本語母語話者と日本語学習者の言いさし文使用状況の比較

生駒・志村(1993)は、「断り」という発話行為に絞って、英語を母語とする学習者が日本語を使う時、母語の影響によるプラグマティック・トランスファー(語用論レベルの転移)が起こるか否かについて、調査した。日本語と英語の母語話者、及び英語を母語とする日本語学習者各十名ずつに、談話完成テストで被験者に「断り」が必要になるようないくつかの状況に置かれた場合に、どう答えるかを書いてもらった。中途終了文に関する研究結果においては、日本語母語話者が「間接的な断り」を多用しているのに対して、英語母語話者と日本語学習者の方は「直接的な断り」を多用していたとしている。生駒・志村(同上)は、日本語母語話者は、「日曜日はちょっと……」など、文末の

「……できません」という直接的な断りを避ける傾向があると例を示して説明している。つまり、プラグマティック・トランスファーの影響によって、日本語学習者にとって、中途終了文はその習得が難しいと言える。

熊井(1992)では、「依頼行動」と「断り行動」に絞って、大学の日本人学生五名と留学生十四名を対象に、ロールプレイを用いて調査が行われた。その結果、依頼の場合では、「のだ」＋「け(れ)ど(も)」という言いさしの形が多いのに対して、留学生は、「のだ」＋「言いさし」の形がまだ十分に使いこなせず、断定的な印象を与える言い方になっていることが明らかになった。また、断り表現における言いさしの出現率も日本人学生より少なかった。つまり、留学生は言いさしを使って表現を和らげ、事情を相手に察してもらおうとする工夫はあまりしなかったと言える。

柏崎(1993)は、実際の会話を録音して、大学の職員に対して行われた日本人学生及び留学生の依頼や要求表現を中心に、両者の異なる点と生じ得る問題などについて比較し、分析した。柏崎(同上)の研究結果によると、母語話者の場合では、用件を言う時、「～は」、「～なんですけど」など言い切らない形をとる場合が多く、発話末の発音を伸ばすような傾向が観察された。一方、留学生側では、言い切りの表現が多くみられ、母語話者のような発話末尾の音を伸ばす現象も少なかった。この結果を受けて、柏崎(同上)は、留学生にとって、場面状況を把握して、どこまで言語化したらよいのか判断するのが難しく、母語話者が省略するところまで言語化するため好ましくない印象を与えてしまう恐れがあるとの指摘をした。

陳文敏(2001)は、初対面の日本語母語話者と台湾人日本語学習者の自由会話を分析資料として、母語話者と学習者の「中途終了型発話」の使用上の相違について分析した。陳文敏(2001)の研究によると、母語話者の場合、表 2-3 のように、「中途終了型発話」の生起には「統語的」要因、「談話的」要因、「心理的」要因の三つが観察された。一方、学習者の場合、「中途終了型発話」の使用は見られたが、「統語的」要因と「談話的」要因に集中しており、「心理的」要因によるものはほとんどなかった。

表 2-3 日本語母語話者が言いさし文を使用する理由及び目的一覧

要因	理由	目的
統語的	統語的に復元できるので後続要素を略す	会話の冗長性を減らす
談話的	意味理解に必要なコンテキストがあるので後続要素を省く	
心理的	失礼にならないように言い切りを避ける	話し相手への配慮

陳文敏(2001:180)

荻原(2010)は、インタビュー資料を使って、言いさしは日本語母語話者のコミュニケーションだけの特徴なのかについて、接触場面における中国語を母語とする日本語学習者の言いさしの使用状況を調査し、荻原(2001)の結果と比較した。結果としては、学習者と母語話者の言いさしの使用には明確な差は見られなかった。荻原の研究によると、母語に関係なく、インタビュー参加者のどちらかが一方的に言いさしを使用すると、その会話相手も言いさしで対応する傾向が見られ、お互いに言いさしを使用しながら、会話を進める傾向があったという。つまり、たとえ母語話者が頻繁に言いさしを使っても、学習者がその使用能力を持っていなければ、対応は不可能であるとした。もちろん、その逆も同じである。さらに、会話中でお互いに言いさしを使用するという事は、それによって、円滑にやりとりができ、学習者はきちんと会話相手からの言いさしを理解しているとした。以上の結果から、「言いさし」を含んだコミュニケーションが母語に関係なく、日本語コミュニケーションにおける一つの特徴であり、今まで指摘されてきた日本人の高コンテキスト文化の中で見られた現象ではないと結論づけた。

荻原(2012)は、中国語を母語とする日本語学習者同士の十五分間の自由日本語会話を資料として、荻原(2011)と比較し、次のような結果を得た。まず、言いさしの使用頻度の面からは、学習者と母語話者には差がなく、難しいものではないと考えられた。次に、学習者にとって、使いやすい言いさしは、「名詞止め」による質問及び応答である。それは語彙確認のストラテジーとしても定着していた。また、「助詞終わり」の使用も比較的によく使用されていたが、母語話者と比べてやはり使用頻度は少なかった。理由としては、母語の中国語には助詞に当たるものがないため、その使用が困難であるためと考えられた。一方、学習者にとって、使いにくい言いさしとしては、形態別では、「倒置」、「付加」で、表現別では、「テ形終わり」であった。母語である中国語は、SVO言

語であることから、「倒置」や「付加」による言いさしは、日本語でも倒置することで中国語と同じ語順になるので、学習者にとっては使いやすいと予想されるが、その使用率はともに母語話者の言いさしの形態別使用頻度のわずか 3%しかなかった。しかし、このような使用上の難しさがありながらも、解釈の面では特に問題は見られなかったとしている。

朴(2012)では、「断り発話」に絞って、談話完成テストを使い、上下、親疎の異なる人間関係における文末表現の選択に関する調査がなされた。また、学習環境に影響を与えるかどうかを確認するため、被験者を中国の大学に在学中の中国人日本語学習者と日本の大学に在学中の中国人日本語学習者に分け、調査が行われた。比較対象として、日本語を母語とする大学(院)生にも同じ調査が実施された。調査結果から、日本語母語話者は断り発話において、異なる人間関係によって、「言い切り」と「言いさし」を使い分けていることがわかった。中国の大学に在学している学習者では、異なる人間関係に関係なく、「言い切り」よりも「言いさし」のほうが多く使用されていた。また、「言いさし」の表現形式は特に偏りが見られず、どの人間関係においても、いくつかの表現形式が選択されるという「分散型」の使用傾向が観察された。さらに、日本の大学に在学中の学習者も中国の大学に在学している学習者も対人関係に関係なく「言いさし」を多く使っているものの、表現形式の選択においては、その使用上の差異が観察され、学習環境の違いが一因ではないかと指摘された。

陳宜萱(2013)では、日本語母語話者と中上級の台湾人日本語学習者を対象に、「が」、「けど」、「から」に注目し、アンケートとフォローアップインタビューで、文末省略使用上の差異を調べ、また、それがどのように会話授業に導入されているかを知るため、台湾の大学で使われている教科書も併せて調査が行われた。調査の結果、まず、台湾の大学で使われている教科書では、「が」、「けど」、「から」の文末省略は取り上げられることが少なく、それに関する説明も不足していることがわかった。続いて、文末省略「が」、「けど」、「から」のアンケート調査及びフォローアップインタビューから、母語話者はその使用の選択基準がはっきりしているのに対して、学習者はそうではなく、明確な選択基準が見られず、文末省略の代わりに、「言い切り」の使用や誤用が多く見られた。また、母語話者は文末省略を使用する時、「人間関係」だけではなく、「談話の場面」、「談話の内容」も考慮に入れていたが、学習者は、「人間関係」だけを選択基準として

いることがわかった。

これまで、言いさし文に関しては、さまざまな観点や調査方式から研究、分析が行われてきた。日本語の会話における重要性が示されているだけでなく、学習者にとって習得しにくいものであることが分かった。しかし、ほとんどの研究は談話完成テスト(鮫島 1998)、アンケート調査(朴 2012)、アンケート及びフォローアップインタビュー調査(陳宜萱 2013)を分析資料とし、接続助詞で終わるものや特定な発話行為に注目するものであった。アンケート調査と談話完成テストは短時間で多くの研究資料を収集できる利点があるが、協力者による自由記入のため、自然会話との間にずれがあり、その分析結果は使用実態が反映されるとは言い難い。したがって、より多くの自然会話による言いさし文の実態を解明する研究が求められている。

## 2.2 言いさし文に関する対照研究

### (1)日本語と韓国語の対照研究

曹(2004)は日韓両言語において、「述部有り」の言いさし表現がどのように相互に対訳されているか、つまり、音声の言いさし表現がそのまま字幕でも言いさし表現に対訳されているか、あるいは言い切り表現に対訳されているか、その対訳パターンを分析した。その結果、日韓両言語の「述部有り」の言いさし表現はともに切り口上を避け、文末をにごす役割を持つ要素が多く含まれていることがわかった。さらに、韓国語と比べ、日本語の方が言いさし表現を好んで使っている対訳パターンが多く見られたことから、韓国人ははっきりと直接的な言い方を好むのに対して、日本人は婉曲、間接的な言い方を好むという言語観が反映されていると結論づけた。

李恩美(2010)は日韓の初対面の社会人同士の自由会話を資料として、「発話文全体のスピーチレベル」と「語彙のスピーチレベル」の観点から、両言語における中途終了型発話<sup>1</sup>の使用様相を比較した。結果としては、まず、使用率の面では、日本語がやや高く、中途終了型発話がコミュニケーション機能において韓国語より積極的に働いていた。また、両言語とも多くの中途終了型発話の使用によって、対話相手への待遇態度をぼかす傾向が見られた。相違点としては、日本語では、発話文全体のスピーチレベルの使用を通して、対話相手への待遇機能が非明示的に働いていた。一方、韓国語では、語彙の

---

<sup>1</sup>李恩美(2010)は言いさし文に関して、「中途終了型発話」という用語を使う。

スピーチレベルの使用によって、上下関係を反映していた。さらに、日本語の中途終了型発話は韓国語よりヘッジと共起しやすいということから、よりポライトネス・ストラテジーの機能を果たしていることを指摘した。

## (2)日本語と中国語の対照研究

日中の言いさし文に関する対照研究は、多くは見られない。本論文では、数少ない対照研究である李曉博(2008)と荻原(2013)を概観する。

李曉博(2008)は、日中の映画、ドラマの中の言いさし表現を分析した結果、日本語の言いさし表現は「丁寧体」レベルの会話でも、「普通体」レベルの会話でも用いられやすいが、中国語の場合では、丁寧に扱わなければならない場合は、完全文を用いる傾向が見られた。言い換えれば、言いさし表現は日本語においては、丁寧度の高い表現だと言えるが、中国語においては、丁寧度の低い表現として捉えられている。これは、日本語の相手に察しを求め、言語に頼らない言語観と、中国語の物事をはっきり言うのをよしとする言語観が反映されているためだと結論づけている。

荻原(2013)は、中国語で行う自由会話を荻原(2012)の分析結果と比較して、次のような結果を出した。

- ①言いさしの使用頻度においては、中国語の方は約 30%少ないが、使用形態に関しては、両言語とも質問や質問への応答、繰り返しをする時のストラテジーとして言いさしを多用している。ただし、倒置や付加が少なく、言いさしとしては使い難い形態と考えられる。
- ②言いさしの表現形式では、両言語とも名詞止めが一番多く、繰り返しによる確認など効率的な会話のためのストラテジーとして利用されている。
- ③述部抜けの言いさしに関しては、言葉を言い濁し、言いにくい内容を聞き手に補完してもらった例が見られた。話者にとって負担のある内容を明言せず言いさしにして、その理解を聞き手に委ねるという点は両言語ともにある。
- ④明言せず、相手に理解を委ねるという言語行為については、両言語ともみられる。しかし、日本語会話はそれによって聞き手の心理的負担を軽減しているのに対して、中国語会話は話者自身の心理的負担を軽減するためのストラテジーとして多用されている。

以上の対照研究を通して、日中及び日韓の異なる言語観が解明された。その相違は日本人とは異なる学習者の日本語での言いさし文使用に直結する可能性があると思われる。しかし、日韓の対照研究と比べて、日中対照研究はそれほど進んでいないのが現状である。李曉博(2008)の研究を通して、日本語の会話を成功させるためには、話し相手への察しを欠かしてはならず、中国語では、察しよりも、直截的な話し方のほうが好まれる傾向があることが明らかになった。しかし、使用されたデータは映画・ドラマのシナリオであり、脚本家が作ったものであるため、その結果は実際の状況を正しく反映しているとは言えない。一方、荻原(2013)では、自由会話を使い、日中両言語の言いさしの文末を取り上げ、その種類、表現別使用頻度などについて調査が行われた。その結果、両言語とも言いにくいことを言いさしを使うことで相手に自分の意図を読み取ってもらう言語行為が観察されたが、日本語会話ではそれによって話し相手への配慮を表すのに対して、中国語会話では自分の逃げ場を作り、心理的な負担を話し相手に委ねる傾向があるという差異が見られた。しかし、観察された部分は文末形式に限られており、親疎関係なども考慮されていないため、さらに詳しく分析する必要があると思われる。

## 2.3 日本語の共話に関する先行研究

本研究では、言いさし文を共話という観点から分析を行うため、この節では共話についての先行研究を概観する。

### 2.3.1 共話の定義

「共話」の概念については水谷信子(1980)によってはじめて導入された。水谷信子(1980:32)は、「共話」について、次のように述べている。

一人が自分の話を終りまで述べて、次に他の一人が改めて自分の考えを述べ始めるより、二人が互いに補い合い、はげまし合いながら話の流れを作っていく態度が基本になっている。この意味では dialogue(対話)という語はふさわしくない。対話でなく、共話とでも言いたいような形である。

また、水谷信子(1993:9)においても、「共通の理解を前提とし、いちいち相手の聞く意思を確かめながら話すことであった」としている。

岡田安代(1991:11)では、日本語の会話を「対話」と「共話」に分け、以下のように説明している。

二人の人が話をする場合、たとえば、キャッチボールをする時のように、二人が向き合って、互いに相手のボールを受け取っては投げ返すような話し方を、「対話型」とするならば、バレーボールのゲームのように、二人が同一の方向を向いて互いに相手の意図を相手の立場にたつてくみ取りながら話をする話し方は、「共話型」である。以下の図 2-2 に示す通りである。

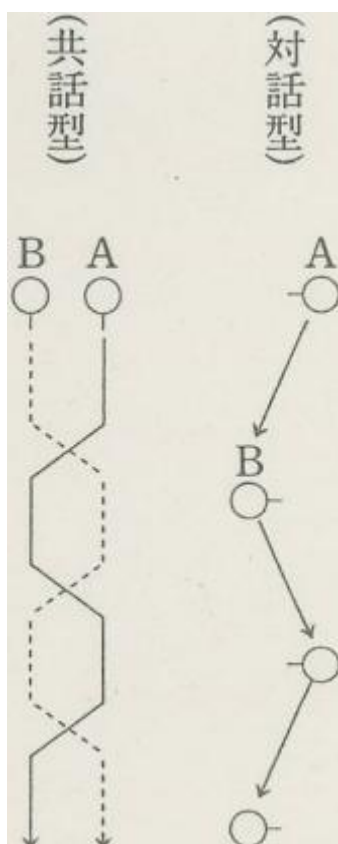


図 2-2 会話における「共話」と「対話」のモデル

岡田安代(1991:11)

### 2.3.2 共話の表現形式

共話の表現形式について論じた研究については、黒崎(1995)、伊藤・矢野(1998)、笹川(2007)がある。

黒崎(1995)は、共話を「先取り型」、「補足型」、「助け舟型」、「言い換え型」、「共感型」の五つに分けることが可能だと指摘している。



伊藤・矢野(1998)は、共話を「連話」と「合話」の二種類に分けた。「『連話』とは『連歌』のように一つの文章を対話者が部分的に作っていくもの」であるのに対して、「『合話』とは合唱のように(ほぼ)同時に、(ほとんど)同じ文章の断片を両者が発話するもの」と述べている。

笹川(2007)は黒崎(1995)などの研究をふまえて、共話を「笑い、相槌、パラフレーズ、オーバーラップ」、「文の後半をもう一人の話者が引継ぎ、文を完成させる共話」、「推測などにより相手の文を添加する共話」、「相手が言葉に言いよんでいる時などに、文を引き継ぎ助ける共話」、「何度か、ターンを交換しながら、共感を示す発話連鎖による複雑な共話」、「自分の話題と相手の話題を交互にとりあげる談話レベルでの共話」に再分類している。

### 2.3.3 共話の機能

共話の機能について論及した研究として、黒崎(1995)、笹川(2000)などがあげられる。

黒崎(1995)の研究によると、共話の機能は相槌に類似していることが多いが、同じものとは言えない。その違いは共話は相槌のように適当に打つことができない点にある。共話を成立させるためには、相槌以上に身を投じる必要がある。「共話」の形を利用した問いかけ表現が意識的に相手との共感的な雰囲気高めるのに効果的な表現であり、一種の気配り表現として使用されているとしている。

笹川(2000)では、実際の大学院のゼミ場面を取り上げ、対話と共話の観点からコミュニケーションブレイクダウンの修復過程を考察した。笹川(2000)の分析によると、ブレイクダウンが発生した場合、発話者が発話を短く切り、言いさし文回数を増やして相手の合いの手を待ち、そして、もう一方の会話参加者も相手の言いさし文の「引き取り」をしたり、「言い換え」をしたり、「繰り返し」をしたりするなどさまざまな手段を使って、共話的な話し方をとる場合、ブレイクダウンの修復が速やかになる。ただし、合いの手の中でも、前述の黒崎(1995)の研究と類似しているが、適当なところに打つことができる「ハイ」、「エエ」のような単純な相槌は修復には繋がりにくい。一方、話し方が「対話」的になると、言い切りの形が多用されており、自分の言いたいことを完結させてからターンを相手に譲るというやり方は一回の発話が長くなり、ブレイクダウンが修

復されない傾向がみられる。

嶺川(2001)では、水谷信子(1993)が指摘した共通理解を前提とする場合が共話になり、その反対の共通理解を前提としない場合が対話になるという理論について、ゼミ談話を使って検証した。興味深い結果としては、共通理解を前提としない場合でも、共話的な話し方を取る傾向がある。嶺川(2001)の分析をまとめてみると、以下の場合がその使用条件である。

- ①見解に関係がない場合。
- ②見解に関係があるが、見解が話し手自身のものではない場合。
- ③見解に関係があり、かつ見解が話し手自身のものであるが、自分の見解に対する自信のなさ、または相手との見解の対立を鮮明にしたくないなどの何らかの理由がある場合。

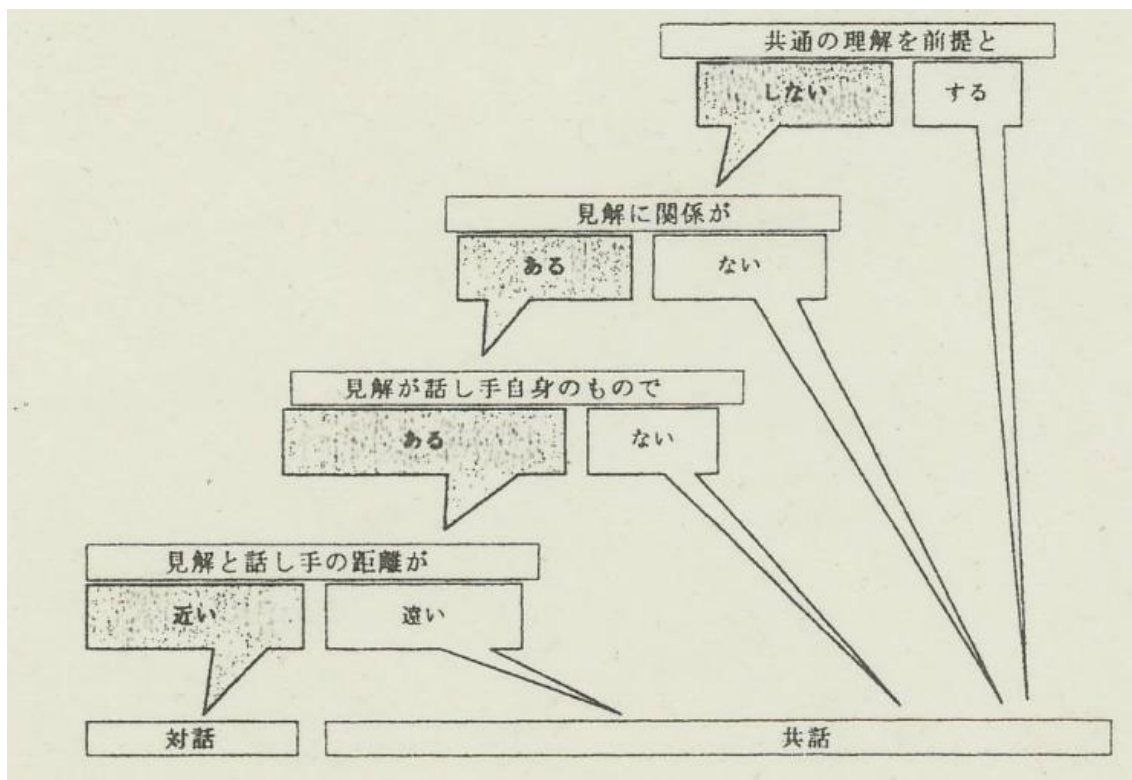


図 2-3 日本語母語話者のゼミにおける対話の使用条件

嶺川(2001:48)

ザトラウスキー(2003)では、共同発話を「二人以上の話者が作り上げる統語上の単位(句、節、文、複文等)」と定義づけ、「どの参加者の立場から作り上げられるのか」と「従来の主観性、人称制限、視点などどう関わっているのか」の二つの観点から考察が行われた。共同発話を作る参加者が連携し、他の参加者に向けて話す共同発話の場合

では、先の話者と後の話者それぞれ一人が連続してその発話をしていても視点、主観性、立場などの観点から生じた不整合はないことが特徴である。また、共同発話を作る参加者が他の参加者に向けて話さない共同発話の場合では、談話の相互作用において、後の話者は先の話者の立場と自分の立場の両方から発話できることがわかった。その分析結果を次のようにまとめている。

①先の話者の立場で共同発話を成立させる場合は、後の話者は先の話者の内的世界に入ることが出来る。後の話者は先の話者の代わりに意思表示、情報提供などを用いて「共同発話」を成立させる場合では、先の話者がその内容を連続して言ってもおかしくないが、後の話者が連続して言えない。これに対して、共同発話の内容が第三者に関する場合は、客観性を持つので、先の話者でも後の話者でも連続して言うことが可能である。

②後の話者の立場で共同発話を成立させ、その発話機能が感想や「よね」、「でしょう?」による確認・情報要求の場合には、先の話者の内面を表す要素がなければ、後の話者が一人で連続して言うことが可能である。しかし、先の話者が一人で連続して言う場合では、その発話機能が情報提供・同意要求に変わる。

③後の話者の立場で共同発話を成立させ、その発話機能が確認や疑問形式による確認・情報要求の場合には、先の話者の視点からでも後の話者の視点からでも発話することが可能である。しかし、後の話者が先の発話を確認する内容を導いたことを示す「あーあ」、「じゃあ」や疑問形式を使う場合には先の話者が連続して言うことができない。

このような、意志を表す表現や思考動詞、「行く」の使い方など従来日本語の文法研究では説明できないものの、実際の会話例ではよく観察され、後の話者が先の話者の立場に立ち、またはその視点から発話することができ、必要性に応じて人称制限を越えることも可能である。

ザトラウスキー(2003:62-63)

古内(2003)では、「共同発話」という用語を使い、日本人大学生を「女性友人同士」、「女性初対面同士」、「男性友人同士」、「男性初対面同士」、「異性初対面同士」、「異性友人同士」の六つの組み合わせにして行われた合計十八組の日常会話を資料に、会話参加者における男女及び親疎の違いによる共同発話の特徴を調べた結果、全発話数に対する共同発話の出現率はわずか2.3%で、日本人大学生の日常会話における共同発話の使用はそれほど多くはなかったことが報告されている。また、共同発話を「先取り」、「補足」、

「助け舟」、「質問」、「感想」の五つの機能に分け、会話パターンにおける機能別の出現数についても調べ、有意傾向が見られた「異性初対面同士」と「異性友人同士」の二パターンを取り上げ、考察が行われた。「異性初対面同士」においては、女性話者より男性話者の方が多く後行発話を行い、「先取り」の機能が多く使われた。一方、「異性友人同士」においては、女性話者の方が多く後行発話を行い、「補足」の機能を多用する傾向が見られた。

従来行われてきた「共同発話」に関する研究が、友達同士や知識・経験を共有した者同士の会話、即ち最初から「共同発話」が生じやすい条件が整っている会話についての研究が多かったのに対し、佐藤響子(2004)では、初対面で上下関係がある(大学教官と学生)インタビュー場面での「共同発話」の使用実態をが考察対象とされた。この研究の分析によると、共通理解や共通体験を持つ者同士ではなくても、先行話者への情報補足、先行する文脈、または文法を手掛かりとするという三つの手段によって、「共同発話」を作り上げることが可能である。つまり、日本語母語話者は、疎の人間関係であっても、進行している会話の中に、さまざまな手がかりを見つけることによって、「共同発話」を成立させることが可能である。また、文法を手かがりとする手段に関しては、発話は後の話者が否定形式や否定疑問形式によって補完されることが多く観察されている。このような手段を取る理由に関しては、否定的な発言は優先応答体系の中では好ましくない応答と分類されるため、否定表現をしようとする先の発話者がペースを落とし、否定と呼応する副詞表現を使い、発話を緩和することができる。そこで、後の発話者が先の発話者の意図を察し、簡単に否定表現を補い、「共同発話」を成立させていくと論じた。

「共話」に関しては、水谷信子(1980)をはじめ、形式、議論場面、人称制限などさまざまな観点から研究されてきた。「共話」の日本語の会話における重要性は言うまでもない。しかし、これまで、「共話」に関する研究結果は、主にその機能や特徴に着眼するものが多く、語用論的な使用制限にはあまり言及されていない。黒崎(1995)では、「共話」の聞き手の発話は「度を越したり、タイミングを外したりした場合には、会話参加者としての気配りに欠けたものとなる恐れがある。」とし、「フォーマルな場面での気のおけるもの同士の会話では共話の割合が減る傾向がある」と述べている。つまり、黒崎(同上)では、場面や対話者との関係は「共話」形成に影響を与える可能性がある」と指摘

されているが、その詳細はまだ論じられていない。

日中の相槌の使用と共話の関わりについての研究として劉(2014)が挙げられる。劉(同上)は親しい女子大生同士日中母語話者各 20 人ずつに勧誘会話のロールプレイをしてもらい、合計日中各十組のデータを採集し、相槌の機能や表現形式を単独に見るのではなく、談話レベルから捉えることで、日中両言語の相槌の使用を分析した。分析手順としては、勧誘会話を「導入部」「勧誘部」「相談部」「終結部」の四つに分け、部分ごとに相槌の使用を分析した。その結果、中国語のデータでは、勧誘者は、被勧誘者の応答を待たずに、「導入部」と「勧誘部」の段階から勧誘内容に関する情報を提供し、勧誘発話を発しているのに対して、日本語の場合では、勧誘者が被勧誘者の相槌を待ち、被勧誘者の協力を受けながら、勧誘の発話を行っていることが多く観察されている。言い換えれば、中国語は情報の提供・獲得を中心としているのに対して、日本語は相手との協調性を保つことを大切にしていると言える。

さらに、劉(同上)では、両言語の勧誘発話の連鎖について、次のように指摘している。

中国語では、被勧誘者が勧誘者の情報提供を待たずに、自ら情報要求し、それに対して勧誘者が情報提供を行う B【情報要求】-A【情報提供】の連鎖の繰り返しが現れており、情報の獲得を重視する「対話」の性質が強いことが分かる。日本語では、被勧誘者が勧誘者の情報提供を待ちつつ、相槌を打つことで勧誘者に協力している A【情報提供】-B【相槌】という連鎖が特徴的で、会話参加者との協和を重視する「共話」の性質が強い。つまり、中国語と日本語における相槌の使用の違いは、中日の会話の連鎖の違いと深く関わりを持っていると結論付けられる。

劉 (2014:538)

劉(同上)の研究は、相槌を中心としたものであるが、本論文で扱う言いさし文についても同様に、共話との関わりが強いと考えられる。

#### 2.4 先行研究での議論を踏まえた上での本論文の研究課題

以上、「言いさし文」と「共話」に関する先行研究を概観した。これまでの「言いさし文」に関する研究では、日本語母語話者の使用状況の研究をはじめ、母語話者と学習者の比較、日本語教科書における言いさし文の導入状況の調査、他の言語との対照研究などさまざまな観点から研究されており、実りのある成果が数多く出されている。特に

これらの研究については人間関係の維持などに焦点をあてるものが多く、日本語教育や異文化コミュニケーションに多大な貢献をもたらしたが、次の点についてはまだ十分な議論は行われていない。

①これまでの言いさし文に関する先行研究は、インタビュー会話分析、談話完成テストやテキスト分析からの研究(荻原 2000、生駒・志村 1993、鮫島 1998、高田・福盛 2001、陳文敏 2008 など)が多く、日常会話における言いさし文に関する研究はまだ十分ではないのが現状である。日常会話における分析でも、言いさし文の分類だけに留まり、親疎上下関係が言いさし文に及ぼす影響について研究されていないもの(陳文敏 2000、2001)や親疎上下関係及び男女差については言及されているものの、文末表現の使用率などに限られ、その使用理由は明らかにされていないもの(荻原 2011、2012)がほとんどである。

②言いさし文が出やすい依頼表現や断り表現のような特定の発話行為(熊井 1992 など)や接続助詞など(朴 2012、陳宜萱 2013 など)に注目するものが多く、普段の日常会話における言いさし文の機能や言いさし文の全体像に関する研究はまだ十分とは言えない。

③実際の会話では、話し手が文末を言いさし文にした後、すぐに話者交代が行われる現象が多い。しかし、多くの先行研究では、話し手だけに注目し(陳文敏 2000、陳文敏 2001、山路 2009 など)、聞き手の反応については考慮されていない。

④語順が違う関係もあり、言いさし文に関する日韓の対照研究と比べると、日中の対照研究はまだ数が少なく、あまり進んでいない。管見の限りでは、李曉博(2008)と荻原(2013)しかない。李曉博(2008)の研究データは、日中の映画、ドラマのセリフであり、現実の会話との間にずれがあると思われる。また、この研究は、量的な統計に重点を置いて、質的な分析に欠けているため、両言語の言いさし文については、どのような違いがあるのかが具体的には示されていない。一方、荻原(2013)では、自然会話を資料として、親疎、男女差、上下関係などにも考慮に入れて分析したが、言いさし文の使用頻度、割合などに限っており、それがどのような影響を言いさし文に与えているかについては論じられていない。

⑤多くの「共話」に関する先行研究では、その形式(伊藤・矢野 1998、笹川 2007 など)や機能(黒崎 1995、嶺川 2000、2001 など)などについて論じられたものがほとんどであり、上下親疎関係による使用制限についてはあまり言及されていない。

以上のような先行研究概観結果に基づき、本論文では、日常会話における日中両言語の言いさし文について研究し、特に「共話」の観点を中心に考察することを目的とする。さまざまな先行研究は、インタビュー会話分析、談話完成テスト、テキスト分析によるものが多く、日常会話による研究はまだ足りない。既存の研究でも、言いさし文の分類だけにとどまり、上下親疎関係について論じられていないものやその文末形式の使用割合に焦点を当てるものがほとんどである。元来、言いさし文の使用は人間関係の構築と深く関わるため、上下親疎関係にも考慮し、より一層詳しく分析を行う必要があると思われる。また、言いさし文の成功は、話し手の一方的な伝達だけではなく、話し相手の理解も重要な要素だと考えられる。しかし、従来の研究では、主に話し手の言いさし文の使用に重点を置いており、話し相手の察しについて言及したものはまだ少ない。さらに、日韓対照研究と比べて、言いさし文に関する日中対照研究はまだ緒に就いたばかりで、数も少ない。以上の理由に基づいて、本論文では、「共話」の観点から、談話分析の手法により、日常会話における言いさし文の使用実態を考察するものである。

以上から、本論文の研究課題を以下の三点とする。

研究課題 1 日本語の言いさし文を共話の観点から分析し、その関係を明らかにする。

研究課題 2 自然会話を分析することによって、言いさし文とぼかし表現、倒置文等との関わりを明らかにする。

研究課題 3 共話・対話の観点から日中両言語の自然会話における言いさし文の機能を対照させ、両言語の会話構造の特徴を明らかにする。

## 第3章 分析データ及び研究方法

本章では、前章の結果を踏まえて上で明らかにした本論文の立場に基づき、本論文の研究課題を追究するために、第4章と第5章で用いる研究方法について述べる。まず、本論文で収集し分析に用いたデータについて概説し、次いで、その分析方法を各章ごとに示す。

まず、各章で使われるデータは以下の表 3-1 の通りである。

表 3-1 各章で使われるデータ

章	データ
第4章	日本人大学生の自然談話
第5章	日台両国大学生の自然談話

第4章と第5章の会話データは、二十代大学生の雑談場面の自然談話である。第4章では、筆者自ら収集し文字化した会話と『平成19年度日本語会話資料集』、『平成22年度日本語会話資料集』及び『平成24年度日本語会話資料集』から引用した会話を用いた。第5章で用いた台湾人母語話者の自然会話はすべて筆者自身が収集したものである。筆者自ら収集したデータに関しては、特に事前にテーマなどを与えずに、自由に会話してもらい、協力者にヴォイスレコーダーを渡し、筆者が立ち会わない形で収集した。以下の節ではそれぞれのデータの具体的な情報を紹介する。

### 3.1 データの文字化の方法

#### 3.1.1 発話文の認定について

発話文の認定においては、話し言葉は書き言葉におけるように文の終了を句読点で示し、区切りをつけることはできないため、話者がはっきり言い終わっているかどうかはターンの交代によって判断を行う。したがって、本研究における発話文の認定は杉戸(1987:83)の定義に従うこととする。

「一人の参加者のひとまとまりの音声言語連続(笑い声や短い相槌も含む)で、他の参



加者の音声連続(同上)とかポーズ(空白時間)によって区切られる単位」

杉戸(1987:83)

### 3.1.2 表記方法及び記号について

本研究は、収集されたデータを文字化する際に、発話された音をできるだけ文字で忠実に再現をするように努めた。文字化されたデータを読みやすくするため、記述は漢字と仮名交じりの方法で行った。

また、表記については、『男性のことば・職場編』を参考にして、以下の規則に従って書き起こし文字化した

- 1.長音：ー
- 2.言いよどみ：…
- 3.発話の途中で挟まれる話し相手のあいづちは、()の中に入れて、発話文と同一の行に入れる。ただし、一つの発話が終了した後のあいづちの発話は、一つの独立した発話として認める。
- 4.会話進行中に発された会話以外の音声を()で表記する。例えば、(笑い)など。
- 5.会話中に出てくる人名、企業名などはプライバシー保護のために伏せる。
- 6.聞き取れない部分はXXで表記する。

表 3-2 に表記例を示す。

表 3-2 表記例

長音	4-39-JMH	くっそー、こいつ
言いよどみ	3-154-JFF	それは、しょうが…、おせち料理ですか？
発話の途中で挟まれる話し相手のあいづち	6-4-JMM	麻雀は、あれですね。中三以来、暇の時、ちょくちょく、(うん) って、高三の時からずっと、暇見つけ打ってって感じでしたね。
会話進行中に発された会話以外の音声	2-27-JFE	あのあれ、「あなたのことが好きだから」やろ、この人。(皆笑)
聞き取れない部分	5-270-JMK	附属実習はXXX行ってること？

また、分析方法に関しては、基本的には量的な分析及び質的な分析に分けられる。量的分析では、言いさし文の文末表現を抽出し、品詞ごとに分け、統計的に分析を行う。質的分析では、男女差などジェンダーの観点から分析を行う。次の 3.2 と 3.3 で簡単に説明をする。

### 3.2 第 4 章のデータと研究方法について

第 4 章では、日本語の雑談場面における言いさし文の使用状況を分析するために、日本語母語話者の自然会話を用いた。筆者自ら収集した会話のほか、分析データをより充実させるため、『平成 19 年度日本語会話資料集(久志 2007)』、『平成 22 年度日本語会話資料集(王 2010)』、『平成 24 年度日本語会話資料集(李曦曦 2012)』からも引用した。会話参加者の属性については、以下の通りである。王(2010)と李曦曦(2012)及び筆者自ら収集したデータについては表 3-3 にまとめる。久志(2007)のデータは記述方法が異なるため、別途、表 3-4 に示す。

表 3-3 日本語母語話者である会話参加者の属性

会話参加者	性別	年齢	社会的地位
JFA	女	22	大学生
JFB	女	21	大学生
JFC	女	21	大学生
JFD	女	21	大学生
JFE	女	22	大学生
JFF	女	20 代	大学生
JFG	女	20 代	大学生
JMH	男	23	大学生
JMI	男	23	大学生
JMJ	男	20 代	大学生
JMK	男	20 代	大学生
JML	男	20 代	大学生
JMM	男	20 代	大学生

表 3-3 に示した会話参加者の記号は、J は日本語母語話者を、F は女性(Female)を、

M の場合は男性(Male)を表し、続くそれぞれの記号(A から M)は、各参加者を示す。データを会話例として出す際には、次の例 3-1 のような形式で提示する。各参加者の前に付けた数字は会話データの番号を表す。その次の番号は発話文番号を表す

例 3-1

3-148-JFF おせちって買ってます?手作りですか?

3-149-JFG あー最近も買ってるのかな。

久志(2007)のデータの会話参加者の属性は、次の表 3-4 の通りである。なお、久志(2007)のデータの表記については、一行が一発話とは限らないため、会話例として引用する際に、適宜発話文番号をつけた。

表 3-4 久志(2007)の会話参加者の属性

名前	性別	年齢	親疎	会う頻度
Y	女	21	4	ほぼ毎日
D	男	20	5	ほぼ毎日
J	男	19	3	1 週間に 1 度
I	女	18	3	1 週間に 1 度
S	男	21	3	1 週間に 1 度
M	男	20	5	ほぼ毎日
H	女	21	5	ほぼ毎日
Z	女	20	5	ほぼ毎日

第 4 章で言いさし文を分析する際には、まず、全発話文における言いさし文の出現数と文末形式の使用頻度について調べる。次に、言いさし文の機能を「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」、「その他」の四つに分け、その使用率についても調べた。ところが、調査対象全員が二十代若者のため、「みたいな」などのぼかし表現も多く現

れた。これらのぼかし表現の使用は無視できないと考え、本論文では、文末においての「みたいな」、「感じで」などのようなぼかし表現も含めて研究対象とした。

また、共話の研究については、久志(2007)のデータを利用し、親疎・上下関係を見ながら、共話使用の異なる方略を分析する。

### 3.3 第5章のデータと研究方法について

第5章では、筆者自らが収集、録音した台湾人中国語母語話者の自然会話データを利用して、第4章の分析結果と対照させる。会話参加者である台湾人中国語母語話者の属性は次の表3-5の通りである。

表 3-5 台湾人中国語母語話者である会話参加者の属性

会話参加者	性別	年齢	社会的地位
TMA	男	20代	大学生
TFB	女	20代	大学生
TMC	男	20代	大学生
TMD	男	20代	大学生
TFE	女	20代	大学生
TFF	女	20代	大学生

会話例としての提示方法は、以下の例3-2の通りである。日本語の会話データの表記と同じように、最初の数字は会話データの番号を表す。その次の番号は発話文番号を表す。そしてTは台湾人中国語母語話者を示す。Fは性別の女性(Female)を表し、Mの場合は男性(Male)を表し、続くそれぞれの記号(AからF)は各参加者を示す。

#### 例 3-2

2-22-TMD 我要先練機車才出門我爸說的

2-23-TFB 先練機車才出門，可是我早上八點要幾點去練啊

#### 訳

2-22-TMD 先にバイクの運転練習をしてから出かけられるとお父さんが言った。

2-23-TFB バイクの運転練習をしてから出かけられるって、朝八時出かけるから、何時

に練習に行く？

(筆者訳)

第5章で言いさし文を分析する際には、日本語の会話データと同じ分析手法で、全発話文における言いさし文の出現数と文末形式の使用頻度について調べる。さらに、言いさし文の機能を「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答」、「情報提供」の四つに分け、中国語の言いさし文の四機能の使用率を第4章の調査結果と比較する。また、言いさし文と共話の関係については、日中両言語における言いさし文による共話の誘発率についても調査する。

## 第4章 日本語における言いさし文の研究

本章では、自然会話を使い、日本語の会話に頻出する言いさし文の使用実態を解明することを目的とする。まず、4.1で、分析方法について述べ、4.2では、言いさし文が、①どのぐらいの頻度で出るか、②どのような文末形式で現れるか、③どのような機能を果たすか、という手順で研究を進め、自然会話における言いさし文、およびその各文末形式の使用率について量的な調査を行い、その使用頻度を示す。次いで、4.3では、実例を示し、質的な分析をすることによって、その使用実態を明らかにする。さらに、4.4では、ジェンダーの観点から、日本語会話における言いさし文の男女差を解明することを試みる。最後に、4.5では、日本語独特の会話スタイルとしてよく指摘されている共話を取り上げ、雑談場面における言いさし文と共話の関係について考察を試みる。

### 4.1 分析方法

#### 4.1.1 分析の観点

元(2005)では、佐藤勢紀子(1993)と陳文敏(2001)の研究をもとに、文末省略の機能を以下の三点にまとめた。

- ①冗長性を減らす
- ②相手に対して配慮する
- ③会話のやりとりを円滑にする

上の元(2005)があげた三つの機能のうち、①はどの言語においても適用する基本的な機能だと考えられ、②は日本語の言いさし文を論じる際に最も多く指摘されている特徴であるが、本研究では、共話における日本語雑談場面で用いられた言いさし文を探求するため、言いさし文を③の観点から捉え、分析を行う。

#### 4.1.2 分析対象

分析に当たっては、伊集院(2004)を参考にして、発話を実質的発話と相槌的発話の二種類に分け、主に実質的発話のみを分析対象とする。伊集院(2004)では、応答詞(例「はい」「うん」「そう」)や感動詞(例「えっ」、「あれっ」)だけの発話、笑い声のほか、先行する発話をそのまま繰り返す、オウム返しや単純な聞き返しの発話など、聞き手に判断・要求・質問などの積極的な働きかけをしない発話は全部相槌的発話としている。また、

日本語の言いさし文では、話者は「のに」で文末を言いさし文にし、自分の心情を吐露し、独話をすることも考えられる。さらに、日常会話では、「学校へ行って」などの形終了のような積極的に相手に働きかけないタイプの言いさし文もよく耳にする。また、伊集院(2004)では、単純な聞き返しは相槌的発話とするが、詳細については述べていない。一口に聞き返しと言っても、次の例 4-1 と 4-2 のように、相槌的発話として聞き返しの形での感情の表出は可能であるし、実質的発話として相手に確認することなどのような積極的な働きかけも考えられる。

#### 例 4-1

6-115-JML え、って、長崎ってさ、なんか、普通に発砲事件とかあるしょう？

6-116-JMM ないですね。

6-118-JML まじ？ 【相槌的発話:感情の表出】

例 4-1 では、治安についての話である。JML は JMM に長崎の治安に関して、発砲事件が頻繁であるかどうかについて聞き、JMM の答えに反応して、「まじ」で自分の驚きの感情を表す。堀口(1997:60)は、こうした「感情の表出」を表す相槌的発話は、「聞き手のこのような心理的な反応によって、話し手は聞き手がただ聞いているだけではなく心理的にもコミュニケーションに参加しているということがわかる。またこの聞き手の反応をもとにして、話し手はさらに話を発展させることもできる」と指摘している。

#### 例 4-2

3-153-JFG おー、何か作れるようになりたい？

3-154-JFF それは、しょうが...、おせち料理ですか？

3-155-JFG うん。

3-156-JFF なんか、伊達巻？

3-157-JFG 伊達巻？ 【実質的発話:確認】

3-158-JFF えっ?伊達巻なんて、えっ、伊達巻？

3-159-JFG だ..(えっ)卵なんか？

3-160-JFF はい。

例 4-2 は、JFF は作れるようになりたいおせち料理を JFG に話している場面である。

JFG は料理の名前はよく覚えておらず、「伊達巻?」と JFF に確認している。それを聞いた JFF も確信を持っていないため、また確認のため JFG に聞き返した。JFF は話の中で理解できなかった部分を納得がいくまで聞き返し、確認の作業をしている。

上記のような用例の取り扱いを考慮に入れた上で、本研究では、実質的発話と相槌的発話をそれぞれ次のように定義し、実質的発話のみについて分析を行う。

#### ①実質的発話

杉戸(1987)を参考にして、「判断、説明、質問、回答、要求など事実の叙述や聞き手へのはたらきかけをする発話」とする。

#### ②相槌的発話

本研究ではメイナード(1993)、堀口(1997)などを参考にして、相槌を次のように定義する。

「話し手が発話している間に、または発話終了直後に、ほかの会話参加者から自主的に送られてきた情報共有の表現、また話し手の発話内容に対する理解や感情などを示す発話」

### 4.1.3 言いさし文の分類及びその認定について

文末形式の種類によって、「名詞終了」、「副詞終了」、「助詞終了」、「て形終了」の四種類に分け、これらの四種類のいずれにも属さないものは「その他」の範疇に入れる。また、言いさし文の種類を分類する際には、基本的に文末の品詞を基準にして、判断を行う。しかし、以下のような場合は、文末だけではなく、品詞の全体的な構造も考慮に入れる必要がある。

- ①「うちのお母さんは私に甘いんで。」のような「の」の母音削除により、「の」が「ん」になっているが、文末の分類では助詞として認定する。
- ②「俺的に」、「確かに」、「まじで」、「意外と」などのようなものは副詞として取り扱う。
- ③「読んで」のようなて形と「自転車で」のような格助詞の「で」を区別する。
- ④副助詞の「って」と「行って」のように促音化するて形の「て」を区別する。
- ⑤副助詞の「って」と終助詞の「だって」を区別する。



- ⑥「私が」のような格助詞の「が」と「行きたいですが」のような接続助詞の「が」を区別する。
- ⑦「どこから」のような場所・起点・時を表す格助詞の「から」と「行きたいから」のような順接確定条件を表す接続助詞の「から」を区別する。
- ⑧「雪が降ると」のような接続助詞の「と」と「友達と」のような格助詞の「と」を区別する。

各文末形式に関する説明と具体例は次の 4.2.2 で詳しく述べる。

## 4.2 自然会話における言いさし文の量的分析

### 4.2.1 自然会話における日本語母語話者の言いさし文の使用頻度

二十代大学生の六つの自然会話データに含まれる全 1056 の実質的発話文のうち、392 の発話が言いさし文の形となっており、その出現率は約 37% である。言い換えれば、全発話文の三分の一以上が言いさし文の形をしていることになる。これについては、話し言葉の性質上書き言葉とは異なり、短時間に多くの情報を相手に伝達するため、言いさし文が頻繁に現れたとも考えられるが、加藤(2009:70-71)は、言いさしを「日本人の文を閉じたくない」という気持ちということに関わるとして、次のように述べている。

文を閉じないで続けていく話し方は、話し手にとっては負担もリスクも小さく、楽なスタイルである。聞くほうも、緊張しないでうち解けた雰囲気の中かで、耳を傾けることができる。だから、ゆったりした雰囲気を使う文体ということなら、むしろ適切だとも言えるくらいである。しかし、逆に言えば、これは仲間内での非公式の話し方として許されるものであって、公式の場で厳密さや厳格さが重要となる場合はそぐわない。

加藤(2009:70-71)

すなわち、言いさし文の多用は、私的な雑談における気楽な話し方と考えられる。さらに、荻原(2000)は「言いさし表現への対応は『察し』、つまり、送り手を理解するための前提として、会話の上で、相手と世界を共有し、相手の視点に自らを置き、相手になって見ることから始まるものである」(p.84)と述べており、「日本語コミュニケーションにおける聞き手の役割が非常に大きく、日本語教育の面でも、インターアクション能力を高めるためには、言いさし表現とそれへの対応に対する教育は欠かせないと言える」

(p.84)と指摘した。したがって、本研究は、日本語会話の特徴とも言える言いさし文に焦点を当て、その形式と使用頻度さらにその発話機能を自然会話分析を通して、解明する。

#### 4.2.2 日本語の言いさし文の文末形式及びその出現頻度

データから抽出された全 392 例の言いさし文の文末形式を品詞ごとに整理をし、「名詞終了」、「副詞終了」、「助詞終了」、「て形終了」及び「その他」の五種類に分類した。各形式の出現数及び出現率は次の表 4-1 の通りである。

表 4-1 各文末形式の出現数及び出現率

		出現数及び出現率(%)
名詞終了	週、周り、武器、Nike、感じ、近く、等	119(30%)
副詞終了	たぶん、なんか、けっこう、本当、等	30(8%)
助詞終了	とか、けど、し、も、が、って、は、等	133(34%)
て形終了	強くて、寒くて、なくて、面倒くさくて、等	22(6%)
その他	ような、みたいな、そうな、それで、等	88(22%)

表 4-1 から、全言いさし文における各文末形式の出現傾向を見てみると、上位三位は「助詞終了」、「名詞終了」、「その他」で、この三種類の文末表現が全体の九割近く占め、「副詞終了」及び「て形終了」はそれぞれ 8%、6%であった。以下、各文末形式の例をあげる。

##### 4.2.2.1 名詞終了による言いさし文

全言いさし文の中で、119 例が名詞終了で、出現率は 30%、すべての言いさし文中二番目の頻度であった。名詞終了による言いさし文は、「です」、「だ」などのコピーラを省略するだけで、完全文に近い形での言いさし文である。主に質問や確認する際に、キーワードだけを提示し、会話全体の流れを壊さずに効率よくやりとりを進めるために用いられる。

例 4-3 (例 4-2 の再掲)

3-153-JFG おー、何が作れるようになりたい？

3-154-JFF それは、生姜...、おせち料理ですか？

3-155-JFG うん。

3-156-JFF なんか、伊達巻?

3-157-JFG 伊達巻?

3-157-JFF えっ?伊達巻なんて、えっつ、伊達巻?

3-157-JFG だ..(えっ)卵なんか?

3-157-JFF はい。

この例では、JFGがJFFに作れるようになりたがっている料理について聞く場面である。両者とも「伊達巻」という名詞のあとにつける「です」、「だ」などの中心としたコピュラを省略して、料理名を確認し合っている。この会話から、情報を確認するため、会話参加者が互いに名詞だけを繰り返すことによって、会話全体の流れを壊さずに、効率よくやり取りを進めていることが窺える。

#### 4.2.2.2 副詞終了による言いさし文

全言いさし文の中で、30例が副詞終了、出現率は8%であり、主に陳述性の高い語句の使用が目立った。

例 4-4

3-150-JFF なんか、うちなんか手作りで、なんか、だからうちのせちの、おうちに帰って、おせちの作り方、その、習おうみたいな。

3-151-JFG あー偉い。あたし、ずっと家にいるけど、全然。

この例で、JFFはJFGに実家に帰ったら、おせち料理の作り方を習ってみたいと話している。その話を聞いたJFGは自分はずっと実家にいるのに、全然習ったことがないと話している。「全然」という打消しの事前告知機能の語句を文末に置くことによって、そのあとの内容が簡単に予測できる。荻原(2011)では、言いさしに使われていた副詞の中で、不確実性を表す「たぶん」や気持ちの度合いを表す「ほんとうに」、言葉を言い濁す「ちょっと」は、「副詞終わりは言語形式上は言いさしであるが、付加により言いさしになっただけで、情報内容面での推量の負担はかなり小さいと言える」(p.12)と述べている。

#### 4.2.2.3 助詞終了による言いさし文

全392例の言いさし文の中で、助詞終了の出現数は133例で一番多く、34%を占めている。その内訳は以下の表4-2の通りである。

表 4-2 文末における各助詞終了の出現数及び出現率

「助詞終了」の種類	各種類の出現数とその出現率(%)
接続助詞終了	59(44%)
副助詞終了	42(32%)
格助詞終了	32(24%)

観察された全助詞終了のうち、接続助詞は 44%、副助詞は 32%、格助詞は 24%を占めていた。助詞終了の中では、接続助詞終了の出現率が一番高く、この結果は高橋(1993)の指摘と一致している<sup>2</sup>。次に、出現率が最も高い接続助詞終了の内訳を以下の表 4-3 に示す。

表 4-3 文末における接続助詞終了の内訳

けど／けども	から	ので	たら	たり	と	ながら	し	小計
29	4	6	5	2	1	2	10	59

表 4-3 で示されているように、八種類の接続助詞終了が抽出された。「が／けど」の使用が最も多く、全体の約三分の一に達した。佐藤勢紀子(1993:45)は「……が／けど」の形式の言いさしの含意は大きく以下の二種類に分類できると述べている。

第一類はこれらの接続助詞が逆接を表す場合で、この場合は、その含意は文脈によって異なる。第二類は——これが圧倒的多数を占めるが——、接続助詞が前提的条件を示す場合で、ここでは、「が／けど」の含意は意向伺い、情報求め、了承求め、その他、すべて相手の反応への期待を伴うものとなる。

佐藤勢紀子(1993:45)

上記の佐藤勢紀子(1993)の論を言い換えれば、けど類の接続助詞で終了した言いさし文は、会話における話し相手への積極的な働きかけを意識した表現ということであり、その使用には水谷信子(1980)が提出した共話とのかかわりがあるかもしれない。また、出現数の高い「けど／けども」、「し」は、単文での独立性が強く、主節が省略されても

<sup>2</sup> 高橋(1993)は「接続助辞」という用語を用いている。

完全文に近い性質を持っている。一方、「から」以外の「ので」、「たら」、「たり」、「と」、「ながら」は複文に近く、主節と従属節のつながりが緊密であり、完全文としての独立性は低く、文意への理解には推論が必要となる。

以上、大別すると、荻原(2011)の言う「実質的な言いさし」と「形式的な言いさし」に分けられる。言い換えれば、日本語の雑談会話では、「形式的な言いさし」のほうが多く使われる傾向がある。その理由については後の節で詳しく論じたい。

以下、助詞終了による言いさし文を各一例ずつ示す。

### 接続助詞終了による言いさし文

#### 例 4-5

6-102-JMM あの、電子掲示板にはここと事故の件数とか書いてるのを見て、(お一) すぎえと思って。①

6-103-JML それはね、もう、福岡ですから。(JMM と JML が笑う)どうもね、福岡怖いらしいけん、(あ一)他の県の人から見るとしたら。②

6-104-JMM 俺は大阪の方が怖いと思いますけど。③

6-105-JML 俺もそう思う。④

この例で、JMM と JML は福岡の事故件数について話している。JML と JMM は互いに接続助詞終了で会話を進行させている。まず、JMM は①で「思った」のところを「思って」で言いさし文をしている。次に、JML は JMM の発話内容に賛同し、会話の流れに依存する形で②で文末に「たら」を使い、「福岡は怖いらしいけん」と JMM の発言を補強する。しかし、JML の予測に反して、JMM は「大阪の方が怖い」と③のところで文末に「けど」をつけて自分の感想を示している。それを聞いた JML も④で「俺もそう思う」と相手と同調し共感を示している。

### 副助詞終了による言いさし文

#### 例 4-6

6-16-JMM それ教えてもらったら簡単です。あと役覚えるぐらいで。

6-17-JML うーん。役覚える XX が大変さ。

6-18-JMM そんなないっす。もう一個覚えたらそれに似たやつがあるみたいなことあるんで。

6-19-JML おー、えー、ポーカーとかあるさ。

6-20-JMM ポーカーみたいな感じですよ。役も。

この例は、麻雀のやり方を話題にして、JMLがJMMにそのやり方が簡単だとJMMに話している場面である。JMLは役一つを覚えたら似たものがあるのでそれほど難しくないと説明している。それを聞いたJMMはポーカーを例としてあげ、JMLはJMMの発言に賛同し、自分の発話の文末に「も」をつけて、役もポーカーと同じであると述べている。

### 格助詞終了による言いさし文

例 4-7

6-108-JMM 俺は大阪が怖いっす。①

6-109-JML ね。

6-110-JMM まだあいりん地区とかそのあたりが。②

この例は大阪の治安が良くないことを話題にしている会話の一部である。JMLは①で大阪は怖いと言い、②で言いさし文の形で文末に「が」をつけて、会話の流れに依存した①の発話の補足をしたと考えられる。

#### 4.2.2.4 て形終了

て形終了は言いさし文全体のわずか6%しか占めておらず、言いさし文としては述部がほとんど明示されているため、「察し」についてはあまり難しくないとと思われる。

例 4-8

1-15-JFB 何系行っのかな。

1-16-JFA 何系?、ああ、業界とか?

1-17-JFA ええ、とりあえず、分かっているのは?

1-18-JFB 分かっているのは。

1-19-JFA ここは受けよっかなみたいな。

1-20-JFB うーん。

1-21-JFA エアラインは?

1-22-JFB なんかね、エアラインもやめよっかな。

1-23-JFA えっ、やめるの？

1-24-JFB うん。

1-25-JFA 全く？、一個も受けない？

1-26-JFB なんかね、私やっぱ、エアラインじゃない気がして。

例 4-8 では、JFA と JFAB が就職に関して話している。JFA が航空会社を受験しないかと聞き、JFB は「私やっぱ、エアラインじゃない気がして」と職種については自分に合わないと説明している場面である。形終了については、本データにおける全体的な出現率はそれほど高くないが、この例のように「気がしている」というところをて形終了の形にしている現象は普段の日常会話においてはしばしば行われていること、また「気がして」の後に実質の省略がないということから、話し相手にとって理解しがたい言いさし文とは言えない。

#### 4.2.2.5 その他

その他の中では、特に「みたいな」の出現が際立つ。以下、実例を示す。

例 4-9

6-7-JML おーなんか、あれやろう、数字揃えたら、なんか、最初はなんか、こう、難しい役じゃなくてさ、(はい) なんけ、数字がいくつになるような感じで、揃えるみたいな...

6-8-JMM 二、三三三三のセットで作れば、(おー) それが当たりなんで、(おー) それなんかあとから役が付いてきてみたいな

6-9-JML うーん。

6-10-JMM 同じ数同じ数が一二三か、記号記号記号みたいな

6-11-JML うーん

6-12-JMM そんな感じで、手で役を作っていたらって感じですね。意外と覚えたら簡単ですよ。

この会話例は、JML が JMM に麻雀の打ち方について聞く場面である。JML は「みたいな」を文末につけ言いさし文にし、自分の不確定なことを相手に確認し返事を引き出そうとしている。一方、JMM も「みたいな」を文末につけて、「うまく言えないけど、そのような感じ」という話者の心的態度を表している。これについて、前田(2004)は、大学生を対象とする文末表現「みたいな。」の使用意識調査から、合っているかどうか迷うときや話し相手の反応がよくないとき、あるいは相手に自分の言いたいことを

分かってもらいたいときに、話し手から聞き手に「自分の発話の意図を理解・共感してほしいし、また、そのような反応を示してほしい」(p.56)という気持ちを示す働きがあると指摘している。前田(2004)はこれを「みたいな」の「共感要求機能」と呼んでいるが、会話を円滑に進めるという観点からは、一種の会話促進機能とも言えるであろう。

### 4.3 日本語における言いさし文の質的分析

#### 4.3.1 言いさし文の機能

同じ言いさし文でも、談話においてそれぞれ違う機能を果たすと考えられる。李恩美(2008)は言いさし文を中途終了型発話と呼び、その機能を「働きかけるタイプの発話(情報要求、情報伝達)」と「反応するタイプの発話(情報応答、あいづち)」に分け、次の表4-4のように示している。各々の例の具体例は例4-10から例4-14である。



表 4-4 李恩美(2008)による言いさし文の機能

<p>情報要求 (Q:Question)</p>	<p>相手から何らかの情報を引き出そうとする発話「ですか?」などと明らかに疑問形式で相手に働き掛けているもの以外にも、相手の言った内容の分からない部分を確認して聞き出すための発話も、情報要求とみなす。</p>
<p>情報伝達 (S:Statement)</p>	<p>自分から何らかの情報を伝えることで相手の反応を引き起こす発話。話し手が自分の持つ情報や意見、感想などを自ら積極的に伝達するものである。</p>
<p>情報応答・情報提供 (A:Answer)</p>	<p>相手の情報要求発話に対して情報で応答する発話。対話相手の情報要求に対して情報を提供するものである。</p>
<p>あいづち (B : Backchannel)</p>	<p>相手の情報伝達発話に対して反応を示す発話。相手の情報伝達や、情報応答に対して、「聞いている」「理解している」ということを表したりすることによって、働き掛けるタイプの発話(情報要求、情報伝達)に反応しているものである。</p>
<p>その他 (O:Others)</p>	<p>独り言や、相手の発話に割り込まれることによって途中で終了された発話で、その発話の機能が分からない発話などがある。</p>

李恩美(2008:132-133)

例 4-10 情報要求(Q:Question)

BM03 え、もともとずっと東京で...?。

Q

YM01 そうですね、生まれが東京で、大学のときにあの一茨城県のほうに、(あ一)行ってきました。

李恩美(2008:141)

例 4-11 情報伝達(S:Statement)

BM03 で、それは今度ちょっとぜひぜひ車をとばして行ってみたいって言う…。 S

SF01 うんうんうんうんうんへー。

李恩美(2008:141)

例 4-12 情報応答・情報提供(A:Answer)

OF01 丙午って、結構 20、20、あ 30 ぐらいの方でしたっけ。

BM01 えーといまちょうど、そ、えーと、だいたいその 36 になる年…。 A

李恩美(2008:141)

例 4-13 あいづち(B:Backchannel)

BM02 九州は、どこですか？。

SM01 あの、北九州の、隣にある、直方ってところがあるんです。

BM02 北九州、市…。 B

SM01 そうですね(ああ)、はい。

李恩美(2008:142)

例 4-14 その他(O:Others)

SF03 ええ、特にあの、今留学してますよね、(ん)ポストンほかに。

SF03 <それで...> {<}。 O

BF08 <帰ってくる> {>} と違うって感じですか？

SF03 そうですね、向うだと完全に服装とかたぶん厳しくなく、自由にやっていると  
思ってますよ。

李恩美(2008:142)

上記の李恩美(2008)の分類では、相槌を言いさし文の機能としているが、本研究は実質的発話のみを対象とするため、相槌は分析から除外する。また、李恩美(2008)と異なり、割り込まれて中断された発話は言いさし文とは認めず、「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」以外の機能は「その他」に分類する。したがって、上記の李恩美(2008)を参考にして、言いさし文の機能を主に「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」の三つの項目に分類する。また、分析対象を下線で示し図示すると、次の図

4-1 のようになる。

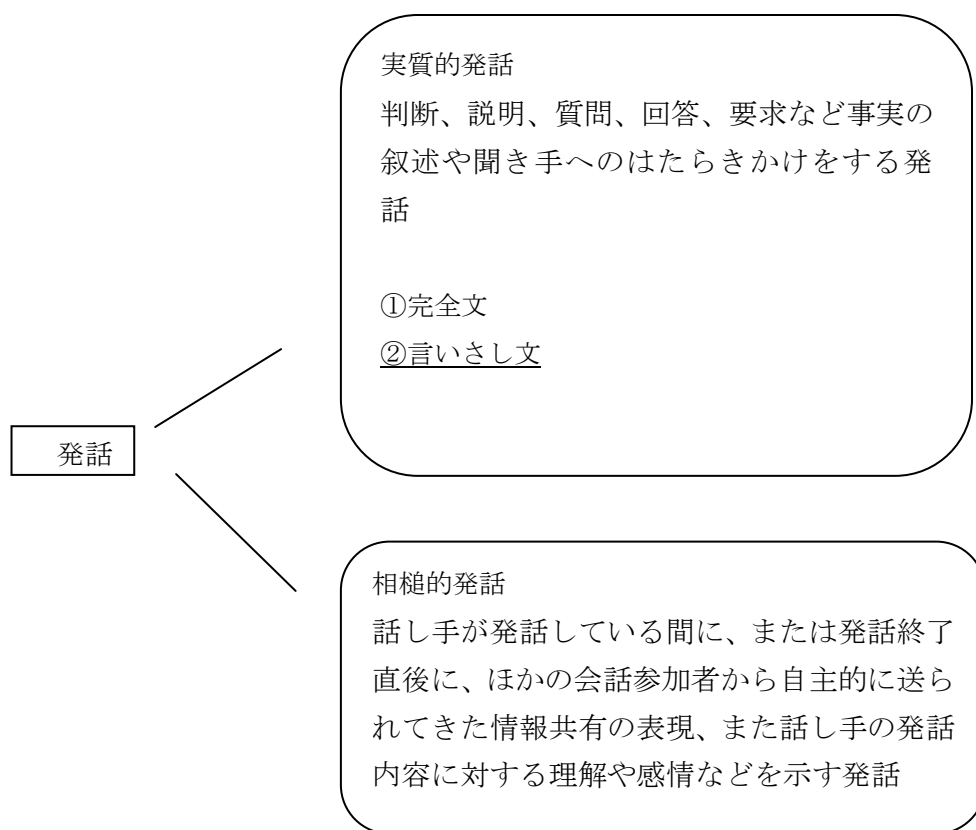


図 4-1 発話の分類

本研究では、以上の基準に基づき、言いさし文の分析を進める。次節では、言いさし文における各機能の使用状況について調べる。

#### 4.3.2 自然会話における言いさし文の各機能の出現状況

まず、収録された自然会話における各言いさし文の機能の出現頻度及びその割合を表 4-5 に示す。

表 4-5 言いさし文の各機能の出現頻度及びその割合

	言いさし文の全発話数	
	出現頻度	出現率
情報要求(Q)	83	21%
情報伝達(S)	234	60%
情報応答・情報提供(A)	61	15%
その他	14	4%
合計	392	100%

表 4-5 からわかるように、本研究が依拠する親しい友人同士の会話データでは、言いさし文の「情報伝達」という機能の出現が最も高く、全体の半分以上を超えている。その次は、「情報要求」、「情報応答・情報提供」、「その他」の順となっている。

さらに、李恩美(2008)の初対面同士の会話データの調査結果を次の表 4-6 に示す。これと表 4-5 の本研究の調査結果を「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」の三つの項目に絞り、それぞれの割合を再計算したものと李恩美(2008)の結果を表 4-7 にまとめ、比較対照する。

表 4-6 李恩美(2008)による言いさし文における各機能の出現頻度と出現率

【李恩美(2008)から一部抜粋】

	全体発話	
	出現頻度	出現率
情報要求(Q)	133	26.2%
情報伝達(S)	248	48.8%
情報応答・情報提供(A)	83	16.3%
あいづち(B)	34	6.7%
その他(O)	10	2.0%
合計	508	100%

表 4-7 言いさし文の機能についての本研究の結果と李恩美(2008)の結果との比較

	言いさし文全体(情報要求+情報伝達+情報応答・情報提供)			
	出現頻度		出現率	
	李恩美(2008)	本研究	李恩美(2008)	本研究
情報要求	133	83	29%	22%
情報伝達	248	234	53%	62%
情報応答・情報提供	83	61	18%	16%
合計	464	378	100%	100%

上の表 4-7 の両データの「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」の三つの項目を比較した結果、出現頻度の高さは、いずれも「情報伝達」、「情報要求」、「情報応答・情報提供」の順になっている。特に「情報伝達」の機能を持つ言いさし文の出現率は両データにおいても半数を超えていた。話者間の親疎関係にかかわらず、言いさし文が「情報伝達」のためにこれほど多く出現される傾向が示されたのは、会話形態が自由会話のためであるかもしれない。現時点では推定の域を出ないが、一問一答のようなインタビュー会話の場合は、インタビュアーはインタビューを受ける者から情報を引き出し、会話を進行するためには、「情報要求」を多用する可能性もあると考えられる。

また、相手に対する働きかけ性が強い「情報要求」は二位、「情報伝達」は一位を占めているが、李恩美(2008)の結果と同じく、「情報要求」と「情報応答・情報提供」の出現率にあまり差が見られない。これについては、次節で各機能と文末形式の相互関係を調べ、詳しく分析する。

以上の結果から、異なる人間関係であっても、自由会話においては、言いさし文の根本的な性質は、積極的に相手に働きかけるという点で変わらない可能性が高い。これについて、李恩美(2008)は、以下のように解釈している。

「中途終了型発話」<sup>3</sup>は、主に相手の領域を侵す可能性が高い「情報要求(Q)」や「情報伝達(S)」という働きかけの発話機能をもって発せられていることがわかる。相手の領域を侵す可能性の高い発話を、言い淀みをもった「中途終了型発話」で発することは、相手の領域を侵すことへの躊躇を示すものであるとも解釈できる。

李恩美(2008:140)

<sup>3</sup> 李恩美(2008)は言いさし文を中途終了型発話と呼んでいる。

しかし、調査として使われたデータの話し手間の人間関係が異なるため、必ずしも李恩美(2008)の解釈が筆者のデータにも当てはまるわけではないと思われる。なぜなら、親しい人間関係の場合、初対面のような改まり度の高い場面より相手の領域を脅かすリスクは低く、初対面の場合ほど相手への配慮を表す必要がないはずだからである。いずれにしても、言いさし文にはなぜ「情報伝達」と「情報要求」の機能が多く確認されるのだろうか。李恩美(2008)の解釈以外の理由があると考えられる。たとえば、次の例 4-15 が示す親しい女性若者同士の会話では、同じ表現を使うことによって、仲間意識を高め、話し手間の連帯感が深められるように見える。

#### 例 4-15

1-264-JFA 私なんか、そういう民族系(うん)の服って好きなんよ、やけど、普段着れんやん(うん)、普段着れるようなちょっとデザインされた感じの、なんかチマチョゴリ系だったり、チャイナドレス系だったり(うん)、そういうのいっぱいほしい。

1-265-JFB チャイナドレス似合いそう。

1-266-JFA 本当(笑)?

1-267-JFA なんか、その、斜めに襟(うん)がなってるところとか、めっちゃかわいいやん、ああいうのほしい。

1-268-JFB 似合いそう、まじ。

1-269-JFA あとなんか、髪、髪、の形ってか、スタイルもさ、すごいよね。

1-270-JFB うん。

1-271-JFA ぐるぐる巻いてあるやん髪とか。

1-272-JFB なんか、この辺から、こう来るやん。

1-273-JFA そうそうそう、かっこういいよね。

1-274-JFB 横からウァーって。

1-275-JFA でも、日本も昔そんな感じの、上に結構あげてる(うん)、アップが好きだよね。

1-276-JFB でもまた、独特だよね(そうそう)、韓国とかすごいもん、そんな髪あるの? みたいな。

1-277-JFA ってか、そんなに長くできるんだ、みたいな(笑)。

この例 4-15 の会話では、JFA と JFB は服装とヘアスタイルの話をしている。JFA

はチャイナドレスに合わせるぐるぐる巻いているのが格好いいと JFB に話している。それを聞いた JFB は「横からウァーって」という表現で JFA の話した内容に合わせる形で会話の進行に協力している。さらに、JFA は日本の昔風のヘアスタイルも結構上にあげていると言い、JFB はまた「独特だよな」と賛同の意を表し、「そんな髪あるの?」の後ろに「みたいな」をつけて驚きの気持ちを表現している。その発話に対して、JFA もまるで JFB の発話に伴奏するような形で笑いを伴って、「そんなに長くできるんだ」の後ろに「みたいな」をつけ、JFB と同じ表現を使うことによって、相手を会話に引き込んだり、自分との関わり合いを表現することによって、相手との共感・一体感を表し、会話の場を盛り上げ、生き生きとした会話を作り上げている。

上の例 4-15 からわかるように、会話中における言いさし文の使用は従来指摘されてきた相手に対する配慮への表現だけではなく、会話の雰囲気をも高めることもできる。また、話者間に共通の経験が存在する場合も使用可能だと思われる。以下の例 4-16 は陳一吟(2013)から取った例である。

#### 例 4-16

小池 はい、変な感じだけど。いや、こうなるのも無理ないね。  
蒼井 (笑)なる。  
小池 だってあんま喋ったことないもんね。  
蒼井 ないね。この距離はいつもだった  
小池 まあ、この距離は。 そうそうそう、  
蒼井 でしょう 最初、この、これで向き合って、  
小池 まああもう ②そうそう引越してきて、で、最  
蒼井 ①大阪から上京してきて  
小池 初の隣  
蒼井 ③の席だったのがわたし

陳一吟(2013:114-115)

この例は、親しい同級生二人の思い出に関する雑談である。蒼井は①の発話で言いさし文の形で文をいったん終了させ、それに対して小池はその続きを引き取って②の発話で言い換え、また「最初の隣」といったん名詞終了で文を途中で止め、それを聞いた蒼井はさらに③の発話で文を完成させる。③は①と②の発話の続きとみなすことができる

ため、このような二人の会話参加者がまるでバトンタッチのように会話を完成させていく話し方を陳一吟(2013)は、聞き手と話し手の境界線が消え、二人が共有している情報を提示しながら築き上げる「共話」としている。

以上、言いさし文が使われる理由としては、相手に対する配慮のほか、同じ表現を使うことによる仲間意識の形成、話者間の情報の共有といったものが考えられる。また、話者間の親疎関係から、それぞれの言いさし文の使用要因がそれぞれ異なることはあっても、いずれの言いさし文も相手の反応を引き出し、話題に対する協力姿勢を相手に期待するという点では共通している。言い換えれば、言いさし文は水谷信子(1980)が指摘した「共話」と密接な関係を持っているのである。この「共話」に関しては、4.5で詳述する。

#### 4.3.3 言いさし文における各機能と文末形式の相互関係

4.2.2、4.3.2では、言いさし文の文末形式及び各機能の出現頻度をそれぞれ個別に調べたが、両者の相互関係は会話全体や話者間の親疎関係などにもかかわると考えられるため、本節ではそれについての分析結果を示し、考察を行う。まず、次の表4-8で本研究における「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」のいずれにも分類できない14例の言いさし文を除いた合計378例の言いさし文を各文末形式の機能の出現頻度及び出現率を示す。

表 4-8 各文末形式と各機能の対応関係

機能 文末形式	情報要求	情報伝達	情報応答・情報提供
名詞終了	47(57%)	49(21%)	19(31%)
副詞終了	8(10%)	16(7%)	4(7%)
接続助詞終了	5(6%)	45(19%)	8(13%)
副助詞終了	10(12%)	24(10%)	8(13%)
格助詞終了	0%	24(10%)	6(10%)
て形終了	0%	18(8%)	4(7%)
その他	13(15%)	58(25%)	12(19%)
合計	83(100%)	234(100%)	61(100%)



表 4-8 に見られるように、「情報要求」においては、「名詞終了」の出現が最も顕著で、57%にのぼり、全体の半数を超えている。その次は、出現率に関しては、ほとんど差が見られないが、「その他」、「副助詞終了」、「副詞終了」、「接続助詞終了」の順となっている。また、「情報伝達」では、「その他」の出現が最も高く、「名詞終了」、「接続助詞終了」が続き、「副助詞終了」と「格助詞終了」が同位で、その後は「て形終了」で、「副詞終了」の出現が最も少なかった。一方、「情報応答・情報提供」においては、「名詞終了」が最も多く、その次は「その他」で、「接続助詞終了」と「副助詞終了」の出現率は同じで、「格助詞終了」が続き、最後に「副詞終了」と「て形終了」の出現率が同じで最も低かった。以下に、日本人母語話者同士の会話から収集された「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」という三つの機能の各文末形式の用例をあげる。

4

#### 情報要求(Q:Question)

名詞終了

例 4-17

6-174-JMM ですね。パチンコって P ZONE ありましたよね？

6-175-JML うん。P ZONE、フェイス、玉屋 ZONE、ダイナム。

6-176-JMM そんなにありますか？

6-177-JML ダイナムはね、福津の方に、かな？まだわからんか？福津とか行っ...

6-178-JMM わからないですね。

6-179-JML ちょっと福岡の方に行ったことないけど

6-180-JMM ○○さん、パチンコ？

6-181-JML 俺全然しない。たーまに、(あー)行ってみようかなと思って行くぐらい。なかなかね、なんかパチンコとかもなんか、あれやん、演出でどうのこうのみたいな、基本なんか、俺覚えるのを嫌いやけん、(JMM が笑い) なんかしかも、なんげ、回転数とか、(あー)当たりの数とか、見てなんかみんなちょっと考えたりしようとかさ、なんなんの？意味わからんよ。

6-182-JMM そうですね。設定とかもありますもん。

副詞終了

---

<sup>4</sup>本研究で言いさし文の例として出されているものの中には倒置もある。前述したが、本論文では言いさし文と共話が深い関連をもつと考えるため、水谷信子(1989)が述べるように、倒置であっても共話の機能に繋がっている場合には言いさし文とした。

例 4-18

1-193-JFA TOEIC の結果っていつ来るのかな。

1-194-JFB この間の？

1-195-JFA うん。

1-196-JFA 受けた？

1-197-JFB 受けた。

1-198-JFB あれ、一月(挿入)中やろう？、確か。

接続助詞終了

例 4-19

1-140-JFA えー、で、どうする？、自分もし記念受験で受かったら。

1-141-JFB やる。

副助詞終了

例 4-20

5-168-JMJ N棟一階ってどうなんですかね？そうでないですか？夏、くそ暑いとか？

5-169-JMK 湿気。

その他

例 4-21

1-35-JFB 記念受験しよっかな。

1-36-JFA うん。

1-37-JFB だって、安住さんとか、記念受験やったもんね、あのアナウンス、サーのやつ。

1-38-JFA えっ、記念受験でよかった的な？

情報伝達(S:Statement)

名詞終了

例 4-22

3-90-JFG (笑い)文系だと、やっぱり、なんか、文系だと、何も、技術とか(おー)特別な知識、九大生だから、何か持ってるっていう(うーん)ものがないから、なんか面接

次第っていう感じ、(お一)そこまでなんか九大生だからっていうの感じない。

3-91-JFF うーん、なるほど。なんかもう、院行くか行かないかどうしようかなって。

3-92-JFG あー行けるもん。うちの友達の農学部の友達。

3-93-JFF えっ、そう、まじですか？

3-94-JFG うん、就職。県庁、なんか、佐賀県庁なんかに。

3-95-JFF あー、XXX、私実家が好きなんで、もう愛媛に帰る、実家。

副詞終了

例 4-23

3-148-JFF おせちって買ってます？手作りですか？

3-149-JFG あー最近も買ってるのかな。

3-150-JFF あーなんか、家なんか手作りで、なんか、だから家せちの、お家に帰って、おせちの作り方、その、習おうかなみたいな。

3-151-JFG あー偉い。あたし、ずっと家にいるけど、全然。

接続助詞終了

例 4-24

6-123-JML なんか、高校とかチャリで通った？

6-124-JMM 高校バスでした。

6-125-JML バスカ？XXX、俺、チャリ通だけど、高校から、こう、チャリで通ったら、XXXX 怪我 XX と思って、家帰ってニュース見たら、あの、銃弾が打ち込まれたとか言って、(いや、信じられないですね。)あー今日通ったわと思いながら。

6-126-JMM マジっすか？

6-127-JML うん。

副助詞終了

例 4-25

6-132-JMM そうですね。長崎、近くで打ち込まれたのも不動産屋だったんで。

6-133-JML うん。よくあるよくある。あの、団地の隣の棟の人が、その暴力団関係者で、違う組の人から刺されたとか。

格助詞終了

例 4-26

3-143-JFG うん、いいな。うちでもケーキを作ってみたいな。

3-144-JFF おー。

3-145-JFG 作ってみたいけど、絶対、チョコレートショップのケーキのほうが。

3-146-JFF (笑いを伴って)美味しいですよ。苦い。

て形終了

例 4-27

1-47-JFA よくあるね。なんか友達が受けるから、一緒に付いていたら、友達が落ちて(そうそう)、自分が通っちゃたみたい。

1-48-JFB まあ、頑張る、そしたら、はははは。

1-49-JFA はははは。

1-50-JFB 頑張る。

1-51-JFA そっか。

1-52-JFA どこ受ける?私 JAL エクスプレス受けたいなって思って。

1-53-JFB JAL?

1-54-JFA うん、JAL でも今年は狙い目と思うよ。

その他

例 4-28

6-186-JMM ゲーム、普通のゲームですか?

6-187-JML うん。

6-188-JMM モンスターハンターしかしないですねよね。

6-189-JML あ、そうなん?

6-190-JMM あれが出たら、PSP も買うみたいな。

情報応答・情報提供(A:Answer)

名詞終了

例 4-29

6-86-JMM 和白って?

6-87-JML 和白は...九産大の近く。

副詞終了

例 4-30

5-46-JMK あれが結構あの色好きちゃうね?あのめっちゃ色多くない?

5-47-JMJ 多いです。いや、とことんありますね。白から黒までなんかいろいろ。

接続助詞終了

例 4-31

5-58-JMK ミズノとかどうなん?

5-59-JMJ ミズノもいい。いいっちゃいいですよ。こういう系統のやつ、まあ、売ってますけど。

副助詞終了

例 4-32

1-52-JFA どこ受ける?、私 JAL エクスプレスは受けたいなって思っ

1-53-JFB JAL?

1-54-JFA うん、JAL でも今年狙い目と思うよ。

1-55-JFB 逆に?

1-56-JFA うん、ANA ばっか受けると思う、今年は。

格助詞終了

例 4-33

5-26-JMK アンダーマークがいいよね。アンダーアーマーのレッグウォーマーを持っ

5-27-JMJ それ、アンダーアーマー全部揃えたらいいんじゃないですか。うん、もはや。

5-28-JMK え、下の辺は XX さ、上のパーカーでもねさ、アンダーアーマーちょっと、ちょっとなんか違いが

5-29-JMJ XXX 違い XXX、ちょっと揃えてる。

て形終了

例 4-34

5-1-JMJ ○○さん、そのアンダーアーマーのスウェットいいっすよね。

5-2-JMK いいやろう？

5-3-JMJ はい。

5-4-JMK これ XXX アンダーアーマー三万円分 XXX

5-5-JMJ 三万円も買ったんですか。

5-6-JMK うん、でも X の割引で二万五千円になって。

5-7-JMJ おーなるほど。

その他

例 4-35

3-27-JFF でも、パソコン持ってきますもん。(えー)なんか、あっちの XX 会で、(うん)、パソコン使うんですけど(うん)私、伊都から持ってきたんですよ。

3-28-JFG あー重いね。

3-29-JFF 偉くないですか？

3-30-JFG 偉い。えっ、毎週?持ってきてる？

3-31-JFF なんか、今日だけ。なんか XXX でもやろうかな感じだったんで、ね、パソコンないですよねみたいな感じで、(うん)、じゃ、持ってきますよみたいな。

また、表 4-8 の再掲になるが、下の表 4-9 で、各文末形式終了の出現分布を示す。

表 4-9 各文末形式終了の出現分布(表 4-8 の再掲)

	情報要求	情報伝達	情報応答・情報提供	合計
名詞終了	47(40%)	49(43%)	19(17%)	115(100%)
副詞終了	8(28%)	16(57%)	4(14%)	28(100%)
接続助詞終了	5(9%)	45(77%)	8(14%)	58(100%)
副助詞終了	10(24%)	24(57%)	8(19%)	42(100%)
格助詞終了	0%	24(80%)	6(20%)	30(100%)
て形終了	0%	18(82%)	4(18%)	22(100%)
その他	13(16%)	58(70%)	12(14%)	83(100%)

表 4-9 からわかるように、各文末形式の出現分布は主に「情報伝達」に集中している。これについては、本データの会話形態が自由会話であり、各々の話者が互いに知っ

ている情報を相手に伝えることが中心的话题であるため、その機能が頻出するかもしれない。もっと詳しく見ると、名詞終了の出現は、「情報要求」と「情報伝達」においてはほぼ同じ割合である。特に「接続助詞終了」では、「情報伝達」が占める割合がそれぞれ「情報要求」と「情報応答・情報提供」の五倍以上に上る。さらに、「情報伝達」における「接続助詞終了」の内訳を以下の表 4-10 で示す。

表 4-10 情報伝達における接続助詞終了の内訳

情報伝達における接続助詞終了の文末形式	出現数及び割合
けど／けども	22(49%)
から	4(9%)
ので	4(9%)
たら	2(4%)
たり	1(2%)
と	1(2%)
ながら	2(4%)
し	9(20%)
合計	45(100%)

上の表 4-10 から、情報伝達における接続助詞の文末形式は、「けど／けども」の使用傾向が最も目立ち、ほぼ全体の半数に上った。水谷信子(1989:57)は、「文末の「けど」「が」は、そこで話を切り上げず、自分が続けようとするか、あるいは相手が話し始めるのを待つ姿勢を示すために用いられている。相手を意識する度合いの高い話しことばでは、かなり頻繁に「けど」「が」の終わりかたが用いられている」としている。換言すれば、「情報伝達」における「けど」、「けども」などの多用は、話し相手のこれからの話の出方を伺う際に用いられる。水谷信子(1980)が指摘した共話に緊密な関連性を持つものと言える。

一方、モネイン(1984)は次の例 4-36 と例 4-37 をあげて、日本語の省略を Unitary Ellipsis(単位的省略)と Extended Ellipsis(拡張的省略)の二つのカテゴリーに分け、説明をしている。

例 4-36

(私は)風邪をひきましてね。

モネイン(1984:115)

#### 例 4-37

つまらないものですが...(どうぞお受け取り下さい、または、どうぞおおさめ下さい。)

モネイン(1984:115)

モネイン(1984)は例 4-36 について「構文のある特定のユニットが省略されている」(p.115)ため、こういうタイプの省略を **Unitary Ellipsis**(以下、**UE**)と名づけている。一方、例 4-37 に見られる「省略されている言語内容は、構文中の特定のユニットではなく、重文や複文にみられるような、一つまとまった句か文である。」(p.115)と述べ、**Extended Ellipsis**(以下、**EE**)と呼んでいる。本データにおける各機能における「名詞終了」の多用は上記のモネイン(1984)が指摘した **UE**(単位的省略)の表れだと考えられる。さらに、モネイン(同上)では、「文脈によって文意が明確であるため、**UE**が行われていても、文があいまいになっていない。このように、**UE**の果たす最大の役割は、言葉の労力の節約に他ならず」(p.116)と指摘している。本データの分析結果をモネイン(1984)の指摘と照らし合わせて考えると、各機能における名詞終了の頻出については、「です」や「だ」が省略されても、完全文と同等の情報量が話し相手にきちんと伝えられるためであると推測できる。

また、モネイン(1984)は、**EE**に関して、「ある社会状況においては、ある種の情報をあまり明確に言い表してはならない。特別な言葉のヒントを利用して示唆しなければならない。言い表されていない情報や意味は、聞き手に、文化的背景の範囲内で、特殊な言葉のヒントや文化的な意図の理解を通じて、聞き手の意識構造内で構成されるようにする」(p.116)と述べ、その機能は単なる言語労力の節約だけではなく、「日本文化の核をなす『謙遜』『遠慮』『間接的ないいまわし』などといった数々の美徳を行うための条件を満たしてくれるという機能をも持ち合わせている」(p.118)としている。言い換えれば、**EE**の使用は、対人配慮に強くかかわり、聞き手自身は省略された部分を自ら補完復元し、それを理解する力を持たなければならないということである。

一方、水谷信子(1989)は、日本語について「相づちを打つ習慣とも関連して、動詞や「です」「ます」以外で終わり、文としての形を整えていないものが多く用いられる。」(p.43)とし、普段の日常会話は「『けど』『から』『が』などの場合、文が途中である」とすると、圧倒的に不完結文が多くなるのが話しことばの実態である。」(p.46)と指摘し



ている。さらに「こうした「不完結文」を「完全」なものとしてとらえていくことが必要である。」(p.46-47)と提言し、文末省略については、次の四種類に分類している。

#### (1)倒置的な文末

これは後続部分が省かれているというより、前にすでに言ったことが暗示されている場合で、倒置ともとれるものである。

#### 例 4-38

ちょっと待ってください。お茶を入れますから。

水谷信子(1989:47)

#### (2)自明の動詞を省く

#### 例 4-39

夫:きょう誰か来た?

妻:別に誰も.....

水谷信子(1989:49-50)

#### (3)慣用的表現の後半を省く

「.....なければならない」などは後半が略されることが多い。

#### 例 4-40

山下:.....あ、誕生日といえば、あさっては弟の誕生日だから、何かやらなくちゃ.....

水谷信子(1989:51)

#### (4)待遇上の配慮からの省略

「待遇からの省略」と言ってもよいが、要は話し手が全部言い尽くしてしまうことを「心ない」と感じるため、この種の省略が生じることを学習者に理解させるべきであろう。

#### 例 4-41

ジョンソン:いまお忙しくないでしょうか。

高橋:いいえ、きょうはひまで、新聞を読んだり、テレビを見たりしていたんですよ。

なにか.....

上記の水谷信子(1989)があげた四つの文末省略のうち、(2)の「自明の動詞を省く」と(3)の「慣用的表現の後半を省く」はモネイン(1984)の UE に対応し、(4)の「待遇上の配慮からの省略」は EE に当たると考えられる。また、(1)の「倒置的な文末」については、厳密に言えば省略ではないが、水谷信子(2001)では、下の例 4-42 をあげながら、次のような説明をしている。

例 4-42

どうぞおかまいなく、すぐ失礼しますから。

と言う場合、「すぐ失礼しますから」の倒置と見るか、それぞれ独立した二つの文として、「すぐ失礼しますから」を「から」に終わる文と見るか、どちらも可能である。しかし、これは、文の単位ではなく、ディスコースの単位で考えて、こうした「から」をディスコース内の接続表現と考えることによって解決できるのではないかと考える。

水谷信子(2001:98)

したがって、本研究では、「共話」の視点から「言いさし文」を探求するため、分析する際に、上記の(1)のような場合も言いさし文と見なす。ちなみに、本データにおいても、例 4-38 のような「接続助詞終了」だけではなく、「副詞終了」の形で表されるものも多く観察されている。また、例 4-38 のような倒置が果たした機能は(4)と同じように相手に対する配慮とも取れる。(1)は文末省略というより、むしろ倒置することによって故意に文を未完成の形にしているとも言えるであろう。

また、再掲になるが、水谷信子(1989:46)は接続助詞終了について、「『けど』『から』『が』などの場合、文が途中であるとする、圧倒的に不完結文が多くなるのが話しことばの実態である。」と指摘している。表 4-1 と表 4-2 に基づき、各文末形式終了の出現率を算出したものは表 4-11 に、また、各機能と各文末形式の対応関係については表 4-12 に示す。これらの二つの表から、前述の水谷信子(1989)の論を検証してみる。

表 4-11 各文末形式の出現数及び出現率

各品詞終了の文末形式	各形式の出現数及び出現率
名詞終了	119(30%)
副詞終了	30(8%)
接続助詞終了	59(15%)
副助詞終了	42(11%)
格助詞終了	32(8%)
て形終了	22(6%)
その他	88(22%)
合計	392(100%)

表 4-12 各機能と各文末形式の対応関係

	情報要求	情報伝達	情報応答・情報提供	その他	合計
名詞終了	47(40%)	49(41%)	19(16%)	4(3%)	119 (100%)
副詞終了	8(27%)	16(53%)	4(13%)	2(7%)	30 (100%)
接続助詞終了	5(8%)	45(76%)	8(14%)	1(2%)	59(100%)
副助詞終了	10(24%)	24(57%)	8(19%)	0%	42(100%)
格助詞終了	0%	24(75%)	6(19%)	2(6%)	32(100%)
て形終了	0%	18(82%)	4(18%)	0%	22 (100%)
その他	13(15%)	58(66%)	12(14%)	5(5%)	88 (100%)

まず、表 4-11 の各文末形式の出現率について確認してみると、最も出現率が高かったのは「名詞終了」で、「その他」、「接続助詞終了」、「副助詞終了」と続き、「副詞終了」と「格助詞終了」が同率で、最も出現率が低いのは「て形終了」であった。本データの数値から見ると、「名詞終了」の使用が「接続助詞終了」の約二倍であり、「その他」の出現率も「接続助詞終了」の出現率を上回っている。前述の水谷信子(1989)が指摘したように圧倒的に接続助詞終了が多数であるという結果は見られないが、これは本論文が取り扱った言いさし文がより広範囲であったためかもしれない。次に、機能と各品詞終了の対応関係に関しては、表 4-12 が示す通り、「情報伝達」の出現率の高さが目立ったが、これは分析資料が自然会話のため、ある程度は予想されていたことである。各文末形式における「情報伝達」の出現率の高さについては、「て形終了」、「接続助詞終了」、

「格助詞終了」、「その他」、「副詞終了」、「名詞終了」という順であった。

水谷信子(1980)が指摘した「共話」の観点から考えると、「て形終了」及び「接続助詞終了」の多用は両方とも話し相手の出方を伺い、話の続きを相手に引き取ってもらうか、または話者自身が続けるかという機能を果たしていると考えられる。また、その他の多くに含まれる「みたいな」、「ような」、「という」及び副助詞の中に属している「とか」などは、不確定な情報を表しており、機能的に類似しているが、品詞分類だけではまとめきれないため、次節で分析する。

#### 4.3.4 文末におけるぼかし表現

日本語の曖昧性についてはしばしば指摘される場所である。中村(1983:302)は次のように述べている。

聞き手との関係を大切にする日本人の言語行動では、ものをはっきり言いすぎることを警戒する。あまりに明確な表現は、解釈の幅がないため、相手の判断をあおぐという姿勢に欠ける。つまり、送り手の考えるただ一つの意味を受け手が否応なく認めねばならないような的確な表現は、受け手の自主的な判断の余地を残さないで、相手に強く響くわけだ。そこで、あたりをやわらかくするために、なんらかの《ぼかし》をもうけようとする。

中村(1983:302)

また、平成 11 年度と平成 16 年度の「国語に関する世論調査」では、「鈴木さんと話とかしてました。」や「わたし的にはそう思います。」のような文が、特に二十代や十代の若者に多く認められ、使われていることが報告されている。こういう「ぼかす言い方」は本データにおいても文末に多く出現する傾向があることが観察されている。これらの表現は特に実質的な意味を持たず、取り除かれても文意が変わることはないが、主に対人関係には影響を及ぼす可能性がある。本節では、品詞の枠を超え、機能的に類似している「とか」、「的に」、「みたいな」、「たり」、「感じ」などを分析する。

##### 4.3.4.1 分析対象

本研究では、陳一吟(2013)、王(2015)を参考にし、以下の表現が文末に出現するものを分析対象とし、品詞ごとに次の表 4-13 で示す。

表 4-13 文末の品詞の種類及びその内訳

文末の品詞種類	内訳
名詞	感じ、みたいな感じで <sup>5</sup> 、等
副詞	なんか、なんかに <sup>6</sup> 、等
助詞	とか、とかも、たり、等
て形	かなと思って、気がして、等
その他	みたいな、ような、的な、等

また、ぼかし表現の認定については、同じ「て形」で終了していても、引用助詞として使われる「って」と動詞が前置した「思って」などの「て形終了」は区別する。さらに、文脈などの要素も考慮して、同じ言語表現であっても、ぼかし表現として捉えられるものと捉えられないものがある。それらは例 4-43、例 4-44 を参照されたい。

#### ぼかし表現として捉えられないもの

##### 例 4-43

3-184-JFF だからで今局会式してるんですよ、あれが。

3-185-JFG ああ、なるほど。うちの研究室の後輩も…。

3-186-JFF えっ、誰ですか？

3-187-JFG ○○さん。

3-188-JFF はい、知ってます。あの。広報局なんか、はい。

3-189-JFG ああ、本当？

3-190-JFF なるほど、えっ、なにけ、研究室って?①

3-191-JFG あ、中国文学研究室。

例 4-43 では、JFF と JFG は共通の知り合いについて確認している場面である。JFF は①のところで「って」でその共通の知り合いの所属研究室を JFG に聞く。この「って」は不明瞭な点を聞き手に問い返す役割を担っている。守時(1994:93)はこの「って」について以下のように説明している。

<sup>5</sup> 文末に「で」で助詞終了しているが、本論文においては名詞終了に分類している。

<sup>6</sup> 文末に「に」で助詞終了しているが、本論文では副詞終了として取り扱っている。

談話は、談話に参加している人がお互いの発話を理解し合あいながら進めていくものであるから、何らかの原因で理解が阻害された場合は、談話を続行することが不可能になる。このとき、問題になっている表現をマークするのが「ッテ」であり、言葉自体の意味や発話意図を尋ねるのである。

守時(1994:93)

したがって、ここでの「って」は発話内容をぼかす機能を持っておらず、むしろ肝心なところを浮かび上がらせる提題の用法だと考えられる。

例 4-44

5-97-JMJ いや、実はマクダビットですね。誰か、手袋使うじゃないですか、打つ時。

5-98-JMK うん。

5-99-JMJ それになんか、そういう風に巻きつけて、なんかフィット感アップさせて、なんか力入れるようにする、(えー)それはマクダビットです。

5-100-JMK あれ、試合つけてもいいと?

5-101-JMJ つけていいです。なんか、ここに、つけるやつですね。なんか、スリルがちょっとだけあって、力入るらしいですよ。いい感じ。①

例 4-44 は、JMJ と JMK がスポーツ用品について話している場面である。JMJ はマクダビットというスポーツ用品のブランドをかなり推奨しており、①の発話の「感じ」は使い心地の良さについて言っているので、ぼかしとしての機能は果たしていない。

例 4-45

2-75-JFC て言うかね、お姉ちゃんがね、20 歳上の人と結婚するかも。①

2-76-JFC 大丈夫なんかいなあ。

例 4-45 では、JFC は自分のお姉さんの結婚に対する心配を口にしてしている。①で使っている「かも」は結婚ということの可能性を示すと思われるので、ぼかしとしては捉えない。

ぼかし表現として捉えられるもの

例 4-46

3-86-JFG なんか理系だったら、もう、技術(あ、あ)なんか、企業が求めているから、(なるほど)やっぱ九大生、(うーん)なんか、結構 XX 重宝されてるっていうか...

3-87-JFF なんか、九州内は九大の地位はすごい高いらしいですよ。

3-88-JFG うーん。九州内では。

3-89-JFF (笑い)九州内では。

3-90-JFG (笑い)文系だと、やっぱり、なんか、文系だと、何も、技術とか、(おー)特別な知識、九大生だから、何か持っているっていう(うーん)ものがないから、なんか面接次第っていう感じ、(おー)そこまでなんか九大生だからっていう感じない。①

3-91-JFF うーん、なるほど。なんかもう、院行くか行かないかどうしようかなって。

②

例 4-46 では、JFF と JFG が就職のコンプレックスに関して話題にしている。JFG は①で、たとえ九大の学歴を持っていても、文系である以上企業に就職するにはそれほど有利ではないという自分の意見を述べ、それを聞いた JFF は②で就職するより、進学など別の進路でも考えようかなと自分の悩みを打ち明けている。この②の文末に使われている「って」は、守時(1994:94)が、「自分の発言に無責任そうだとか、語調が弱まっているなどという印象を受ける」と見なすものである。したがって、この「って」は、発話内容をぼかし、JFF の心内の躊躇を表し、ソフト化を狙っている機能を持つと考える。

例 4-47

2-112-JFC やけん、すごい、今日家が騒がしかった。

2-113-JFD マジ?

2-114-JFC うん、どうなるっちゃろうって感じ。①

例 4-47 では、JFC は家庭の事情のため今日は家が大騒ぎであったことを JFD に話している場面である。①に見られる「感じ」を省略しても発話全体の意味は変わらず、自分自身の気持ちをそのまま直接的に表現するのではなく、まるで傍観者のような観点から述べており、言語行動をぼかす機能を果たしている。

例 4-48

5-242-JMJ そうですね。N棟は永遠卒業しなさそうな人いますし。

5-243-JMK 永遠卒業しなさそうな？

5-244-JMJ はい。

5-245-JMK 俺かも?①

5-246-JMJ いやいや、〇〇さんじゃないです。〇〇さんとか。

5-247-JMK 〇..

5-248-JMJ 〇〇さんとか、XX20さんとか

5-249-JMK はははは

5-250-JMJ はははは

例 4-48 では、JM<sub>J</sub> が JM<sub>K</sub> に N 棟に大学卒業できない人間がいると伝えている場面である。JM<sub>K</sub> は①のところで「かも」をつけて自分のことを指しているのかと JM<sub>J</sub> に反問している。実際には、この「かも」をとっても相手に伝える話しの内容は変わらないが、「かも」をつけることによって、発話を和らげ、少し自虐的なユーモアで話し相手の笑いを誘い、会話の盛りあげを図っていると考えられる。

#### 4.3.4.2 文末におけるぼかし表現の出現実態

まず、全 392 例の言いさし文の中において、文末に「みたいな」、「とか」、「たり」、「的に」などのぼかし表現は 100 例出現しており、出現率は言いさし文全体の 約 26% を占めている。また、各文末におけるぼかし表現の内訳を出現率の高い順に並べると表 4-14 になる。



表 4-14 各文末におけるぼかし表現の出現率

ぼかし表現の種類	出現数及び全ぼかし表現における使用割合
みたいな	51(51%)
とか／とかも	17(17%)
感じ／感じで	7(7%)
なんか／なんかに	5(5%)
ていうか／っていう／てか	5(5%)
って	3(3%)
って思って／と思って	3(3%)
的に／的な	3(3%)
たり	2(2%)
ような／そうな	2(2%)
かも	1(1%)
気がして	1(1%)
合計	100(100%)

表 4-14 から見ると、ぼかし表現全体の中では、「みたいな」の出現率が圧倒的に高く、全体の半数を超え、かなり偏っていると言える。次いで、「とか／とかも」も比較的出现率が高いが、それ以外の出現率はいずれも 10%を超えない。佐竹(1997)は「みたいな」に関して、若者ことばの特徴である「客観化表現」について言及し、「自分自身の気持ちを、直接的に表現するのではなく、第三者の立場から客観的に述べている形式になっている」(p.59)と述べ、「自分が十分に判断できることがらであるのに、それを他人による推量の形を借りて表現している」とらえている」(p.59)とする。つまり、「自分自身の問題を自分自身のこととして直接言及せず、それによって何らかの効果を狙っているということである」(p.59-60)と指摘している。一方、陣内(2006)は、「現代の若者の間で一般的となった「とか」や「みたいな」などの新ぼかし表現は、逆に、改まりを減じる効果を持っている。つまり、相手との親和性を高める効果が見られる。」(p.115)という見解を示している。陣内(2006)の指摘に従えば、文末におけるぼかし表現の使用はこれまで多く論じられてきた言いさし文が示す対人配慮というよりは、相手に対する親近感、相手にもっと近づきたい気持ちを示す機能を持っていると解釈できる。もちろん、

参加者の年代が異なる会話データではこのぼかし表現の出現については異なる結果が得られる可能性がある。その点については今後の課題にしたい。

次に、文末におけるぼかし表現と言いさし文の三つの機能の対応関係を表 4-15 に示す。

表 4-15 文末におけるぼかし表現と各機能の対応関係

	情報要求	情報伝達	情報応答・情報提供
みたいな	5(45%)	39(55%)	7(38%)
とか／とかも	2(19%)	9(13%)	6(32%)
感じ／感じで	0%	6(8%)	1(6%)
なんか／なんかに	1(9%)	3(4%)	1(6%)
ていうか／っていう／てか	0%	4(6%)	1(6%)
って	0%	2(3%)	1(6%)
って思って／と違って	0%	2(3%)	1(6%)
的に／的な	1(9%)	2(3%)	0%
かも	1(9%)	0%	0%
ような／そうな	0%	2(3%)	0%
たり	1(9%)	1(1%)	0%
気がして	0%	1(1%)	0%
合計	11(100%)	71(100%)	18(100%)

表 4-15 から、当該三種の機能においては、「情報伝達」が文末におけるぼかし表現の中心的機能であり、表現様式も多様であることがわかる。特に「みたいな」の出現が圧倒的に高いが、その理由の一つとして、若者の会話においては、「みたいな」が様々の表現に後接されることが考えられる。例 4-49 のように、「えっ」の後ろに「みたいな」をつけ、話者自身の感情を客観的に表したような表現も多く観察された。

#### 例 4-49

2-75-JFC て言うかね、お姉ちゃんがね、20 歳上の人と結婚するかも。

2-76-JFC 大丈夫なんかいなあ。

2-77-JFD おねえちゃんなんさい。

- 2-78-JFC 27。
- 2-79-JFC だけん、相手 47 ぐらい。
- 2-80-JFD 大丈夫ぼんとは言わんけど。
- 2-81-JFC 聞いて、何かね、その人今、お姉ちゃん今岡山において、今年宮崎にかえるっちゃん。
- 2-82-JFD はいはいはいはい。
- 2-83-JFC で、その人仕事辞めて、宮崎についてくるっていうっちゃん。
- 2-84-JFC えっみたいな。
- 2-85-JFD 大変くない？
- 2-86-JFC そうそう。
- 2-87-JFD お母さん今日お姉ちゃんから電話かかってきて、そうなんようみたいな。
- ①
- 2-88-JFC えっみたいな。
- 2-89-JFD だめじゃない？
- 2-90-JFC そう、やばい。

例 4-49 は、JFC が JFD に自分のお姉さんが二十歳以上年上の人間と結婚するという話をしている場面である。この話を聞いた JFC は二回も「えっ」の後ろに「みたい

な」をつけて自分の驚きの気持ちをまるで他人事のように表している。一方、話し相手の JFD は推測の形で JFC の気持ちを代弁するように①の発話で「みたい

な」を文末に付け、自分も当事者である JFC と同化するような形で会話に溶け込み、相手との連帯感を形成している。

次に、各文末のぼかし表現が示す三つの機能を例 4-50 から例 4-73 の実例で示す。

## 情報要求

みたいな

### 例 4-50

- 1-289-JFA で、みんなが大体興味ある(うん)企業を考えて、午前行くか午後行くか決めて、で、まあ、でも、午前から行けたら一番いいね。
- 1-290-JFB うん。

- 1-291-JFA だって、どのぐらい時間かかるか分からないし。
- 1-292-JFA で、午前から行く、ま、早めに終わったら、みんなでどっか行きたいね(笑)、バーゲンとか。
- 1-293-JFB たぶんそっちに頭がいてしまうかな。
- 1-294-JFA うんうん。
- 1-295-JFB もう、もう、よくない?、帰るみたいな。
- 1-296-JFA もういいっか、みたいな。
- 1-297-JFB もういいっか、ちょっともうよくない?みたいな。
- 1-298-JFA ま、とりあえず、いろんな(うん)企業があるんだなっていうだけ見て。

とか／とかも

例 4-51

- 1-11-JFA ねえ、就活ノート作らないと。
- 1-12-JFA もう、エントリーとかした?、いっぱい、全然 Web とかも?
- 1-13-JFB うーん、どうしよう。

なんか／なんか

例 4-52

- 3-153-JFG おー、何が作れるようになりたい?
- 3-154-JFF それは、しょうが...、おせち料理ですか?
- 3-155-JFG うん。
- 3-156-JFF なんか、伊達巻?
- 3-157-JFG だ..(えっ)卵なんか?
- 3-158-JFF はい。

的に／的な

例 4-53

- 1-37-JFB だって、安住さんとかさ、記念受験やったもんね、あのアナウンス、サーのやつ。
- 1-38-JFA えっ、記念受験で受かった的な?
- 1-39-JFB そうそう。

かも

例 4-54

5-242-JMJ そうですね。N棟は永遠卒業しなさそうな人いますし。

5-243-JMK 永遠卒業しなさそうなの？

5-244-JMJ はい。

5-245-JMK 俺かも？

5-246-JMJ いやいや、〇〇さんじゃないです。〇〇さんとか。

5-247-JMK 〇..

5-248-JMJ 〇〇さんとか、XX20さんとか

5-249-JMK はははは

5-250-JMJ はははは

たり

例 4-55

3-18-JFG 〇〇ちゃんはなんかバイトしてるたっけ？

3-19-JFF XXX、学校、九大生協がやってる(うん)九大生協がやってるかわかんないですけど、XXXXというパソコン講習会を(うん)なんか、運営する、やつやっています。

3-20-JFG バイト？

3-21-JFF はい。

3-22-JFG XX、じゃ、(XXX)パソコン(はい)についてなんか、なんか、教えたり？

3-23-JFF するんですけど、私パソコンすごい苦手なんで、(うん)なんか、そ、私のパソコン苦手の状況知ってる人を(うん)、えっ、〇〇ちゃんがパソコンを教えるのみたいな感じの、ものすごい失礼な(笑い)反応されるんです。

情報伝達

みたいな

例 4-56

1-229-JFA でなんか、服装気になるじゃん。

1-230-JFB うん。

1-231-JFA いつもなんか、ドレスと、着物と(うん)、なんか、しかも、ドレスめっちゃ派手、なイブニングドレスみたいな、めっちゃ(挿入)、露出みたいな。

1-232-JFB (挿入)袴も、あるよね。

とか／とかも

例 4-57

1-267-JFA なんか、その、斜めに襟(うん)がなってるところか、めっちゃかわいいやん、ああいうのほしい。

1-268-JFB 似合いそう、まじ。

1-269-JFA あとなんか、髪、髪、の形ってか、スタイルもさ、すごいよね。

1-270-JFB うん。

1-271-JFA ぐるぐる巻いてあるやん髪とか。

1-272-JFB なんか、この辺から、こう来るやん。

1-273-JFA そうそうそう、かっこういいよね。

感じ／感じで

例 4-58

3-205-JFG ああ、当日も忙しいんだ。

3-206-JFF えっ、当日めっちゃ忙しいです。だって、その、その企画団体と XX 準備する日があるんじゃないですか。

3-207-JFG うん。

3-208-JFF その XXXXXXXX、その委員準備日というのが木曜日からあって、って、木曜日その授業終わってから行ったんですけど、まあ、週末まで行って、その、準備日は、その、あの、準備日と当日二日と片付けはもう朝七時集合で、(へえー)その、夜分もタクシーを使っても、週末も無視しても十時、十一時すぎぐらいあって、二十日の朝なんですけど、ていうか、一時間ぐらいしか寝なくて、(えー)それで、(うん)テント吹き飛んだ、えーみたいな感じ...

なんか／なんかに

例 4-59

5-37-JMJ まあ、野球もそうですし、今、このぴったりしたタイプのやつを流行らせ、流行らせたのがアンダーアーマーらしくて(えー)なんか、これを開発した人が日本にやってきた時に、なんか相当革新的なウェアだみたいな感じなんて(えー)今プロの、プロでも 70 パーぐらい、7 割近くがもうこういうぴったりしたアンダーシャツを(あ、

確かに) プロ野球選手が使ってるし

5-38-JMK うん、高校球児用とかもなんかさ、でもなんかマークが出とったらいかんやろ感じ

5-39-JMJ そうですね、はい。

5-40-JMK なんかマーク隠せるようなさ、白じゃなくて、同じ色みたいな

5-41-JMJ あれ、XXX で忘れましたが、なんか

5-42-JMK いろんな色があって、高級生地用で、なんか

5-43-JMJ はい。

5-44-JMK マークが隠れる、なんか

ていうか／っていう／てか

例 4-60

6-74-JMM ○○さん、テレビ見られますか？

6-75-JML テレビ、あんまり見ない。

6-76-JMM 俺、こっち来て全然見てないから、今多分情報が何も (あ) XXX、小林幸子が、なんか、泥沼化しているっていう...

って

例 4-61

3-90-JFG (笑い) 文系だと、やっぱり、なんか、文系だと、何も、技術とか (お一) 特別な知識、九大生だから、何か持ってるっていう (うーん) ものがないから、なんか面接次第っていう感じ、(お一) そこまでなんか九大生だからっていうの感じない

3-91-JFF うーん、なるほど。なんかもう、院行くか行かないかどうしようかなって

って思って／とって

例 4-62

1-237-JFB え、袴がいいな。

1-238-JFA 袴いいよね。

1-239-JFA でも、レンタルせないかんしな。

1-240-JFB 袴がいい。

1-241-JFA 自分で着物着ようかなとって。

的に／的な

例 4-63

5-88-JMK XXXX はなんかマークが格好いい、俺、俺的に。

5-89-JMJ なんか、三つなんか（そうそうそう）正六角形みたいなやつでしょう？

5-90-JMK 蜂、蜂の巣みたい。

5-91-JMJ はい。

ような／そうな

例 4-64

4-51-JMH 趣味じゃねえ、それ。(笑)

4-52-JMI 趣味じゃない。

4-53-JMH いや、結構お金使ってるような。

たり

例 4-65

1-302-JFA で、なんか、JTB は、ご、何だろう、就活ってさ、前期、後期分かれてるじゃん(うん)、夏休み前、夏休み後とか、その途中とか、で、JTB は春やって、夏入る前にもう一回二回目があるんよ。

1-303-JFB えー。

1-304-JFA だけん、一回目は、とりあえず、福岡の方受けて(うん)、それでだめだったら、なんか東京とかのやつも後で受けようかな(うん)っていうのもありかなって思ったり。

情報応答・情報提供

みたいな

例 4-66

6-141-JML あー、発砲事件とかなんかそんな気にしてない XX、近所なんか、夏祭りやる場所があるの。そこにずっと止めてあるバンがあって、そこから腐乱死体が出てきた時は、結構ニュースになった。

6-142-JMM えー、腐乱死体ですか？

6-143-JML うん。

6-144-JMM そうあるんだ。えー腐乱死体ですか？えーバン XX 開けたら？

6-145-JML なんかつつとあって、なんか異臭がするみたいな騒ぎになって、って、調



べてみたら、遺体が入ってましたみたいな

とか／とかも

例 4-67

3-68-JFG いや、できるよ。私、最近、(はい) TOEIC、あの、うん、慌てて勉強し出して(うーん)、就活に間に合わせようと思って

3-69-JFF XX、就活っていくらいるんですか？

3-70-JFG うん？あ一点数？

3-71-JFF はい。なんか、大学院に行くには、なんか、何百点越えとか

感じ／感じで

例 4-68

2-112-JFC やけん、すごい、今日家が騒がしかった。

2-113-JFD マジ？

2-114-JFC うん、どうなるっちゃろうって感じ。

なんか／なんかに

例 4-69

3-90-JFG (笑い) 文系だと、やっぱり、なんか、文系だと、何も、技術とか(おー) 特別な知識、九大生だから、何か持ってるっていう(うーん)ものがないから、なんか面接次第っていう感じ、(おー)そこまでなんか九大生だからっていうの感じない

3-91-JFF うーん、なるほど。なんかもう、院行くか行かないかどうしようかなって

3-92-JFG あ一行けるもん。うちの友達の農学部の友達

3-93-JFF えっ、そう、まじですか？

3-94-JFG うん、就職。県庁、なんか、佐賀県庁なんかに

ていうか／っていう／てか

例 4-70

3-81-JFF おー、なんか、その、農学部で、なんか、(うん) 研究とかするじゃないですか？(うん) それだったら、院に行かないと、なんか、(あー) 深いことできないみたいな感じで、(うん) だから、院行かんのかなみたいな、8,7割ぐらいが多分院行くんで

3-82-JFF うーん。結構理系は、(はい) なんか企業とかと一緒に研究やってたりするから、(あーですよ) 就活最近ね、あの、やってたら、理系がうらやましいなと思っ

た時が、(笑い) ちょっとある。

3-83-JFF 企業とコネクションですか

3-84-JFG うん、なんかエントリーシートとかも(おー)あんまり出し、なんか、五社ぐらい出した(はい)、って、大体受かる(うーん)って聞いたから、なんか面接も受かるって聞いたから(へー)、文系だと、三、二三十社を(まじっすか)送って、って、面接もガンガン三回とか四回一社につき、受けて、になるから。

3-85-JFF おー、それ、その研究とかで、その企業と顔見知りだからというですか？

3-86-JFG なんか理系だったら、もう、技術(あ、あ)なんか、企業が求めてるから、(なるほど)やっぱ九大生、(うーん)なんか、結構 **XX** 重宝されるっていうか...

#### って思って／とって

例 4-71

1-94-JFA じゃ、一緒に受けよっか。

1-95-JFB はははは。

1-96-JFA でも、あれって、三年だけやったっけ？

1-97-JFB うん、私もしそこ受かったら(うん)、そこ行って、で、その後、パイロットになってもいいし(おー)、で、ANA とかもう一回受け直してもいいし、それか、旅行会社とか受けてもいいかなと思って。

#### 気がして

例 4-72

1-22-JFB なんかね、エアラインもやめよっかな。

1-23-JFA えっ、やめるの？

1-24-JFB うん。

1-25-JFA 全く？一個も受けない？

1-26-JFB なんかね、私やっぱ、エアラインじゃない気がして。

本節では、品詞の枠を超え、会話データから言いさし文の中で、ぼかしの機能を果たす表現を抽出し、使用実態について調べた。その主な結果は次の通りである。

まず、全言いさし文の中で、文末におけるぼかし表現の出現率は約 26%であった。次に、文末では、十二種類のぼかし表現が収集され、なかでも「みたいな」は文末におけるぼかし表現全体の半数以上の出現率であった。また、言いさし文における「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」の三つの機能と文末におけるぼかし表現の対

応関係に関しては、「情報伝達」の機能を持って出現したものが多く十二種類のうち十種類がそのような状況を示していた。そのうち、特に「みたいな」の出現数は全体の半分以上を占めていた。辻(1999)は 1998 年 4 月 27 日に大学生 253 名を対象者に実施した若者語の使用に関するアンケート調査結果の中で、若者語の接触・使用・意識について図 4-2 を示している。(注:以下の参考文献については、引用年代には差があるが、これらのぼかし表現の使用は若者を中心にするには変化がないと考えられるため、そのまま引用した。)

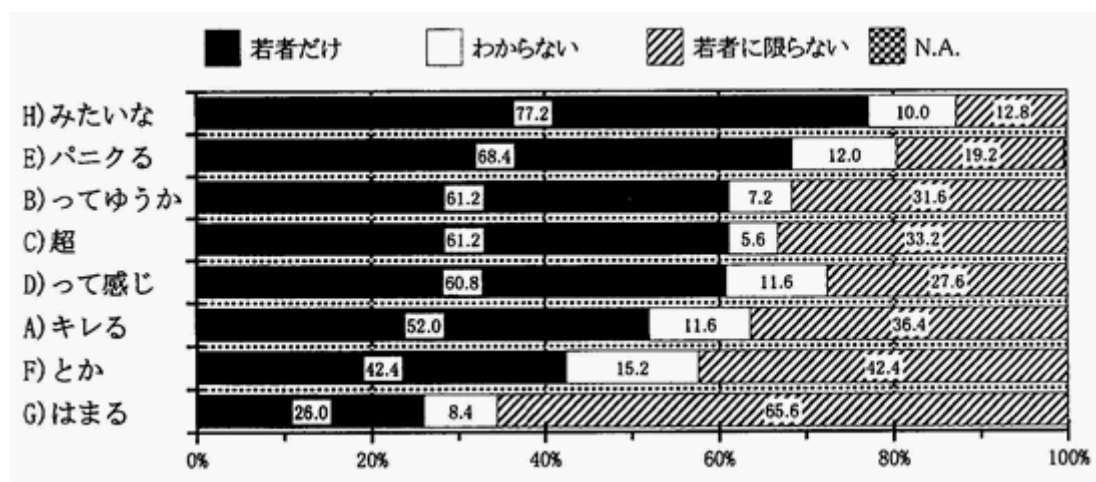


図 4-2 「若者語としての認知度」(辻 1999:25)

図 4-2 によれば、「みたいな」は「若者だけ」が使用するとした者は全体の 77.2%にも上り、同語が若者語としてかなり定着していることを示していると考えられる。

また、平成 26 年度の国語に関する世論調査の「使うことのある言い方か」という項目の中で、「とても良かった」ということを、「とても良かったかな、みたいな...」と言って相手の反応を見る」という設問に対して、表 4-16 のような回答が得られた。

表 4-16 若者の言い方の使用頻度 (数字%)

		平成 26 年度	平成 16 年度	平成 11 年度
「とても良かった」ということを、「とても良かったかな、みたいな...」と言って相手の反応を見る	ある	17.5	15.0	13.0
	ない	82.2	84.4	85.2

(平成 26 年度「国語に関する世論調査」の結果概要:13)

表 4-16 からわかるように、「良かったかな、みたいな…」の「ある」と回答した人の割合は、平成 11 年度から平成 16 年度にかけて、2 ポイント増加し、さらに 26 年度の結果では、さらに 2.5 ポイント増加している。一方、「ない」と回答した人の割合は、平成 11 年度から平成 16 年度にかけて、0.8 ポイント減少し、さらに 26 年度では 2.2 ポイント減少したとの結果が出ている。以上の調査結果から、「みたいな」の使用は年ごとに浸透していっていると言えるであろう。さらに、平成 26 年度「国語に関する世論調査」は使用年齢層について図 4-3 の結果を示している。

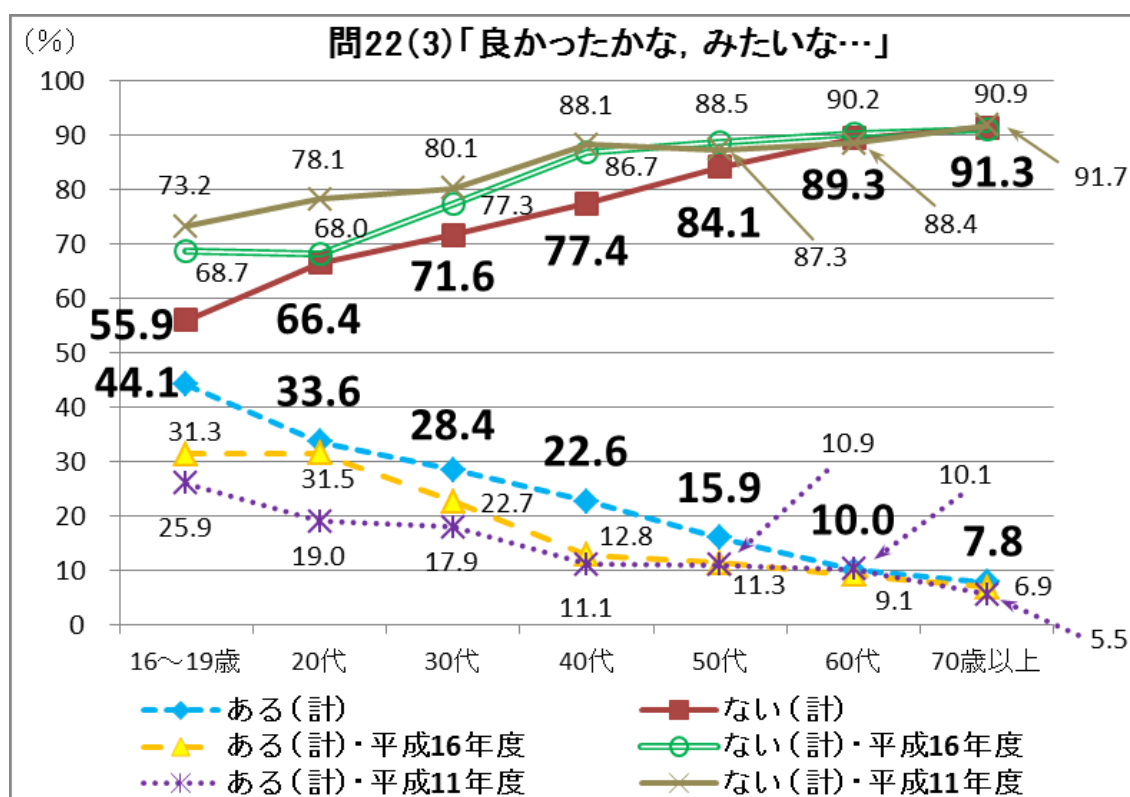


図 4-3 「みたいな」の使用年齢層 (平成 26 年度「国語に関する世論調査」の結果概要:14)

図 4-3 から、「良かったかな、みたいな…」という言い方をすることがあると回答した割合を年齢別にみると、16~19 歳で 44.1%、続いて二十代で 33.6%と年代が上がるごとに徐々に使用率が減っていく。以上の調査結果から、「みたいな」の使用は若者言葉の特徴の一つと言えよう。したがって、本研究の調査結果の「みたいな」の頻出はやはり会話参加者の属性によると考えられる。

また、実際の会話を分析した結果によれば、「みたいな」の使用は、従来「ぼかし表

現」の機能とされてきた相手への配慮や、自分の判断を和らげるためだけでなく、相手との連帯感の形成、会話促進に寄与していることがわかった。しかしながら、異なる場面や年齢層におけるぼかし表現の使用状況からは異なる結果が出る可能性がある。それらについての考察は今後の課題にしたい。

#### 4.4 日本語の言いさし文の男女差について

##### 4.4.1 使用頻度から見る言いさし文の形式の男女差

言葉の使用における男女差の存在については、男性の言葉遣いは「はっきり」、「直接的」、「断定的」であるのに対して、女性の言葉遣いは「丁寧」、「やわらかい」、「間接的」としばしば指摘されている(井出 1997 など)。また、Tannen(1990)は、男性は、社会地位を重視し、自分の意見を前面に出し、強く主張する競争的な話し方をする傾向があるという。一方、女性は、男性と正反対に、人間と人間の繋がりを大切にし、相手との共通点を見つけ出し、対立を避ける協同的な話し方のほうを好むとしている。また、日本語の会話スタイルはあいまいであると指摘されてきている。中山(1985)では、日本人の「あいまい表現」を好む心理に関しては、次のような見解が示されている。

日本人は、人と人とのコミュニケーションに際して、お互いに相手の感情の動きに気を配り、できるだけ相手の意に沿った形でコミュニケーションしようと心掛ける。従って、相手の意に沿わぬ事柄を伝達しようとする場合、婉曲であいまいな表現をとることによって相手の感情を傷つけることをできるだけ避けようとするのである。

中山(1985:66-67)

本節では、以上の先行研究を踏まえ、自然会話において、日本人女性は男性より多く言いさし文を使うか、また、言いさし文を使用する際、どのような男女差が存在しているかを検証する。

まず、データから抽出された言いさし文の文末形式を品詞ごとに整理し、男女別に分けたものを表 4-17 に示す。

表 4-17 男女別の各言いさし文の使用状況

性別	全発話文における 言いさし文の出現 数とその出現率 (%)	各文末形式の出現数とその出現率(%)				
		名詞終了(%)	副詞終了(%)	助詞終了(%)	て形終了	その他(%)
男性	168 (29%)	42(25%)	21(13%)	66 (39%)	7(4%)	32 (19%)
女性	224(47%)	69(31%)	21(9%)	67 (30%)	15(6%)	53 (24%)

表 4-17 からわかるように、男女別に言いさし文の使用頻度を見てみると、男性同士の 579 例の発話文の中で 168 例の言いさし文が使用されていたのに対して、女性同士の全 477 例の発話文の中では 224 例で言いさし文が使用されていた。出現率は、男性同士は 29%、女性同士は 47% で、女性同士の出現率のほうが高い。これは先行研究でも指摘されているように、男性より女性のほうが婉曲的な言い方を好む傾向があることを示したものと言える。また、言いさし文の文末形式を男女別に見ると、「名詞終了」と「その他」においては、女性の出現率がやや高い傾向があるのに対して、「副詞終了」と「助詞終了」については、男性の出現率の方が高い傾向が見られた。

さらに、男女いずれにおいても出現率が最も高かった「助詞終了」を男女別にさらに細分すると、表 4-18 のような結果となった。

表 4-18 男女別の文末の各助詞終了形式の出現数及び出現率

性別	全言いさし文における助詞終 了の出現数とその出現率(%)	各助詞終了形式の出現数とその出現率(%)		
		接続助詞終了(%)	副助詞終了(%)	格助詞終了(%)
男性	66 (100%)	31 (47%)	20(30%)	15(23%)
女性	67 (100%)	28 (42%)	23(34%)	16(24%)

表 4-18 が示す通り、「助詞終了」の内訳を見ると、男性と女性の「助詞終了」の出現率はほぼ同程度あることがわかった。使用された助詞別の出現率を見ても、男女間で特に差は見られなかった。

また、「助詞終了」の中で、男女ともに出現率が最も高い「接続助詞終了」の男女別の使用状況を調べた。表 4-19 にその結果を示す。

表 4-19 男女別の文末の接続助詞終了の使用状況

	けど／けども	から	ので	たら	たり	と	ながら	し	小計
男性	18(58%)	1(3%)	3(10%)	2(6%)			1(3%)	6(20%)	31(100%)
女性	11(38%)	3(11%)	3(11%)	3(11%)	2(7%)	1(4%)	1(4%)	4(14%)	28(100%)

表 4-19 から、まず、男女別の各接続助詞の使用状況を見てみると、男性より女性のほうが使用する接続助詞の種類が多かった。詳しく見ると、「けど／けども」、「し」の出現率については、男性の出現率のほうが高いのに対して、「から」、「たら」の使用は女性のほうが高い傾向を示した。全体的に言えば、女性が使用した言いさし文の文末形式のほうが男性のそれより多様であることが確認された。

次に、文末におけるぼかし表現の使用実態を男女別に分け、その内訳を表 4-20 で示す。

表 4-20 男女別のぼかし表現の使用実態

	男性	女性
みたいな	18(44%)	33(56%)
とか／とかも	10(25%)	7(12%)
感じ／感じで	2(5%)	5(9%)
なんか／なんかに	3(7%)	2(3%)
ていうか／っていう／てか	4(10%)	1(2%)
って	0%	3(5%)
って思って／とって	0%	3(5%)
的に／的な	1(2%)	2(3%)
たり	0%	2(3%)
ような／そうな	2(5%)	0%
かも	1(2%)	0%
気がして	0%	1(2%)
合計	41(100%)	59(100%)

まず、全 100 例の文末におけるぼかし表現のうち、男性によって使用されたものは

41%、女性によって使用されたものは 59%であった。つまり、女性のほうが男性よりも文末におけるぼかし表現を使用する率が高いということである。次に、データから抽出された文末におけるぼかし表現全十二種類のうち、男性が使用していたのは八種類、女性が使用していたのは十種類であった。つまり、文末におけるぼかし表現の使用形態の種類に関しては、女性の方が男性よりもバリエーションが多様ということである。さらに特筆すべき点として、男女いずれにおいても「みたいな」の使用が突出し、特に女性の場合、使用したぼかし表現全体の半数を超えていた。

次に、これまで扱ってきた言いさし文の機能のいずれも確認できなかった 14 例の発話を除いた全 378 例の言いさし文を機能別に分けたものを、表 4-21 に示す。

表 4-21 男女別の言いさし文の機能の使用実態

	男性	女性
情報要求	34(21%)	49(22%)
情報伝達	98(61%)	136(62%)
情報応答・情報提供	28(18%)	33(16%)
合計	160(100%)	218(100%)

表 4-21 から、男女別の言いさし文の機能に関しては、「情報要求」の機能を持つ言いさし文が男性 21%、女性 22%、「情報伝達」の機能を持つ言いさし文は男性が 61%、女性が 62%、「情報応答・情報提供」の機能を持つ言いさし文については、男性が 28%で、女性が 33%であった。全体的に言えば、男女別での言いさし文における機能の運用をめぐっては男女でほとんど差がなかったということになる。次に、言いさし文における機能と品詞及び文末におけるぼかし表現との対応関係を表 4-22、4-23 に示す。

まず、機能と品詞との対応関係は表 4-22 のように示される。



表 4-22 男女別の機能と文末における品詞別終了の対応関係

	情報要求		情報伝達		情報応答・情報提供	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
名詞終了	22(65%)	25(51%)	13(13%)	36(26%)	9(32%)	10(30%)
副詞終了	3 (9%)	5(10%)	11(11%)	5(4%)	2(7%)	2(6%)
接続助詞終了	3 (9%)	2 (4%)	24(25%)	21(16%)	3 (11%)	5 (15%)
副助詞終了	4 (12%)	6 (12%)	10(10%)	14 (10%)	5 (18%)	3 (9%)
格助詞終了	0%	0%	10(10%)	14 (10%)	3 (11%)	3 (9%)
て形終了	0%	0%	6 (6%)	12 (9%)	1 (3%)	3 (9%)
その他	2 (5%)	11 (23%)	24 (25%)	34 (25%)	5 (18%)	7 (22%)
合計	34(100%)	49(100%)	98(100%)	136(100%)	28(100%)	33(100%)

表 4-22 から、まず、「情報要求」の機能を持つ言いさし文の使用率については、「名詞終了」、「接続助詞終了」では、男性の方が高いが、一方、「副詞終了」、「その他」では、使用率は女性のほうが高く、「副助詞終了」では、男女同じ使用率であることが認められた。次に、「情報伝達」の機能を持つ言いさし文の使用率については、「副詞終了」、「接続助詞終了」では男性の方が高いが、「て形終了」では、女性の使用率の方が高く、特に「名詞終了」においては男性の使用率の倍に上ることがわかった。なお、「副詞終了」、「格助詞終了」、「その他」では男女とも同じ使用率であった。一方、「情報応答・情報提供」の機能を持つ言いさし文に関しては、「名詞終了」、「副詞終了」、「副助詞終了」では男性の方が高く、他方、「接続助詞終了」、「格助詞終了」、「て形終了」、「その他」では女性の方が高かった。次に、文末におけるぼかし表現と機能の対応関係を表 4-23 に示す。

表 4-23 男女別の機能と文末ぼかし表現の対応関係

	情報要求		情報伝達		情報応答・情報提供	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
みたいな	0%	5(56%)	14(50%)	25(60%)	4(44%)	3(30%)
とか／とかも	1(50%)	1(11%)	4(14%)	5(12%)	5(56%)	1(10%)
感じ／感じで	0%	0%	2(7%)	4(9%)	0%	1(10%)
なんか／なんかに	0%	1(11%)	3(11%)	0%	0%	1(10%)
ていうか／って いう／てか	0%	0%	2(7%)	2(5%)	0%	1(10%)
って	0%	0%	0%	2(5%)	0%	1(10%)
って思って／と 思って	0%	0%	0%	2(5%)	0%	1(10%)
的に／的な	0%	1(11%)	1(4%)	1(2%)	0%	0%
かも	1(50%)	0%	0%	0%	0%	0%
ような／そうな	0%	0%	2(7%)	0%	0%	0%
たり	0%	1(11%)	0%	1(2%)	0%	0%
気がして	0%	0%	0%	0%	0%	1(10%)
合計	2(100%)	9(100%)	28(100%)	42(100%)	9(100%)	10(100%)

表 4-23 によれば、文末におけるぼかし表現と機能に関しては、「情報要求」の機能を持つ文末におけるぼかし表現では、男性より、女性の方がバリエーションが多かった。次に、「情報伝達」の機能を持つ文末におけるぼかし表現では、男性が七種類の表現の使用していたのに対して、女性は八種類を使用しており、ここでも、女性の方がバリエーションが多いのが分かる。一方、使用率に関しては、男女間にそれほど差はなかった。さらに、「情報要求・情報応答」の機能を持つ文末におけるぼかし表現については、女性の方が圧倒的に多くの種類を使用しており、男性の使用は「みたいな」と「とか／とかも」の二種類に集中していた。全体的に言えば、男女ともに「みたいな」の使用が目立ち、特に「情報伝達」の機能を持つ文末におけるぼかし表現においては、男女いずれにおいてもその使用率は半数を超えていた。

#### 4.4.2 実例から見るぼかし表現の男女差

以下では、例 4-73、4-74 の実例をもとに、「みたいに」の男女の実際の使用には、どのような具体的な違いがあるのかを明らかにする。男性の使用例として例 4-73 を、女性の使用例として例 4-74 を示す。

##### 例 4-73

6-3-JML お疲れ。麻雀めっちゃ打つな？

6-4-JMM 麻雀は、あれですね。中三以来、暇の時、ちょくちょく、(うん) って、高三の時からずっと、暇見つけ打ってって感じでしたね。

6-5-JML 難しくないあれ？

6-6-JMM いや、役覚えたら、簡単です。

6-7-JML おーなんか、あれやろう、数字揃えたら、なんか、最初はなんか、こう、難しい役じゃなくてさ、(はい) なんけ、数字がいくつになるような感じで、揃えるみたいな...

6-8-JMM 二、三三三三のセットで作れば、(おー) それ当たり前なんで、(おー) それなんかあとから役が付いてきてみたいな

次に、女性の実例は例 4-74 に示す。

##### 例 4-74

3-148-JFF おせちって買ってます？手作りですか？

3-149-JFG あー最近も買ってるのかな。

3-150-JFF あーなんか、家なんか手作りで、なんか、だから家のせちの、お家に帰って、おせちの作り方、その、習おうかなみたいな

例 4-73 と例 4-74 の会話例を見ると、まず、男性例の例 4-73 の場合、JML は JMM に麻雀の打ち方について話題にしている。JML は「数字がいくつになるような感じで、揃えるみたいな」と発話文末に「みたいな」をつけ、断定を避けている。それを聞いた JMM も JML と同様に「それなんかあとから付いてきて」の後ろに「みたいな」を付加することによって、発話内容をぼかし、断定を弱めている。

一方、女性例 4-74 では、JFF と JFG がおせちのことについて話している。JFF は JFG に自分のおせち料理の作り方を習いたいという意向を伝える際に、「かな」と「みたいな」を一緒に使っているが、その結果、「かな」と「みたいな」の相乗効果から、文末におけるぼかし表現の機能がより強化されている。本データの女性の会話では、「か

な」＋「みたいなの」の使用例がいくつか観察されたが、男性会話では一例も見られなかった。このことから「かな」＋「みたいなの」という文末ぼかし表現は女性に特有の使い方と言えよう。実際、女性会話には、「かなみたいなの」以外にも複合的な文末ぼかし表現がほかにもかなり観察されたが、男性会話にはわずかに一例しか確認されなかった。以下はその唯一の例である。

#### 例 4-75

4-28-JMH どうなん、最近、えっ、(人名)の趣味って何。

4-29-JMI 趣味?

4-30-JMH うん。

4-31-JMI 趣味はね、作ろうかなって、本当に。

4-32-JMH おーおー、えっ、釣りじゃないの?

4-33-JMI そう。

4-34-JMH うん、釣りよ。

4-35-JMI つりに行こうかなって。

4-36-JMH 釣り、えっ、どこの辺に行く?

女性会話における使用例は、次の通りである。

#### 例 4-76

1-298-JFA ま、とりあえず、いろんな(うん)企業があるんだなってうだけ見て。

1-299-JFA そうだ、JTB のね、エントリーのやつが発表されたから(うん)、とか、一次試験どこであるかとか見て(えー)、そしたら、なんか、一種類、二十五社あるんだけど(うん)、今 JTB 分かれてて(うん)、その中の一社しか福岡じゃなくて、試験も福岡でやるのそれしかないんよ。

1-300-JFB うん。

1-301-JFA 一応でも、海外ツアーの(あー)会社だから、すごい希望ではあるんね。

1-302-JFA で、なんか、JTB は、ご、何だろう、就活ってさ、前期、後期で分かれてるじゃん(うん)、夏休み前、夏休み後とか、その途中とか、で、JTB は春やって、夏入る前にもう一回二回目があるんよ。

1-303-JFB えー。

1-304JFA だけん、一回目は、とりあえず、福岡の方受けて(うん)、それでだめだったら、なんか東京とかのやつも後で受けようかな(うん)っていうのもありかなって思ったり。①

1-305-JFB あるよね、福岡一社しかない?

例 4-75 では、JMH と JMI が趣味を話題にしている。JMH は趣味である釣りに行こうと JMI に伝えながら、「かな」と「って」を併用することによって、発話内容の断定を回避し、ぼかしの機能を強化しているように思われる。

一方、女性の例 4-76 では、JFA と JFB が就職について話し、JTB という旅行会社の入社試験については、福岡は一社しかないが、前後期に分かれているため、福岡のほうがだめの場合であっても、そのあとは東京やほかの地域なども受けられるという内容である。JFA は①のところで JFB に上記の内容を説明する際に「かな」、「って」、「たり」の三つのぼかし表現を文末に連続して用いることによって、発話内容の断定の力を弱めていると考えられる。このように、三つ以上のぼかし表現を文末に併用した例は女性の会話例においても、一例しか確認できなかったが、多様なぼかし表現を文末に併用することは雑談会話における女性の婉曲的な話し方の特徴の一つと思われる

#### 4.5 日本語における言いさし文と共話について

日本語の会話では、一人で一方的に延々と話を進め、もう一方は黙って聞くという光景はあまり見られない。むしろ話す側は文を言いさし文にしたり、聞く側は区切りごとに頻繁に相槌を打ったり、話す側の言いさし文を引き取り、文を完結させることが多く観察されている。このような、話す側と聞く側が共同的に一つの会話を作り上げる会話スタイルに関しては、水谷信子(1980)が英語のような一人の話者が話し終わってからもう一人の話者が改めて話すという「対話」の仕方と峻別するために、「共話」と名付け、下の図 4-4(水谷信子 2015 : 69)で示している。

英語

A \_\_\_\_\_

B \_\_\_\_\_



図 4-4 対話と共話

水谷信子(2015:69)

水谷信子(2015:69)は上の図 4-4 について、次のような説明をして、共話と相槌の関連性を示唆している。

英語の場合は二人の話者の話が 2 本の線で表されるのに対して、日本語の場合は聞き手があいづち(…)を打っているので、話し手と一体になっているように聞こえる。「日本人の座談会など音声だけで聞いていると終始一人が話しているように聞こえる」という感想はよく英語話者から聞く。

水谷信子(2015:69)

こうした「共話」と呼ばれる会話スタイルは、日本語の日常会話においては、かなりの割合を占め、円滑なコミュニケーションの達成に大いに貢献している。言うまでもなく、共話を成立させるためには、話し手と聞き手の両者が協力し合うことが欠かせない。従来の先行研究にもそのような指摘は多いが、話者間の親疎関係と「共話」の関連性については、管見の限り、あまり論じられていない。そこで、本研究では、話者間の親疎関係に焦点を置き、「共話」の成立の要因について考察を行う。

#### 4.5.1 本研究で取り扱うデータについて

本研究では、平成 19 年度日本語会話資料集から久志(2007)のデータを援用する。データは、二十代大学生の雑談を中心とするものである。また、話者間の親疎関係については、会う頻度とともに協力者の主観による判断に基づき 5 段階評価(5 が最高)で示されている。なお、会話中、固有名詞などが使われた場合、プライバシー保護のため、適宜アルファベットもしくは記号「※※」、「○○」などで代用されている。各データの内訳を次の表 4-24 に示す。

表 4-24 会話参加者の属性

(収録時間各 30 分)

会話	名前	性別	年齢	上下親疎	会う頻度
1	Y	女	21	(先輩) 4	ほぼ毎日
	D	男	20	(後輩) 5	ほぼ毎日
2	J	男	19	(先輩) 3	一週間に一度
	I	女	18	(後輩) 3	一週間に一度
3	S	男	21	(先輩) 3	一週間に一度
	M	男	20	(後輩) 5	ほぼ毎日
4	H	女	21	(先輩) 5	ほぼ毎日
	Z	女	20	(後輩) 5	ほぼ毎日

(平成 19 年度日本語会話資料集:115)

#### 4.5.2 分析方法

本研究では、各先行研究を踏まえて、共話を二人以上の話者が協同的に作り上げる会話形態とする。また、前述の水谷信子(2015)が指摘した共話の特性により、共話においては話し手と聞き手が一体になり、その役割の区別が曖昧であるため、本研究では、話し手を先行話者と、聞き手を後行話者と呼ぶことにする。

また、分析にあたっては、まず、量的分析では、各ストラテジーの使用数を調べ、異なる親疎関係におけるストラテジーの使用傾向を明らかにする。さらに実例をあげながら質的な分析をすることによって共話の使用意図を探る。また、相槌に関しては、確かに前述の水谷信子(2015)が指摘したように、共話形成においては重要な補助的な役割を果たす面もあるが、その性質上いい加減な気持ちで聞いていても打つことがあるということも事実である。したがって、相槌に関しては、共話との関連性を示す以外は分析対象としない。以下、水谷信子(1988)、(1993)、黒崎(1995)などを参考にしながら、共話を五種類に分類し、それぞれを実例で示す。

#### 共感型

先行話者の発話に対して、後行話者がそれを認めたり、共感を示したりする共話の類型である

#### 例 4-76

1D: 3~40 ぷんのところを 原チャで急いで でも※※の原チャイがなくて

2Y: うんあ結構かかったうんうん ふふ ほあ





が可能である。

#### 例 4-79

1J: うんでそしたら行くつもりだったら親から電話かかってきてオー

2I

3J: ストラリア行くっついわれたけん そそそそ なんか銀婚式 のお

4I: 家族旅行ですか あー あー

5J: 祝いでってなんか二人で行くつもりだったのにうちの妹がね行きたい行きたいって言

6I:

7J: ったけん家族旅行に変わったんよ

#### 繰返し型

後行話者が先行話者の発話内容の一部または全文を復唱する共話の類型である。

#### 例 4-80

1H: その色が変わってきたら野菜にんじんとジャガイモとか入れてぐつぐつさしたらできる

2Z:

3H: あと塩としょうゆ 超うまいよ

4Z: 塩としょうゆ

### 4.5.3 分析結果

#### 4.5.3.1 量的分析

まず、本研究に使われる会話データの各共話の類型の出現状況を表 4-25 に示す。

4-25 各データにおいて使われる各共話の種類の出現状況

共話の種類	データ	出現数	合計	出現率(%)
共感型	会話 1	6	12	11%
	会話 2	2		
	会話 3	2		
	会話 4	2		
補足型	会話 1	2	11	10%
	会話 2	3		
	会話 3	2		
	会話 4	4		
言い換え型	会話 1	1	5	4%
	会話 2	3		
	会話 3	0		
	会話 4	1		
聞き返し型	会話 1	11	46	41%
	会話 2	9		
	会話 3	12		
	会話 4	14		
繰り返し型	会話 1	3	38	34%
	会話 2	14		
	会話 3	13		
	会話 4	8		

表 4-25 に示した通り、「共話」における五つの種類の使用率の高さは「聞き返し型」、「繰り返し型」、「共感型」、「補足型」、「言い換え型」の順となる。特に「聞き返し型」の出現率は 41%でもっとも高く、次いで「繰り返し型」の出現率が 34%であった。両方を合わせると、全体の半数を超える。

これについて、水谷信子(1993:9)は、次のように述べている。

「共話」の特徴は、共通理解を前提とし、いちいち相手の聞く意思をたしかめながら話すことであった。

水谷信子(1993:9)

(下線は筆者)

また、嶺川(2000:114)にも共話に関しては、次のような記述が見られる。

「共話」的な話し方が、頻繁なターンの交代、頻繁なお互いの理解のチェックに繋が  
り...(以下略)

嶺川(2000:114)

さらに、会話参加者の親疎関係と共話の出現に関しては、互いに最も「親」としてい  
る間柄の会話 4 と最も「疎」である会話 2 を比較した結果、「共感型」、「補足型」、「言  
い換え型」の出現においてはあまり差が見られないが、「聞き返し型」に関しては、会  
話 4 における出現率が高いのに対して、会話 2 では「繰り返し型」の出現率の方が高い  
という結果が確認された。この結果から、共話の出現に関しては、「疎」である人間関  
係における「繰り返し型」の頻出は相手の言葉を復唱することによって、相手に対する  
尊重を表す一方、「親」である人間関係における「聞き返し型」の頻出は話者が相手の  
話に興味を持っていることを示しているのではないかと思われる。次に、親疎度が最も  
高い会話 4 と最も低い会話 2 の実例をもとに親疎関係の違いによる共話の出現の違いを  
示す。

#### 4.5.3.2 質的分析

まず、親疎度が最も低い会話 2 から一例を取りあげ、親疎度が低い人間関係における  
の共話の出現状況を分析する。例 4-81 を見てみよう。

例 4-81

- 1J 俺の先輩は一回行くだけで 1620 円もらいよるんよ ねすげー  
2I ええいいですね  
3J じゃろ 多分俺もねそんぐらいもらえるんじゃないんかなと淡い期待を抱いてとるんじ  
やけ  
4I はい  
5J ど あそうなん

- 6I あたしほんとは 1000 あ普通に計算したら 1200 円ぐらいかかるんですよ  
でも
- 7J ああ 週いくつ ああ
- 8I 800 円しかももらえなくて上限があるんで うーん個別指導が週 1 で もい一つの
- 9J ああ あーははじゃ月大体 4、5 万入るあの一居酒屋
- 10I その別の〇〇のバイトが 土曜日に入ってて そうですね
- 11J 屋合わせて① まっまだいく ほ一何に使うんそんなんももうけて③
- 12I 居酒屋合わせたらもうちょっと② うーん
- 13J たまってくばかりまだ⑤ えっ
- 14I わかんないですよ④ たまってるってないです⑥ 使っどつか使
- 15J うっ 2 万あーじゃ家で
- 16I ってるんですけどでも計算してたら絶対月にいるのって 2 万なんですよ
- 17J 飯食うけん ああ うん
- 18I しょく食費と あと交通費とテニスコート代ととか計算してたら月に絶対必要なの
- 19J あおこづかいは⑦ ああ うん
- 20I は 2 万ですよ ないです⑧ で 2 万で残り 3、4 万残るはずじゃないです
- 21J あー絶対残るじゃん 3、4 万まるまるなくなる
- 22I か どっかにいってるんですよ ないんですよ

例 4-81 では、J と I がアルバイトの話をしている。I が女性で、J が I の一つ上の男性先輩であり、二人は約週一回のペースで会い、親疎度に関しては、二人とも 3(普通)と認めている。会話の流れとしては、基本的に J が話題を主導し、I に質問するという形である。このように、上位の者は言いさし文を用い質問の形で文を一旦中断させ、下位の者の発話を誘導するのが「疎」である人間関係における共話の特徴だと考える。

この特徴は、①から⑥までの J は I の月収及びその使い道について、及び⑦と⑧の I に関するお小遣いの一連の質問から確認できる。宇佐美(1993:44)は、「初対面の二者間の会話においては、年齢・社会的地位が高い方が、話題を導入・発展させていくことによって、会話をリードしていく傾向がある」とし、目上の話者が質問を多くするのは、「目上の話者は、話題を導入し会話をリードしつつも、相手にも発話の機会を与えるよう配慮していることの表れと見なすことができるのではないか」と解釈している。本データの会話参加者は初対面の関係ではないが、上記の宇佐美(1993)の指摘と似たような特徴が見られた。

次の会話例 4-82 では、親疎度が最も高い会話 4 の例を取り上げ、親である人間関係の間に見られる「共話」について見てみる。

例 4-82

- 1H 小さい頃何があったか溺れたことない 溺れたことある えー
- 2Z あーあたしも溺れました プールで
- 3H 記憶ある あたしなーい なくてお姉ちゃんを助けたってとき  
ふふうける
- 4Z あります でも えっ ふふふ
- 5H うん 姉ちゃん姉ちゃん溺れた
- 6Z それで溺れたんですか お姉ちゃん助けて溺れたんですか
- 7H のかな そこまでも浅い深い なんていうか川みたいなどこ溺れたらしく  
て① うん
- 8Z ふっ あー ふふふ
- 9H う嘘
- 10Z あたしおじさんとですよ プール行って飛び込み台があったから飛び込みした  
んですよ
- 11H あっは は
- 12Z で深いのを知らなくてなんだろあも落ちた瞬間にこんななっ でおじさんも来  
て だけん
- 13H うん はっ あ
- 14Z おじさんも暴れて で二人でこうやってなってるのをあいなんかそっちの係員に
- 15H あ監視員

例 4-82 では、会話参加者はいずれも女性で、H が先輩、Z が後輩、毎日の頻度で会っており、親疎に関してはいずれも 5(親密)としている間柄である。例 4-81 と同じように、最初に上位者である H が話題の主導権を握っているが、話が進むにつれて、共通の経験を持っているので、下位者の Z も自分の経験話で会話に貢献している。まず、H は 1H の発話で水難を話題として出しながら Z に経験あるかどうか聞いてから 3H、5H と 7H の発話で自身の経験を述べ、①のところで「て形終了」で文を中断し、それをうけ、Z も自身の経験を分かち合う。このように、互いに似た経験を共有することによって、共話が形成されることもある。

松村・因(1998)は、スタイル交代<sup>7</sup>の要因として、「共同で会話を成功させようという意図」と「より親密になろうとする意志」の二点をあげながら、上下関係のある二人はより親密に話そうとする際に、通常上位の者からダウンシフトを行い始めると指摘している。以上の「疎」である間柄の例 4-81 と「親」である例 4-82 においては、共話を遂行する際に、特にスタイルの変化は観察されないが、その遂行理由は、まさに「疎」である人間関係では松村・因(1998)の「共同で会話を成功させようという意図」にあり、「親」である間柄では「より親密になろうとする意志」にあると言えよう。

もちろん、このような他者の未完成の発話を引き取り、協力的にひとつの会話を作り上げる言語現象は日本語以外の他言語にも親しい間柄では存在していると考えられるが、日本語では、面識がなく、非対面形式のコミュニケーションでも、共話が行われる。以下の例 4-83 と例 4-84 で筆者が収集した日常生活の中のネットショッピングの交渉例をあげて示す。まず、以下の例 4-83 は筆者の実体験である。

#### 例 4-83

筆者 1 コメント失礼します。CD のみ購入が可能であれば、700 円でお譲りいただけませんか。

出品者 2 コメントありがとうございます。こちらは CD と Blu-ray を一緒に楽しんでもらいたいので、セットでお願いしています。m( )m1300 円にできますので、ご検討お願いします☆

筆者 3 実は Blu-ray 再生できる機材を持ってないので、本当に残念です。ありがとう

<sup>7</sup> 文末文体の切り替えを指す。

ございます。

出品者 4 そうだったんですね(TT)そうしましたら、700 円で CD をお譲りします☆こちらの金額を変更致しますので、納得いただければよろしくお願ひします(^ ^)

筆者 5 ありがとうございます。購入させていただきます。

#### 例 4-84

購入者 1 コメント失礼します。値下げは可能でしょうか...?

出品者 2 どちらの CD でしょうか?

購入者 3 KARD の方です。可能でしょうか...?

出品者 4 お値下げは厳しいです^^;ご希望に添えずに申し訳ありません m(\_)\_m

購入者 5 そーなんですね、、、わかりました。

まず、上記の例 4-83 である出品者 4 の発話と例 4-84 である購入者 5 の発話の「ね」の使用に注目してもらいたい。例 4-83 と例 4-84 の「ね」とも自分の希望に添えないながらも、相手の心情を察し、相手の視点から、同調を示し、配慮を表すために使われていると考えられる。もちろん、相手に発話完結の機会を与え、言いさし文の言語形式が共話と密接な関係を持っていることは否めない。言いさし文だけではなく、水谷信子(1993:7)でも、「「ね」は話し手と聞き手の共通の理解を前提とするものであるから、とくに共話的な話し方に関係がある」との記述が見られる。

以上、雑談の自然会話を使って共話を分析してきた。まず、共話における五つの形式の中、「繰り返し型」と「聞き返し型」を合わせると全体の使用率の半分を超えることから、頻繁に相手との理解を確かめるために使われていると考えられる。また、共話の出現状況については、実例の分析を通して、「疎」である人間関係においては、上位にある者が言いさし文で質問しながら話題を主導し、下位にある者の発話を誘導する傾向が観察されたのに対して、「親」である人間関係では、会話参加者は似たような経験を分かち合うことにより、共話を築き上げるという傾向が見られた。

また、陳一吟(2013)では、「男性は目上・初対面の相手に対して共話を多く使用する」(p.119)と指摘しているが、本データの分析結果では目上の男性が目下の相手に共話を多く用いながら、話題を主導し、会話の進行を成功させるという点が異なっていた。今後、数を増やして、さらなる検証する必要がある。

#### 4.6 まとめ

本章では、言いさし文、文末におけるぼかし表現、共話に焦点を絞り、それらの自然会話における実態を調査した。言いさし文に関しては、文末形式の面から見ると、「接続助詞終了」が最も高く、約44%で、ほぼ全体の半数に達した。また、「接続助詞」の中で、「けど／けども」の出現が際立ち、相手への働きかけの機能が強いことが示唆された。一方、機能面においては、「情報伝達」の機能を持つ言いさし文の出現頻度が最も多く、全体の60%に上った。さらに、言いさし文における機能と品詞の対応関係については、「情報要求」、「情報応答・提供」の機能を持つ言いさし文については、「名詞終了」が最も多く出現したのに対して、「情報伝達」の機能を持つ言いさし文については差は見られないものの、「名詞終了」、「接続助詞終了」の出現頻度が高かった。また、言いさし文の男女差に関しては、男性より女性の方が言いさし文を多く用いているが、品詞別及び機能別においては男女間に差はなかった。

文末におけるぼかし表現に関しては、「みたいな」の出現率が最も高く、51%に上り、特に二十代若者の話し言葉の特徴を示していた。次に発話機能と文末ぼかし表現の対応関係について、「情報伝達」、「情報要求」、「情報応答・提供」という機能のいずれにおいても出現率が最も高かった。また、文末ぼかし表現の男女差については、「みたいな」においては、男女とも使用率が最も高かった。さらに、事例の分析を通し、女性における文末ぼかし表現では、二つ以上のぼかし表現を重ねる例が多く観察されたが、男性ではわずか一例しか観察されなかった。このことから、文末ぼかし表現の使用においては、女性は男性より婉曲的であるということが言えよう。

共話に関しては、五つの類型の中で、「繰り返し型」と「聞き返し型」の出現が最も多く、両者を合わせると、全体の半分を超えていた。その多用は、話し相手との理解を頻繁に確かめたいという会話参加者の意図を示唆していると思われる。また、事例分析の結果では、「疎」である人間関係においては、会話を遂行させるため、上位者が発話を途中で中断させ、質問の形で下位者の発話を引き出すのに対して、「親」である人間関係では、共通の経験を分かち合いながら、共話を形成させる傾向が見られた。



## 第5章 言いさし文についての日中対照研究

日本語会話においては言いさし文の使用が多いという指摘が多く、主に発話行為(断り表現)、テキストの分析、日本語学習者の習得研究など、様々な観点から多くの研究が行われてきた。しかし、言いさし文についての日中対照研究は言語構造の違いに因るのか、さほど多くはない。管見の限り、李曉博(2008)、荻原(2013)、袁(2017)のみである。李曉博(2008)と袁(2017)の研究はドラマや映画のセリフを分析資料としており、言いさし文の使用実態を的確に捉えているとは言いにくい。一方、荻原(2013)は日中両言語の自由会話を資料として分析を行ったものであるが、各品詞別の使用頻度の調査に留まっており、日中言いさし文の機能面の相違点についてはあまり論じていない。また、共話に関する日中対照研究については、管見の限りまだ着手されていないのが現状である。中国語の言いさし文に関しては、日本語と異なるSVO語順のため、欠落する部分はSOV言語である日本語のような述語ではなく、目的語になる。さらに、日本語のように接続助詞によって自分の発話を婉曲にする機能がないだけでなく、言いさし文よりも完全文の方が丁寧に聞こえるため、日本語の言いさし文のような対人配慮を重んじる側面は発達しなかったのかもしれない。以上のことから、本章では、自然会話を資料としながら、機能面における日中両言語の言いさし文を共話、対話という観点から分析する。まず、5.1で、中国語の言いさし文の分析方法に関して述べる。続いて5.2では、中国語の自然会話における言いさし文の出現頻度などについて量的な調査を行い、その出現頻度を示し、第4章の日本語の言いさし文の調査結果と比較する。また、5.3では、事例の分析を通して、機能面における日中両言語の言いさし文の違いを明らかにする。最後に5.4では、雑談場面における両言語の共話の異同に関して考察する。

### 5.1 分析方法

#### 5.1.1 分析対象

中国語の言いさし文の分析対象としては、第4章と同様、伊集院(2004)を参考にして、発話を実質的発話と相槌的発話の二種類に分け、主に実質的発話を分析対象とする。具体的には次の例5-1と例5-2の通りである。

例 5-1

- 4-90-TFE 我一直想跟你講一件事可是我想不起來  
4-91-TFB 什麼事啊？  
4-92-TFE 就是有一次我作夢啊  
4-93-TFB 嗯  
4-94-TFE 然後我夢到就是一個，反正，反正我在哭，然後結果我早上起來就發現我在  
XX  
4-95-TFB 有，有人會這樣啊  
4-96-TFE 對啊  
4-97-TFB 就是哭了也哭了，尿尿也尿尿，尿尿也尿尿  
4-98-TFE 那是你啊  
4-99-TFB 哪有，我從來沒尿床，我從來沒尿床，OK？  
4-100-TFE 我也...

訳

- 4-90-TFE ずっと話したいことがあってなかなか思い出せなくて。  
4-91-TFE なんのことでしょう？  
4-92-TFE 一回夢を見たことがあって。  
4-93-TFB うん。【相槌的発話:同意】  
4-94-TFE 夢の中でとにかく私は泣いてて、朝起きたら XX していたことに気づいた  
の。  
4-95-TFB あるある。そういう人もいるよね。  
4-96-TFE そうね。【相槌的発話:同意】  
4-97-TFB まあ、夢の中で、泣いたりしておねしょもしたりして。  
4-98-TFE それはそっちのことでしょう。  
4-99-TFB そんなことないよ。おねしょしたこと一度もないよ。  
4-100-TFE 私も。【実質的発話】

(筆者訳)

例 5-1 では、TEF は TFB に夢の話をしている。TFB は TFE に夢の中で泣いただけではなく、現実でもおねしょをしたのではないかとからかっている。TFE はそれは TFB のことではないかと言い返し、それを聞いた TFB はおねしょしたことは一度もないと否認し、F2 も自身はそのような経験はないと否認している。この会話例では、「TFB:

うん」、「TFE:そうね」は相槌的発話、「TFE:私も」は自分もそのような経験はないと新しい情報を加えているので実質的発話である。例 5-2 では一見実質的発話のようであるが、機能としては相槌的発話の例をあげる。

#### 例 5-2

- 1-8-TMC 真的喔，阿你說 XXXX 不是去英國留學嗎？  
1-9-TMA 對啊  
1-10-TFB 欸，是留學嗎？  
1-11-TMA 遊學啦，去...  
1-12-TFB 是去讀書嗎？  
1-13-TMA 去牛津，(TFB：是去讀書還是去那邊玩?)牛津  
1-14-TMC 阿那他有去哈，有沒有去哈利波特 XX 世界？沒有喔？牛津大學？  
1-15-TMA 他們是排三個星期的課程  
1-16-TFB 他上...  
1-17-TMC 就是說 XX，我不知道，外語學校嘛應該是那種，外語你知道嗎？  
1-18-TMA 不過他是建築系的，可是去的好像不是建築系的，就是他們只是單純報名去...  
1-19-TMC 就是，對是去玩的這樣子  
1-20-TFB 就是去玩  
1-21-TMA 就是三個禮拜上課，然後他，牛津好像離倫敦市中心有點遠  
1-22-TFB 遠啊

#### 訳

- 1-8-TMC 本当?、XXXX はイギリスに留学に行ってたって言ったじゃない？  
1-9-TMA そうよ。  
1-10-TFB うん、留学に行ったの？  
1-11-TMA スタディツアーだよ。XXX に行ったよ。  
1-12-TFB 勉強に行ったの？  
1-13-TMA オックスフォードに行ったのよ。(F:勉強に行ったの？それとも旅行?)オックスフォード。  
1-14-TMC じゃ彼は、ハリー・ポッター X X に行った？行かなかった?オックスフォード大学は。  
1-15-TMA 彼らは三週間の授業を受ける予定みたい。  
1-16-TFB 彼が受けるのは...

1-17-TMC だから XXX、よく知らないけど、外国語学校っていうのはあれじゃない？  
知ってるでしょう？

1-18-TMA でも彼は建築学科で、一緒に行く仲間は同じ建築学科の人じゃないみたい、  
ただ単純にスタディツアーを申し込んで...

1-19-TMA うん、遊びに行きたみたい。

1-20-TFB うん、遊びに行った。

1-21-TMA うん、三週間授業を受けて、そして、オックスフォードはロンドン市の中  
心部から少し離れてるみたい。

1-22-TFB 離れてるよ。 【相槌的発話:同意】

(筆者訳)

例 5-2 では、TMA、TMC、TFB 三人が共通の知り合いのスタディツアーのことを話  
題にしている。TMA は彼らは三週間の語学授業を受ける予定となっているが、実はス  
タディツアーは名目で本当の目的は別にあると推測し、TMC と TFB は TMA の考えを  
具体化し、実は遊びに行っていると話す。さらに、TMA は行き先のオックスフォード  
からロンドン市の中心部までは少し遠いと述べ、それを聞いた TFB は「離れてるよ」  
と TMA の発話を繰り返し、賛同の意を表している。堀口(1997)は、聞き手が話し手の  
言うことを聞いて理解し、さらにそれに同意だという信号を送るのが「相槌」の一つの  
機能だと指摘している。

本研究では、以上の例で示されたように発話を実質的な発話と相槌的な発話の二種類  
に分け、分析を行う。次の 5.1.2 では、中国語における言いさし文の定義及びその類型  
について詳述する。

### 5.1.2 中国語の言いさし文の認定及び類型について

まず、日本語の言いさし文に関しては、宇佐美(1995)が指摘したように、述語が省略  
される文と、複文の場合従属節のみで主節が省略される発話の二種類に大別できる。し  
かし、中国語は孤立語のため、日本語のように文末に接続助詞をつけて、従属節のみで  
示される言いさし文は存在しないと考えられる。この点を田(2015)は、以下の例 5-3 で  
示している。

### 例 5-3

程さん: あけっぱなしで、だれもいねえのかい?

祥子: 門は錠をおろしてきたけど。

我把大門給鎖上了。

(『駱駝祥子』田(2015:95))

上の田(2015)があげている例から見ると、日本語では、接続助詞「けど」を文末につけることによって、相手の意向を伺う言外の意がうかがえる。一方、中国語の場合、完全文にして、文末に「了」をつけ、動作の完成を表し、錠をおろすという事実をありのまま陳述するだけで、日本語のように、話し相手にその続きを推測してもらうという機能はない。また、次の筆者作例の例 5-4 でも、中国語に訳す場合は、むしろ完全文にして、文末に語気助詞をつけた方が相手を責める口調が感じられ、より自然になる。

### 例 5-4

だめだって言ったのに...

明明就跟你說不行了呀。

(筆者訳)

一方、データ観察の結果から、中国語の言いさし文に関しては、次の四つの類型をあげることができる。

- ① SVO の構文形式から文末の目的語が欠落している発話
- ② 述語を言わずに打ち切ってしまう発話
- ③ 接続詞で終了している発話
- ④ 副詞で終了している発話

具体例を次の例 5-5、5-6、5-7、5-8 で示す。

### 目的語が欠落している言いさし文

#### 例 5-5

4-51-TFE 幾分啦?

4-52-TFF 我們可以中...

4-53-TFB 很尷尬啊?

訳

4-51-TFE 何分たったの？

4-52-TFF (録音を)中止しても...

4-53-TFB やっぱり気まずい？

(筆者訳)

例 5-5 の TFF は言語調査の録音のことについて不慣れで、TFB に中止可能かと確認しているが、TFB の面子を考えてなかなか明言できない。それで発話を「我們可以中...」(録音を中止しても...)で中断し、自分の心中の躊躇いを表し、聞き手に自分の本音を気づいてほしいと考えていると思われる。

### 述語を言わずに発話を中断してしまう言いさし文

例 5-6

3-1-TMD 跟你說...那老師

3-2-TFB 那個老師，阿可是，老師就是...

3-3-TMD 那老師是我們叫裡面唯一一個男老師

3-4-TFB 真的喔？阿他是你們幼教老師喔？

訳

3-1-TMD その先生については...

3-2-TFB その先生、あ、でも、先生は...

3-3-TMD その先生はうちの幼児教育学科の中のただ一人の男性の先生。

3-4-TFB 本当？じゃ彼はあなたたちの幼児教育の先生なの？

(筆者訳)

例 5-6 の TMD と TFB は共通の知り合いの先生について話にしている。TMD は「その先生については」と話題を提起し、TFB はその続きを引き取り、その話題の中の先生について何か情報を出そうとしている。しかし、なかなか出てこず、話題の進行が停滞している状態であるため、TMD が助け舟で「その先生はうちの学科の一人である」と話題を再開し、会話の流れを維持する。

### 接続詞で終了する言いさし文

例 5-7

1-23-TMA 然後他都躑課去倫敦逛那家超有名，你知道嗎？

1-24-TMC 哦，那個泰迪熊的那個嗎？

- 1-25-TMA 對，它在英國是一間超級豪華的百貨公司  
 1-26-TMC 喔  
 1-27-TMA (人名)說他逛一層樓要逛一個半小時  
 1-28-TMC 他是跟他老公的嗎？他是有，他是跟 XXX 去還是...  
 1-29-TMA 他自己跟團，自己翹課去

訳

- 1-23-TMA 彼女はよく授業をさぼってロンドンのあの超有名な「(あの(デパート知ってる?))」にぶらぶらしに行く。  
 1-24-TMC あ、あのデディベアの？  
 1-25-TMA うん、それはイギリスでは超豪華なデパート  
 1-26-TMC うん。  
 1-27-TMA (人名)フロア一面回って見物して一時間半かかると聞いたけど  
 1-28-TMC 彼女は旦那さんと一緒に行く？彼女は、彼女は XXX と一緒に行くの？それとも...  
 1-29-TMA 彼女はグループ行動で、授業をさぼって行くんだ。

(筆者訳)

例 5-7 の TMA と TMC は共通の知り合いがスタディーツアーの時、授業をさぼって、デパート見物に行くことを話題にし、TMC は TMA にその知り合いのデパート見物の同伴者が主人かまたは他人かについて確認している場面である。TMC の質問のテーマはすでに前に提示されているため、接続詞「それとも」の後の発話は省略されている。それを受け、TMA も TMC の意をくみ取って、TMC の質問に答えた。

### 副詞で終了する言いさし文

例 5-8

- 4-162-TFB 電影，那個，看那個啊，絕命終結站  
 4-163-TFE 我覺得那個真的是很瞎，全部的人死光了  
 4-164-TFE 可是很 X，你跟他講內容，快點  
 4-165-TFF 全部的人都死光了，我跟你講，第一，就是不是他那個預告都會有那個他預知那個 XX 會掉下來？  
 4-166-TFB 對對對  
 4-167-TFF 然後，全部的人，然後他預知之後他就帶著他的女朋友就往外跑，然後有幾個人沒死，可是後來也死光了，就很瞎...  
 4-168-TFE 我忘記內容，可以講一遍嗎？快點

訳

4-162-TFB 映画と言ったら、あれ、あれを見ようよ。ファイナル・デッドブリッジ。

4-163-TFE あれは本当に過激だと思う。登場人物が全部死んじゃったんだよ。

4-164-TFE でもとても X、彼女にも内容を聞かせてよ、早く。①

4-165-TFF 登場人物全部死んじゃったんだよ。まず、その映画の予告では主人公がその XX が落ちてくるのを予知できるでしょう？

4-166-TFB うんうんうん。

4-167-TFF そして、全部の登場人物、そして主人公がその危険を予知してから自分の彼女を連れて外へ逃げ出す。そのあと何人か生き残ってるけど、最後にやっぱり全員死んじゃったんだよ。とにかく過激だよ。

4-168-TFE その内容はよく覚えてないけど、もう一回話してくれてない?早く。②

(筆者訳)

例 5-8 の①と②では、述語が完備しており、完全文であるが、「快點(早く)」が文末に付加され、話者が話題に対する強い関心を示し、その続きを知りたいという気持ちを表している。例 5-8 のように「快點(早く)」などを文のあとにつけ、話者の気持ちの度合いを表す副詞で終了する言いさし文は日中ともに見られる。なお、中国語における言いさし文の出現率については、次の 5.2.1 で詳しく述べる。

## 5.2 日中両言語の言いさし文の量的分析

### 5.2.1 自然会話における中国語の言いさし文の出現頻度

まず、収集されたデータによれば、全 842 の実質的な発話文中、65 例の言いさし文が出現し、その出現率は実質的な発話文全体の約 8%であった。つまり、中国語の会話は、ほとんど完全文で構成され、言いさし文はあまり出現しないということである。水谷信子(1993:6)は、欧米型の対話について、次のように述べている。

二人の話し相手がそれぞれ自分の発話を完成させてから相手の話を聞く形で、聞き手は話し手の文ないし発話が完結するのを黙って待つのが基本である。

水谷信子(1993:6)

中国語の会話では、完全文の出現が多く、言いさし文の出現が少ないことから、水谷信子(1993:6)によれば、その会話形態は欧米型に類似すると言える。

中国語における言いさし文の出現の詳細は表 5-1 の通りである。



表 5-1 中国語における言いさし文の出現類型及び出現率

中国語における言いさし文の類型	使用数	使用率
目的語が欠落している発話	16	25%
述語が欠落している発話	30	46%
接続詞で終了している発話	13	20%
副詞で終了している発話	6	9%
合計	65	100%

表 5-1 からわかるように、中国語の言いさし文は、ほとんどが述語欠落に集中している。次いで、「目的語欠落」、「接続詞終了」、「副詞終了」の順となっている。以上の結果からは述部が欠落している発話が中国語の言いさし文の典型だと言えよう。

### 5.2.2 自然会話における日中両言語の言いさし文の出現頻度の比較

まず、前章の調査結果から、日本語の会話では、全 1056 例の実質的発話中、392 例の言いさし文が確認され、その出現率は 37%であったのに対し、中国語の会話では、全 842 例の実質的な発話の中で、65 例の言いさし文が確認され、その出現率は約 8%であった。この調査結果から、日本語の会話における言いさし文の出現は中国語会話のその約五倍に上ることがわかる。この事実は、日中両言語の自然会話における言いさし文の出現状況はやはり前述の水谷信子(1993)が言う「共話」と「対話」の概念と深く関わっていることを示唆する。また、李曉博(2008:12-13)は「言いさし表現は日本語においては、丁寧度の高い表現だと言えるが、中国語においては、丁寧度の低い表現としてとらえているのであろう。それは日本語の相手に察しを求める、言語に頼らない言語観と、中国語の物事をはっきり言うのをよしとする言語観が反映されているためと考えられる。」と述べ、朴 (2008:109-110)も、文末の「から」と「ので」を例としながら、日本語の言いさし文の対人配慮機能とそれに対応する中国語について次のように説明している。

日本語における「から」、「ので」では、中国語では「因為・由於」という表現に相当するが、中国語の「因為・由於」には、日本語と同じような待遇表現としての機能は存在しない。さらに、日本語の「から」、「ので」といった接続助詞が文末に用いられるこ

とによって生じるなんらかの対人配慮を表す機能を、中国語では、「有點兒」(ちょっと) 一點兒一下(ちょっと~する)あるいは、文末に相手への意思を問いかける「好嗎?可以嗎?行嗎?(いいですか?)(よろしいですか?)」などの表現が担っている。

朴 (2008:109-110)

以上のことから、会話における中国語の言いさし文の少なさ、また、日本語の言いさし文の多さは、単に文脈上の省略の有無だけではなく、両言語における対人配慮機能の表し方の違いにも深く関わっていると思われる。以下、表 5-2、5-3 で第 4 章で見た日本語の言いさし文の種類を表 5-2、5-3 で再掲し、上の表 5-1 での中国語の言いさし文の種類と比較対照する。

表 5-2 日本語における各文末形式の出現数及び出現率 (表 4-1 の再掲)

		出現数及び出現率(%)
名詞終了	近く、週、周り、武器、Nike、感じ、等	119(30%)
副詞終了	たぶん、なんか、けっこう、本当、等	30(8%)
助詞終了	とか、けど、し、も、が、って、は、等	133(34%)
て形終了	強くて、寒くて、なくて、面倒くさくて、等	22(6%)
その他	ような、みたいな、そうな、それで、等	88(22%)

表 5-3 日本語の文末における各助詞終了の出現数及び出現率 (表 4-2 の再掲)

助詞終了の文末形式	各形式の出現数とその出現率(%)
接続助詞終了	59(44%)
副助詞終了	42(32%)
格助詞終了	32(24%)

まず、表 5-1、表 5-2、表 5-3 を対照して見てみると、日中両言語の言いさし文の種類は、両言語の言語構造の相違から、終了形態がそれぞれ異なるため、「副詞終了」の言いさし文については、いずれの言語においても出現率が低いことが分かった。また、日本語では、「接続助詞終了」の出現が最も高いのに対して、中国語では、「述語欠落」が典型であった。次節では、第 4 章と同じ調査方法で、両言語の言いさし文の機能面においての異同を調べる。

### 5.3 日中両言語の言いさし文の質的分析からの比較

#### 5.3.1 言いさし文の機能

言語が異なれば、同じ言いさし文でも異なる機能を果たす可能性がある。本節では、第4章と同じく、実質的発話のみを分析対象として、言いさし文の機能を「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」の三つに分類する。これら三分類のどれにも属しない機能は「その他」とする。以上の言いさし文の機能の中国語における例は次の通りである。

#### 例 5-9 情報要求(Q:Question)

2-30-TMD 我選了一堂，一堂職場英文

2-31-TFB 嘿

2-32-TMD 整堂都是用英文

2-33-TFB 黑啊，我知道啊，阿，還是你要換...

訳

2-30-TMD ビジネス英語という授業を履修しようと決めている。

2-31-TFB へー

2-32-TMD 講義は全部英語でやっているみたい。

2-33-TFB うん、知ってるよ。(別の授業に)変更したら?

(筆者訳)

#### 例 5-10 情報伝達(S:Statement)

1-237-TMA 這學期，我正好上學期沒打工我這學期想要打工，可是又覺得這學期應該要開始讀書了，就應該要認真，然後晚上又想要跑操場，然後又想要去健身

1-238-TMC XXXXXXXXXXXXXXXX

1-239-TMA 阿我就想要再去書局

1-240-TMC 可是你這樣變成你要剝奪自己的...

1-241-TMA 對，這樣我就沒時間讀書

訳

1-237-TMA 今学期は、前学期ではバイトしてなかったんで、今学期しようと思ったけど、勉強もはじめようと思って、集中すべきだけど、夜にグラウンドを走ったり、体を鍛えたりもしたくて。

1-238-TMC XXXXXXXXXXXXXXXX

1-239-TMA 本屋にも行きたくて。

1-240-TMC でもそうすると自分の(時間が)なくなって...

1-241-TMA そう、勉強する時間がなくなっちゃう。

(筆者訳)

例 5-11 情報応答・情報提供(A:Answer)

3-56-TFB 你吃不膩嗎？你在家裡面不是也中午吃麵嗎？

3-57-TMD 外面不一樣啊，味道不一樣啊，味道比較...

3-58-TFB 有味道一點嗎？

3-59-TMD 比較鹹，比較重，比較...

3-60-TFB 你不是喜歡淡口味的？嗯

訳

3-56-TFB 飽きないの？自宅でもいつも昼食でそばを食べてるじゃん？

3-57-TMD 外食は違うよ。味が違うよ。味が比較的...

3-58-TFB 味が濃い？

3-59-TMD 味がよりしょっぱくて、重くて、より...

3-60-TFB 薄い味のほうが好きじゃないの？

(筆者訳)

例 5-12 その他(O:Others)

4-219-TFE 買雨傘之前我要去買我的安全帽

4-220-TFF 阿對對對對

4-221-TFF 你要去北門路？

4-222-TFE 對啊，北門路比較便宜

4-223-TFF 然後什麼？

4-224-TFE 然後然後...

訳

4-219-TFE 傘を買う前にヘルメットを先に購入したい。

4-220-TFF あ、そうそうそう。

4-221-TFF 北門路に買いに行く？

4-222-TFE うん、北門路のほうが安い。

4-223-TFF それから何をやる?

4-224-TFE それからそれから...

(筆者訳)

本研究では、中国語の言いさし文については、前章と同じく、実質的発話のみを分析対象とし、上に示したように、主に「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」の三つの機能の観点から調査し、第4章の分析結果と比較する。まず、次の5.3.2では、中国語における言いさし文の機能の出現状況及び出現率を示す。

### 5.3.2 中国語における言いさし文の各機能の出現状況

#### 5.3.2.1 中国語における言いさし文の各機能の出現頻度及び出現率

まず、中国語の自然会話から収集された言いさし文に関する各機能の出現頻度及び出現率をの表5-4に示す。

表5-4 中国語の言いさし文における各機能の出現頻度及び出現率

	全言いさし文の発話数	
	出現頻度	出現率
情報要求(Q)	9	14%
情報伝達(S)	44	68%
情報応答・情報提供(A)	3	4%
その他	9	14%
合計	65	100%

表5-4に示す通り、雑談会話に出現した中国語の言いさし文の機能は、「情報伝達」が最も多く、68%、全体の2/3以上を占めている。次に「情報要求」、「その他」がそれぞれ14%で、「情報応答・情報提供」はわずか4%であった。この結果から、雑談会話における中国語に出現した言いさし文は主に「情報伝達」に使われていることが確認できた。次に、5.3.2.2では、中国語の言いさし文の各機能と品詞分類間の対応関係を見る。

### 5.3.2.2 中国語における言いさし文の各機能の統語的特徴

5.3.1 及び 5.3.2.1 では、中国語の言いさし文の形式とその機能の出現頻度及び出現率について述べたが、両者間の相互関係も会話の進行に関わると考えられるため、本項では、中国語の言いさし文における各機能と形式上の対応関係を示した上で、分析を進める。まず、次の表 5-5 では、本研究における「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」のいずれの機能にも分類できない 9 例の言いさし文を除いた、合計 56 例の言いさし文の各機能と言いさし文形式との対応関係を示す。

表 5-5 中国語における各言いさし文の形式と各機能の対応関係

	情報要求	情報伝達	情報応答・情報提供
目的語欠落	3(34%)	13(30%)	0%
述語欠落	2(22%)	21(48%)	3(100%)
接続詞終了	2(22%)	6(13%)	0%
副詞終了	2(22%)	4(9%)	0%
合計	9(100%)	44(100%)	3(100%)

表 5-5 から分かるように、「情報要求」の機能は、「目的語欠落」が対応することが最も多く、「述語欠落」、「接続詞終了」、「副詞終了」はみな同じ割合であった。また、「情報伝達」の機能は、「述語欠落」が担うことが最も多く、48%、全例のほぼ半数近くを占め、次いで、「目的語欠落」、「接続詞終了」、「副詞終了」の順であった。一方、「情報応答・情報提供」の機能を示したものは、わずか三例であり、すべて「述語欠落」であった。以下、例 5-13 から例 5-21 まで、中国語を母語とする話者同士の自然会話から、中国語における言いさし文各機能とそれを表す形式の対応関係について実例をあげながら見ていく。

#### 情報要求(Q:Question)

目的語欠落

例 5-13(例 5-9 の再掲)

2-30-TMD 我選了一堂, 一堂職場英文

2-31-TFB 嘿

2-32-TMD 整堂都是用英文

2-33-TFB 黑啊, 我知道啊, 阿, 還是你要換...

訳

2-30-TMD ビジネス英語という授業を履修しようと決めている。

2-31-TFB うん。

2-32-TMD 講義は全部英語でやっているみたい。

2-33-TFB うん、知ってるよ。(別の授業に)変更したら？

(筆者訳)

述語欠落

例 5-14

1-153-TMA 阿你覺得這邊比較...

1-154-TMC 不過浴室是透明的

1-155-TMA 浴室是透明的啊？

1-156-TMC 半透明，然後我就那個窗戶，那窗戶是大馬路邊嘛，然後那個窗戶是有點毛玻璃，XXXXXXXX(TFB：笑)XXXXXXXXXXXX

訳

1-153-TMA こっちの方が...

1-154-TMC でも浴室は外から見える形となってる。

1-155-TMA 浴室は外から見えるの？

1-156-TMC 半分見える。その窓、その窓は道路側に、ちょっと磨りガラスの感じで、XXXXXXXX(TFB：笑)XXXXXXXXXXXX

(筆者訳)

接続詞終了

例 5-15(例 5-7 の再掲)

1-23-TMA 然後他都蹺課去倫敦逛那家超有名，你知道嗎？

1-24-TMC 哦，那個泰迪熊的那個嗎？

1-25-TMA 對，它在英國是一間超級豪華的百貨公司

1-26-TMC 喔

1-27-TMA (人名)說他逛一層樓要逛一個半小時

1-28-TMC 他是跟他老公的嗎？他是有，他是跟 XXX 去還是...

1-29-TMA 他自己跟團，自己翹課去

訳

1-23-TMA 彼女はよく授業をさぼってロンドンのあの超有名な「(あの(デパート知ってる?)」にぶらぶらしに行く。

1-24-TMC あ、あのデディベアの?

1-25-TMA うん、それはイギリスでは超豪華なデパート

1-26-TMC うん。

1-27-TMA (人名)フロア一面回って見物して一時間半かかると聞いたけど

1-28-TMC 彼女は旦那さんと一緒に行く?彼女は、彼女は XXX と一緒に行くの?それとも...

1-29-TMA 彼女はグループ行動で、授業をさぼって行くんだ。

(筆者訳)

副詞終了

例 5-16(例 5-8 の再掲)

4-161-TFB 電影，那個，看那個啊，絕命終結站

4-162-TFE 我覺得那個真的是很瞎，全部的人死光了

4-163-TFE 可是很 X，你跟他講內容，快點

4-164-TFF 全部的人都死光了，我跟你講，第一，就是不是他那個預告都會有那個他預知那個 XX 會掉下來？

4-165-TFB 對對對

4-166-TFF 然後，全部的人，然後他預知之後他就帶著他的女朋友就往外跑，然後有幾個人沒死，可是後來也死光了，就很瞎...

4-167-TFE 我忘記內容，可以講一遍嗎？快點

訳

4-161-TFB 映画と言ったら、あれ、あれを見ようよ。ファイナル・デッドブリッジ。

4-162-TFE それは本当に過激だと思う。登場人物が全部死んじゃったんだよ。

4-163-TFE でもとても X、彼女にも内容を聞かせてよ、早く。①

4-164-TFF 登場人物全部死んじゃったんだよ。まず、その映画の予告では主人公がその XX が落ちてくるのを予知できるでしょう？

4-165-TFB うんうんうん。

4-166-TFF そして、全部の登場人物、そして主人公がその危険を予知してから自分の彼女を連れて外へ逃げ出す。そのあと何人か生き残ってるけど、最後にやっぱり全員死んじゃったんだよ。とにかく過激だよ。

4-167-TFE その内容はよく覚えてないけど、もう一回話してくれてない?早く。②

(筆者訳)



## 情報伝達(S:Statement)

目的語欠落

### 例 5-17

1-17-TMC 就是說 XX，我不知道，外語學校嘛應該是那種，外語你知道嗎？

1-18-TMA 不過他是建築系的，可是去的好像不是建築系的，就是他們只是單純報名去...

1-19-TMC 就是，對是去玩的這樣子

1-20-TFB 就是去玩

訳

1-17-TMC だから XXX、よく知らないけど、外国語学校っていうのはあれじゃない？  
知ってるでしょう？

1-18-TMA でも彼は建築学科で、一緒に行く仲間は同じ建築学科の人じゃないみたい、  
ただ単純にスタディツアーを申し込んで...(遊びに行った)

1-19-TMC うん、遊びに行きたみたい。

1-20-TFB うん、遊びに行った。

(筆者訳)

述語欠落

### 例 5-18

4-2-TFE 欸，我們真的要，畢業旅行去韓國吧？

4-3-TFB 講畢業旅行會不會太早啊？

4-4-TFE 你說的啊，你講的啊

4-5-TFB 欸，這，要去\_\_\_

4-6-TFF 我們才大二還有很久不用擔心好不好

訳

4-2-TFE あの、私たちは本当に、卒業旅行は韓国に行こうか？

4-3-TFB 卒業旅行って、まだ早いじゃない？

4-4-TFE あなたから提案したんじゃない？

4-5-TFB え、あの、行くのは(まだ先のこと)

4-6-TFF 今は二年生だから、まだ先のことなので、そんなに心配しなくていい。

(筆者訳)

接續詞終了

例 5-19

2-132-TMD 我可是非常非常非常喜歡小孩子的呢

2-133-TFB 真的嗎？真的嗎？

2-134-TMD 不然勒？幹嘛去選啊？欸，我自願去裡面，別的地區的大學都是幼教

2-135-TFB 別的地區的大學都是幼教？

2-136-TMD 只要是教育大學我全部都 XXXX

2-137-TFB 蛤，我以為你是看完新聞才喜歡小孩子耶，看完新聞跟他們系玩才喜歡小孩子

2-138-TMD 我本來就喜歡了，所以...

訳

2-132-TMD 僕はとてもとてもとても子供のことが好きだよ。

2-133-TFB 本当に?本当にそうなの?

2-134-TMD じゃないと僕は幼児教育を選ぶはずがないじゃないか。自らの希望なので、ほかの地域の大学にしても全部幼児教育だから。

2-135-TFB ほかの地域の大学も全部幼児教育?

2-136-TMD 教育系大学にする場合は全部幼児教育の希望。

2-137-TFB えっ、ニュースを見てから子供のことが好きになったんじゃない?ニュースを見てから幼児教育学科の人と一緒に遊んでから子供好きになったんだと思う。

2-138-TMD もともと子供がすきで、だから(幼児教育を選んだ)

(筆者訳)

副詞終了

例 5-20

1-40-TMC 欸那德國他去很多景點玩耶，除了英國荷蘭法國

1-41-TFB 荷蘭他有去紅燈

1-42-TMA 應該會好不好，紅，紅燈區啦

1-43-TFB 紅燈區？

1-44-TMA 你知道紅燈區嗎？

1-45-TMC 知道啦，他怎麼會去那地方？

1-46-TMA 會啊，景點啊

1-47-TFB 觀光客耶

訳

1-40-TMC えっ、彼はドイツにいろんなところに遊びに行ったね。イギリス、オランダ、フランス以外にも。

1-41-TFB 彼はオランダの風俗街に行ったよ。

1-42-TMA 行くに決まってるじゃない?風俗街は。

1-43-TFB 風俗街?

1-44-TMA 風俗街って知ってる?

1-45-TMC 知ってるけど、彼はどうしてそんなところに?

1-46-TMA 行くよ。観光スポットだから。

1-47-TFB 一応観光客だから。

(筆者訳)

情報応答・情報提供(A:Answer)

述語欠落

例 5-21

4-172-TFF 那女生就，那女生就是看到了那個男女主角之後，然後就往後退，然後就從十幾樓翻下來也死了

4-173-TFE 那為什麼看到男女主角要跑?

4-174-TFF 我哪知啊，我哪知啊，然後，阿然後有一個體操那個死的也很慘烈，就頭從高低槓那裡下來，然後整個骨頭都碎掉，然後就，死狀就非常的，非常慘烈就對了

4-175-TFE 有多慘烈?

4-176-TFF 我不會形容，你自己去\_\_\_

4-177-TFE 我不想看啊，我不想看恐怖片啊

訳

4-172-TFF その女性、その女性は男女の主人公を見てから後ろへさがり始めて、十何階から墜落して死んじゃったよ。

4-173-TFE どうして男女の主人公を見て逃げるの?

4-174-TFF 知らないよ。知るわけないよ。また、体操をやる役の死に方もひどかった。頭から段違い平行棒から落ちて、骨が粉々になって、とにかく、死に方がとても、とてもひどかったよ。

4-175-TFE そんなにひどかったの?

4-176-TFF うまく言えないけど、自分で(見に)行って

4-177-TFE 見たくないよ。ホラー映画なんか見たくないよ。

(筆者訳)

また、表 5-5、表 4-8 の再掲になるが、中国語及び日本語における各文末終了形式の出現分布を表 5-6、5-7 に示す。

表 5-6 中国語における各言いさし文の形式と各機能の対応関係(表 5-5 の再掲)

	情報要求	情報伝達	情報応答・情報提供
目的語欠落	3(34%)	13(30%)	0%
述語欠落	2(22%)	21(48%)	3(100%)
接続詞終了	2(22%)	6(13%)	0%
副詞終了	2(22%)	4(9%)	0%
合計	9(100%)	44(100%)	3(100%)

表 5-7 日本語における各言いさし文の形式と各機能の対応関係(表 4-8 の再掲)

	情報要求	情報伝達	情報応答・情報提供
名詞終了	47(57%)	49(21%)	19(31%)
副詞終了	8(10%)	16(7%)	4(7%)
接続助詞終了	5(6%)	45(19%)	8(13%)
副助詞終了	10(12%)	24(10%)	8(13%)
格助詞終了	0%	24(10%)	6(10%)
て形終了	0%	18(8%)	4(7%)
その他	13(15%)	58(25%)	12(19%)
合計	83(100%)	234(100%)	61(100%)

まず、表 5-6 から分かるように、中国語の各文末形式の機能は主に「情報伝達」に集中している。これに関しては、第 4 章の日本語における言いさし文形式と各機能の対応関係とも同じ結果であった。この結果から、日常会話における言いさし文は、日中両言語とも「情報伝達」の機能を持って出現することが最も多いと言える。また、表 5-6、5-7 を確認してみると、日常の雑談における日中両言語の言いさし文の統語的特徴については、その文末品詞の使用においては、日本語では、「その他」が最も多いのに対し

て、中国語では「述語欠落」が最も多かった。しかしながら、日中両言語の言いさし文は同じ「情報伝達」という機能を持つことが多いとは言え、それを担う文末形式の統語的特徴の違いにより、日中両言語の言いさし文はどのような異なる効果をもたらすことになるのだろうか。次の 5.3.3 ではこの点について検討する。

### 5.3.3 日中両言語における言いさし文の各機能の比較

5.3.1 では、日常会話における日中両言語の言いさし文の機能の出現数について比較したが、日常会話における言いさし文の機能に関しては、日中両言語とも「情報伝達」が最も多かった点は共通していたが、文末終了形式は大きく異なっていた。「情報伝達」においては、中国語では「述語欠落」が際立っていたのに対し、日本語では、「その他」が最も多かった。中でも日本語では「みたいな」の出現がもっとも多く、38 例であり、「情報伝達」における「その他」の 66%も占めていた。多くの先行研究の指摘や国研の調査(日本人の知識階層における話しことばの実態:1980)などによれば、「て形終了」や「接続助詞終了」の使用が圧倒的に多いことが予想されるのにも関わらず、このような結果になったのはデータの属性が反映されたのみならず、言語使用の変化にも一因があると思われる。一方、中国語の場合は、語順の関係及び日本語のような膠着語ではなく、孤立語であるため、言いさし文は「述語欠落」や「目的語欠落」の頻出が予想される。今回の調査結果は、この予想通り、「述語欠落」と「目的語欠落」はそれぞれ際立つ出現率を見せた。次に、実例をあげながら、「情報伝達」を示す日中両言語の言いさし文の違いを示す。

#### 例 5-22

1-37-JFB だって、安住さんとかさ、記念受験やったもんね、あのアナウンス、サーのやつ。

1-38-JFA えっ、記念受験で受かった的な？

1-39-JFB そうそう。

1-40-JFA えー、で、どうする？、自分もし記念受験で受かったら。

1-41-JFB やる。

1-42-JFA やる。

1-43-JFB 頑張る。

1-44-JFA やっぱやる。(笑)

1-45-JFB もうやる。

1-46-JFA だって、最初なんか、教師になりたいとか、思ってた(うん)、で、記念受験で受けたら受かったみたい。

1-47-JFB よくあるね、なんか友達が受けるから、一緒に付いたら、友達が落ちて(そうそう)、自分が通っちゃったみたいな。①

上の例 5-22 では、JFA と JFB が就職の記念試験について話している。JFA は安住というアナウンサーはもともと教師になることが希望だったが、記念受験のつもりで受けたアナウンサーになったと述べる。それを聞いた JFB も不本意でありながら、友達と一緒に記念受験をしてみたら、友達が落ちて当事者が受かるという話をよく耳にするという自分の感想を述べる。JFB の①は、「自分が通っちゃった」という発話だけで情報は十分に伝えられるが、文末に「みたい」が付加されると、当該発話の力が和らげられることになる。また、相手の文末の「みたい」に合わせて、もう一方も文末に「みたい」を付加する共起現象も観察された。例 5-23 を見られたい。

#### 例 5-23

6-4-JMM 麻雀は、あれですね。中三以来、暇の時、ちよくちよく、(うん) って、高三の時からずっと、暇見つけ打ってって感じでしたね。

6-5-JML 難しくないあれ？

6-6-JMM いや、役覚えたら、簡単です。

6-7-JML おーなんか、あれやろう、数字揃えたら、なんか、最初はなんか、こう、難しい役じゃなくてさ、(はい) なんけ、数字がいくつになるような感じで、揃えるみたいな...①

6-8-JMM 二、三三三三のセットで作れば、(おー) それが当たりなんで、(おー) それなんかあとから役が付いてきてみたいな②

例 5-23 では、JMM と JML は麻雀を話題にし、JML はそのやり方がよく分からないため、JMM に聞くという場面である。JML は①の文末に「みたい」を付加し、断定を避け、言語行動を和らげている。それを聞いた JMM も JML と同じように、自分の②の末尾に「みたい」を付加している。しかし、この会話全体から見ると、JMM は中三の時から暇を見つけて、麻雀をちよくちよくやっているため、そのやり方がわからないはずがなく、わざと JML の文末の「みたい」に合わせて、JMM 自身の②の発話末にも「みたい」を用い、自分の意見の断定を避けながらも JML の発話内容を

支持する。JMM の②の発話内容から見ると、JML の立場に立ちその①の発話の補足しているように見える。陣内(2006)は、近年の「ぼかし表現」に関しては、従来から指摘されてきた「近づかない配慮」という機能のほかに、若者が打ち解けて、親しい雰囲気形成するという「近づく配慮」の機能も備わっていると指摘している。陣内(2006)は、アンケート調査に基づく意識調査を、以下のように論じている。

若者世代の友達場面で用いられる新ぼかし表現が集団語的性格を持ち、お互いが親近感を持つ上で一躍を買っているということである。自分たちの世代、あるいは自分たちの集団に特有の表現が同属意識を高め、お互いの絆を強くする。

陣内(2006:126-127)

上に示した例 5-23 の「みたいな」の共起現象はまさに陣内(2006)の指摘の好例である。ぼかし表現の使用はもともと他人との対立や摩擦などを回避する心理から生まれると一般的に考えられている。しかし、例 5-23 を見ると、そのような単純なものではない。むしろ相手との距離を保ちながら、同調を示し、親近感を表す機能が働いていると考えたほうがよい。また、「みたいな」だけではなく、ほかの文末ぼかし表現が連発された例もある。例 5-24 を見られたい。

#### 例 5-24

5-35-JMJ そうですね。そうですね。確かに、上がアンダーアーマーって、なんかあれじゃないですか？一種のスポーツに限らず、なんかあらゆるシーンで着用できるみtaina... (うーん) あるんで

5-36-JMK あるある。

5-37-JMJ まあ、野球もそうですし、今、このぴったりしたタイプのやつを流行らせ、流行らせたのがアンダーアーマーらしくて(えー)なんか、これを開発した人が日本にやってきた時に、なんか相当革新的なウェアだみtaina感じなんで(えー)今プロの、プロでも 70 パーぐらい、7 割近くがもうこういうぴったりしたアンダーシャツを(あ、確かに)プロ野球選手が使ってるし

5-38-JMK うん、高校球児用とかもなんかさ、でもなんかマークが出とったらいかんやろ感じ

5-39-JMJ そうですね、はい。

5-40-JMK なんかマーク隠せるようなさ、白じゃなくて、同じ色みtaina①

5-41-JMJ あれ、何色かは忘れましたが、なんか、はい②

- 5-42-JMK いろいろな色があつて、高級生地用で、なんか
- 5-43-JMJ はい。
- 5-44-JMK マークが隠れる、なんか
- 5-45-JMJ はい。
- 5-46-JMK あれが結構あの色好きっちゃうね？あのめっちゃ色多くない？
- 5-47-JMJ 多いです。いや、とことんありますね。白から黒までなんかいろいろ
- 5-48-JMK 青にしてもさ、いっぱい種類あるけんさあ？
- 5-49-JMJ はい。
- 5-50-JMK めっちゃいいよね？
- 5-51-JMJ なんか、パステルXXX、なんか、パープルとか、なんかブルー、なんかロイヤルブルーとか③
- 5-52-JMK ブール、ロイヤルブルー、ダークブルーとか④
- 5-53-JMJ そうそうそう。
- 5-54-JMK ダークブルー格好いいっちゃん？
- 5-55-JMJ いろいろありますね。なんか、はい。

例 5-24 では JMJ と JMK がスポーツウェアについて話している。最初に JMJ がアンダーアーマーというブランドのウェアはいろいろなスポーツに着用可能と「て形終了」で話題を提起する。それに対して、JMK は「あるある」と同意を示し、JMJ は「プロ野球選手も使っているし」とアンダーアーマーの良さをさらにアピールする。それを受け、JMK は高校球児用はマークを出してはいけないようである。さらに、JMK は話題をアンダーアーマーのスポーツウェアの色に移行し、①の発話でマークを隠す色は白ではなく、「同じ色」の後ろで「みたいな」をつけ、自分の不確定さを示し、JMJ も「何色は忘れましたが、なんか」と同じような文末にぼかし表現をつけており、JMK の見解を擁護している。また、色の種類については JMJ は③で「パープル、ブルー、ロイヤルブルー」などがあると「とか」を用いて列挙し、JMK も④で「ブルー、ロイヤルブルー、ダークブルーとか」でほぼ JMJ の発話を繰り返し、相手との共感を増幅させている。以上の例では JMJ と JMK ともほぼ同じようなぼかし表現で共鳴を起こし、考えを共有することにより、仲間意識を構築し、会話を弾ませているように見える。一方、中国語の言いさし文の機能においても、日本語と同じように「情報伝達」が際立っていたが、形としては「述語欠落」が多かった。以下の例 5-25 を見られたい。



### 例 5-25

4-2-TFE 欸，我們真的要，畢業旅行去韓國吧？

4-3-TFB 講畢業旅行會不會太早啊？

4-4-TFE 你說的啊，你講的啊

4-5-TFB 欸，這，要去\_\_

4-6-TFF 我們才大二還有很久不用擔心好不好

### 訳

4-2-TFE あの、本当に、卒業旅行韓国行こうか。

4-3-TFB 今卒業旅行のことを考えるのはまだ早いんじゃない？

4-4-TFE そっちが先に言いたしたんじゃない？

4-5-TFB えっ、(卒業旅行)行くことを...①

4-6-TFF まだ大学二年だから、そんなに心配しなくていいよ。

(筆者訳)

例 5-25 は、TFB、TFE、TFF の三人が卒業旅行を話題にしているものである。TFE は卒業旅行の場所を韓国にすると提案しているが、TFB は先のことのため今から計画するのはまだ早いと異論を出している。それを聞いた TFE はそれを最初に話題として言いたしたのは TFB 自身ではないかと反論し、問い詰められた TFB は「(卒業旅行)行くことを」までで述語を省略して発話を途中で終了し、TFF はその続きを補足し、この会話を完成させている。この会話では、TFB が①で言いさし文にしたのはそれが前に言った「今卒業旅行のことを考えるのまだ早いんじゃない？」のリポートからである。これは次の TFF の補足発話の「まだ大学二年だから、そんなに心配しなくていいよ。」からも分かる。以上の例から、中国語の言いさし文は、日本語の言いさし文のように同調を示し、親近感を形成し、会話の雰囲気や和ませるような機能はないことが分かる。したがって、日本語の言いさし文のほうが、人間関係との関わりがより強いと言えるであろう。次に、日中両言語の言いさし文が会話形態にどのような影響をもたらすのかについて分析してみる。

## 5.4 日中両言語の共話について

### 5.4.1 中国語の共話について

水谷信子(1980)は、共話について次のように述べている。

一人が自分の話を終わりまで述べて、次に他の一人が改めて自分の考えを述べ始めるより、二人が互いに補い合い、はげまし合いながら話の流れを作っていく態度が基本になっている。この意味では、**dialogue**(対話)という語はふさわしくない。対話ではなく、共話とでも言いたいような形である。共同して話を作るのであるから、いわゆる完全文は必要ではない。

水谷信子(1980:32)

上記の水谷信子(1980)の指摘から、言いさし文の使用は共話の形成と緊密な関係を持っていることが確認できる。したがって、言いさし文の多用は日本語の会話形式が主に共話であるためだと考えられる。一方、中国語では、5.2.2 の調査結果によると、言いさし文の出現頻度が 8%しかなく、日本語の 37%の約五分の一に過ぎない。換言すれば、中国語の会話は、ほとんど完全文で構成されているということである。つまり、中国語の会話形態は「対話」ということである。とはいえ、中国語における言いさし文は、共話とは何の関連もないだろうか。管見の限り、この点について言及した先行研究はまだない。そこで、本節では中国語の言いさし文と共話との関わりについて論じる。

本節では、まず最初に中国語の共話の例を示し、5.4.2 ではそれを日本語の共話の例と比較し、両者の相違点を明らかにする。5.3.2.1 では、中国語の言いさし文において、もっとも顕著に見られるのは「述語欠落」であることが確認された。以下、中国語の共話における言いさし文の実態を見る。

#### 例 5-26

3-56-TFB 你吃不膩嗎？你在家裡面不是也中午吃麵嗎？

3-57-TMD 外面不一樣啊，味道不一樣啊，味道比較...①

3-58-TFB 有味道一點嗎？

3-59-TMD 比較鹹，比較重，比較...

3-60-TFB 你不是喜歡淡口味的？嗯

#### 訳

3-56-TFB 飽きないの？自宅でもいつも昼食でそばを食べてるじゃん？

3-57-TMD 外食は違うよ。味が違うよ。味が比較的...①

3-58-TFB 味が濃い？

3-59-TMD 味がよりしょっぱくて、重くて、より...

### 3-60-TFB 薄い味のほうが好きじゃないの?

(筆者訳)

例 5-26 では、TMD と TFB が昼食のメニューについて話している。TFB は TMD に「お昼いつもそばを食べているのに飽きないかと聞き、TMD は①で「外食の味は自宅とは違って、味が比較的」のところで一旦発話を終了し、TFB は理由を確認するため、TMD の発話の続きを引き取り、「味が濃い」と確認の発話を行っている。この発話例では、結束性をもつ共話例として、後行話者が先行話者の未完成の発話を補足し、完成させている。一方、先行話者が言いさし文をした後に、後行話者が先行話者の発話をほぼそのまま繰り返し、最後にまた先行話者が文を完成させる共話の例もある。例 5-27 を見られたい。

#### 例 5-27

- 3-1-TMD 跟你說...那老師  
3-2-TFB 那個老師，阿可是，老師就是...  
3-3-TMD 那老師是我們叫裡面唯一一個男老師  
3-4-TFB 真的喔？阿他是你們幼教老師喔？

訳

- 3-1-TMD その先生については...  
3-2-TFB その先生、あ、でも、先生は...  
3-3-TMD その先生はうちの幼児教育学科の中のただ一人の男性の先生。  
3-4-TFB 本当?じゃ彼はあなたたちの幼児教育の先生なの?

(筆者訳)

上記の例では、先行話者である TMD が述語を省略し、後行話者の TFB はその続きをほぼ同じ内容で繰り返し、そのあと再び最初の話者 TMD が会話全体を完成させている。これまで、中国語の会話は、完全文で構成されることがほとんどであり、言いさし文はその内容が相手にとって明白の時のみ起こると考えていた。しかし、例 5-26 では、後行話者の TFB が「味が濃い?」と先行話者に確認の発話を行っている。また、例 5-27 のように、最初に言いさし文が提示されるものの、相手がそれを受け取る情報を持ち合わさないため、結局、言いさし文を提示した者が会話を完成させるといった例もある。このことは、中国語の共話における言いさし文において明示されることのない後続部分は、

必ずしも相手にとっては既知ではないということを示唆する。以上、中国語の会話においては、日本語の会話と同じように、言いさし文が対話者の発話を誘発する機能を持っていることが確認できた。その誘発率、また共話形態の異同に関しては次節 5.4.2 で述べる。

## 5.4.2 日中両言語の共話使用上の比較

### 5.4.2.1 日中両言語の言いさし文と共話の相関関係

前節 5.4.1 では、中国語でも、日本語と同じく、言いさし文が共話を形成する機能を持っていることが確認された。しかし、その誘発率、つまり、話し相手が話し手の言いさし文を引き受け、会話を完成させる割合、及び使用状況の違いについてはどうなっているのかはまだ明らかになっていない。本節では、日中両言語の言いさし文と共話の相関関係について考察する。

まず、以下の例 5-28 と 5-29 で共話の数え方について説明した後、表 5-8 で日中両言語の言いさし文による共話の誘発率を確認する。

#### 例 5-28

6-108-JMM 俺は大阪が怖いっす。

6-109-JML ね。

6-110-JMM まだあいりん地区とかそのあたりが①

6-111-JML あああ、あそこでもあれじゃないの？なんか、朝鮮系の方々が（あー）多いとかじゃないの？②

上記の例 5-28 では、JML と JMM が治安について話をしている。JMM は①の発話で言いさし文にし、JML がその続きを引き取り、文を完成させている。この例では、発話①と発話②を合わせて 1 共話とみなし、JMM の言いさし文により JML の発話を引き出し共話を誘発をしているため、誘発数は 1 と数える。

また、次の例 5-29 のように、話し手の言いさし文に話し相手が言いさし文で対応し、共話を形成する場合もある。

#### 例 5-29

2-75-JFC て言うかね、お姉ちゃんがね 20 歳上の人と結婚するかも。

- 2-76-JFC 大丈夫なんかいなあ。
- 2-77-JFD おねえちゃんなんさい。
- 2-78-JFC 27
- 2-79-JFC だけん、相手 47 ぐらい
- 2-80-JFD 大丈夫ばんとは言わんけど。
- 2-81-JFC 聞いて、何かね、その人今、お姉ちゃん今岡山において、今宮崎にかえる  
っちゃん。
- 2-82-JFD はいはいはいはい。
- 2-83-JFC で、その人仕事辞めて、宮崎についてくるっていうちゃん。
- 2-84-JFC えっみたいいな
- 2-85-JFD 大変くない
- 2-86-JFC そうそう。
- 2-87-JFD お母さん今日お姉ちゃんから電話かかってきて、そうなんようみたいいな。
- ①
- 2-88-JFC えっみたいいな。②

上記の例 5-29 では、JFD の①の言いさし文に対して JFC は②の「えっみたいいな。」で共感を示し、①と②の発話は合わせて 1 共話とみなし、その誘発数は 2 と数える。

さらに、話し手が二回以上言いさし文を行使してから話し相手はその続きを引き取る共話も観察された。次の例 5-30 を見られたい。

#### 例 5-30

- 1-9JFB 考えたくねえ、就活。
- 1-10-JFB ないわあ
- 1-11-JFA ねえ、就活ノート作らないと。①
- 1-12-JFA もうエントリーとかした?、いっぱい、全然 Web とかも?②
- 1-13-JFB うーん、どうしよう。③

上記の例 5-30 では、JFA と JFB は就活を話題にしており、JFA が①と②の発話で連続 2 回も言いさし文を使ってから JFB が③で JFA の発話を引き受ける共話である。この例では、JFA は 2 回も言いさし文を行使しているが、JFB は②の発話を引き取っ

て、最後に共話を成功させたと見られるため、言いさし文による共話の誘発数は1と数える。

また、相槌は共話の一部と認められるものの、ここでは実質的発話を中心とする言いさし文による共話の誘発数を集計するため、次の例 5-31 のような場合は言いさし文による共話の誘発数としてはカウントしない。

#### 例 5-31

6-4-JMM 麻雀は、あれですね。中三以来、暇の時、ちよくちよく、(うん) って、高三の時からずっと、暇見つけ打ってって感じでしたね。

6-5-JML 難しくないあれ？

6-6-JMM いや、役覚えたら、簡単です。

6-7-JML おーなんか、あれやろう、数字揃えたら、なんか、最初はなんか、こう、難しい役じゃなくてさ、(はい) なんけ、数字がいくつになるような感じで、揃えるみたいなの...

6-8-JMM 二、三三三三のセットで作れば、(おー) それが当たりなんで、(おー) それなんかあとから役が付いてきてみたいなの①

6-9-JML うーん。②

6-10-JMM 同じ数同じ数が一二三か、記号記号記号みたいなの③

6-11-JML うーん④

6-12-JMM そんな感じで、手で役を作っていたらって感じですね。意外と覚えたら簡単ですよ。⑤

上記の例 5-31 の会話では、JMM が①の発話で言いさし文を行使し、JML が②で相槌を打ってから JMM は③でその続きを言って、さらに JML が④で相槌を打って、最後に JMM が⑤で発話内容を完成させる流れである。相槌は共話の進行を助けるために不可欠であるが、以上の例 5-31 で、終始話し相手である JML は実質的な発話を発しないまま、相槌で対応するため、言いさし文による共話の誘発数としては数えない。

以上の数え方を基準にして、確認された日中両言語の言いさし文による共話の誘発率を以下の表 5-8 に示す。

表 5-8 日中両言語の言いさし文における共話の誘発率

	日本語の言いさし文	中国語の言いさし文
言いさし文数	392	65
共話における言いさし文の誘発数	326	45
誘発率	83%	69%

上記の表 5-8 を見ると、日本語における言いさし文による共話の誘発率は 392 例中 326 例の 83% であるのに対して、中国語のほうは 65 例中 45 例の 69% であり、日本語のほうが高い結果となっている。また、数は少ないが、中国語では、話し手の言いさし文に対して、話し相手はその続きを受けとらずに、話題の本筋から逸れ、共話としての失敗例も観察された。以下の例 5-32 で示す。

例 5-32

- 2-22-TMD 我要先練機車才出門我爸說的
- 2-23-TFB 先練機車才出門，可是我早上八點要幾點去練啊
- 2-24-TMD 不知道，先找時間練啊
- 2-25-TFB 喔，阿那你這樣子，你們...
- 2-26-TMD (打呵欠) 下午要去看賽德克・巴萊耶
- 2-27-TFB 阿你去啊，阿要去練...①
- 2-28-TMD 沒錢了
- 2-29-TFB 阿，不是要去練那個喔？

訳

- 2-22-TMD 先にバイクの運転練習をしてから出かけられるとお父さんが言った。
- 2-23-TFB バイクの運転練習をしてから出かけられるって、朝八時出かけるから、何時に練習に行く？
- 2-24-TMD こっちも知らないね。先に練習の時間を作ろう。
- 2-25-TFB えっ、じゃ、それは、あなたたちは
- 2-26-TMD (あくびをする音)、午後はセデック・バレを見に行く予定。
- 2-27-TFB 行ってもいいけど、(バイク)の練習は...①
- 2-28-TMD お金がないよ。
- 2-29-TFB あれの練習に行くんじゃないの？

(筆者訳)

例 5-32 では TMD と TFB はバイクの運転練習の件について話している。TMD はバイクの運転練習に行く予定があるが、まだ時間が決まっておらず、午後はセデック・バレを見に行く予定という状況である。そのため、TFB は①で言いさし文でセデック・バレを見に行ってもいいが、バイクの練習はどうすると TMD に問いかけた。しかし、TMD は TFB の①の言いさし文を無視し、「お金がないよ。」と発話した。会話の流れから見ると、その「お金がないよ。」という発話は TMD 自身の「午後はセデック・バレを見に行く予定」の続きと考えられる。つまり、TMD は TFB の①の問いかけを無視し、一方的に自分のもとの話題を続けているため、共話としては失敗であると考えられる。

#### 5.4.2.2 日中両言語の言いさし文による共話の相違点

日中両言語の言いさし文による共話の構成について詳細に観察してみると、日本語では多くの場合話し手と話し相手がお互いに言いさし文で対応することが多く、換言すれば、言いさし文が言いさし文を呼ぶ形で共話を形成している。一方、中国語ではほとんど話し手の言いさし文に対して、話し相手が完全文で対応するのが一般的である。まず、以下の表 5-9 で、話し手の一方的な連続的な言いさし文の使用を除いた共話における言いさし文の連続出現回数を確認してみよう。

表 5-9 共話における言いさし文の連続出現回数

	日本語	中国語
2 文連続	66	4
3 文連続	13	0
4 文連続	4	1
5 文連続	1	0
6 文連続	1	0
7 文連続	1	0

表 5-9 から分かるように共話における言いさし文の連続出現回数においては、日本語の場合は、2 文連続から最大 7 文連続が可能であるのに対して、中国語では、わずか 2 文連続の四例と 4 文連続の一例しか観察されなかった。この結果からと、日本語には、



言いさし文が言いさし文を呼ぶ傾向があると考えられ、共話になりやすいと言えよう。さらに詳しく観察してみると、今回のデータにおいては、中国語の共話における言いさし文の使用は、最後に必ず文を完成させる一方、日本語では、未完了のままの共話がいくつか見られた。以下の例 5-33 を見られたい。

#### 例 5-33

5-35-JMJ そうですね。そうですね。確かに、上がアンダーアーマーって、なんかあれじゃないですか？一種のスポーツに限らず、なんかあらゆるシーンで着用できるみたいな... (うん) あるんで

5-36-JMK あるある。

5-37-JMJ まあ、野球もそうですし、今、このぴったりしたタイプのやつを流行らせ、流行らせたのがアンダーアーマーらしくて (えー) なんか、これを開発した人が日本にやってきた時に、なんか相当革新的なウェアだみたいな感じなんで (えー) 今プロの、プロでも 70 パーぐらい、7 割近くがもうこういうぴったりしたアンダーシャツを (あ、確かに) プロ野球選手が使ってるし①

5-38-JMK うん、高校球児用とかもなんかさ、でもなんかマークが出とったらいかんやろ感じ②

上記の例 5-33 では、JMK は②で MJJ の①の発話を引き取ったが、JMK においては文を言いさし文のまま共話を完成させる形となっている。以上で観察された現象から、中国語の場合では、共話においては、必ず文を完成させる傾向があるのに対して、日本語においては言いさし文で終えることもあり、文の完結性は会話においては必須条件ではないと言えよう。

#### 5.4.2.3 上下関係による日本語の言いさし文の使用

前節では、日中会話における言いさし文使用上の構造の違いについて解明した。しかし、実際には、構造の側面だけではなく、日本語の言いさし文の使用は上下関係にも深く関わると考えられる。例えば、次の例 5-34 を見られたい。

#### 例 5-34(例 5-31 の再掲)

6-4-JMM 麻雀は、あれですね。中三以来、暇の時、ちょくちょく、(うん) って、高三の時からずっと、暇見つけ打ってって感じでしたね。①

6-5-JML 難しくないあれ？

6-6-JMM いや、役覚えたら、簡単です。②

6-7-JML おーなんか、あれやろう、数字揃えたら、なんか、最初はなんか、こう、難

しい役じゃなくてさ、(はい) なんけ、数字がいくつになるような感じで、揃えるみたいなの...③

6-8-JMM 二、三三三三のセットで作れば、(お一) それが当たりなんで、(お一) それなんかあとから役が付いてきてみたいなの④

6-9-JML うーん。

6-10-JMM 同じ数同じ数が一二三か、記号記号記号みたいなの⑤

6-11-JML うーん

6-12-JMM そんな感じで、手で役を作っていたらって感じですね。意外と覚えたら簡単ですよ。⑥

上記の例 5-34 では、JMM は①と②の発話での丁寧体の使用から下位者であることが判別できる。まず、上位者である JML は③の下線部にある「数字がいくつかになるような感じで、揃えるみたいなの」のようなくだけたぼかし表現を使って、下位者である JMM に麻雀のやり方について確認し、楽しく会話できる雰囲気作りに努めていた。JMM も JML の意図を汲んで、④と⑤の下線部にあるような「それなんかあとから役が付いてきたみたいなの」、「同じ数同じ数が一二三が記号記号記号みたいなの」などのような同じぼかし表現で JML に合わせ、くだけたスタイルで会話進行を行っていたが、⑥の下線部にあるような「意外と覚えたら簡単ですよ。」でもとの丁寧体に戻った。このような、上位者はより親密になろうという意図によって、文末にぼかし表現をつけ、自らくだけた表現を下位者に働きかけ、下位者にもその意図を汲んで、一時的に丁寧体の使用をやめ、同じぼかし表現を用い、相手に合わせながら、共話を進めさせていくことが、上位者の意図を汲み取らずに丁寧体を使い続けることよりも丁寧であると考えられる。一方、中国語の会話では、そのような上下関係による言いさし文の使用例は見つからなかった。今回は上記の例をあげるのみで十分に議論できなかったが、中国語を母語とする学習者に言いさし文を指導する際には、上下関係を考慮に入れながら教えるべきだと考えられる。

## 5.5 まとめ

本章では、日中両言語の言いさし文の機能及び共話の使用状況の異同について、分析、比較を行った。まず、言いさし文の出現数については、日本語においては、1056 例の実質的発話中、392 例の言いさし文が出現され、出現率は全体の 37%であるのに対して、中国語の会話では、全 842 例の実質的な発話の中で、65 例の言いさし文が使用され、その使用率はわずか 8%しかない。言い換えれば、自然会話においての日本語の言

いさし文の出現状況は中国語の約五倍に上る。次に、言いさし文の種類について、日本語では、「名詞終了」、「副詞終了」、「助詞終了」、「て形終了」、「その他」の五種類と、中国語では、「目的語欠落」、「述語欠落」、「接続語終了」、「副詞終了」の四種類にそれぞれ分けて、使用頻度について調べた。その結果として、日本語は「助詞終了」が最も多く、34%であり、中国語は「述語欠落」が最も多く 46%であった。また、言いさし文の機能を「情報要求」、「情報伝達」、「情報応答・情報提供」の三つに分類し、それぞれの使用率に関して調べた。日中両言語とも、「情報伝達」の機能を持つ言いさし文の使用が最も多かった。さらに、言いさし文の種類との対応関係について調べてみると、日本語では、「その他」がもっとも多く 25%であり、中国語では「述語欠落」が 48%で最も多かった。

次に、言いさし文と日中両言語の共話の相関関係に関しては、本研究のデータによれば、日本語の共話の構成は、言いさし文が2文連続から7文連続までの例が見つかったが、中国語は2文連続が四例と4文連続が一例の結果であった。換言すれば、日本語では、中国語より言いさし文が言いさし文を呼び、共話を形成させる傾向が強いと言える。また、さらに詳しく見てみると、中国語の共話では、最後に必ず文が完成されるのに対して、日本語では言いさし文で文が未完了のままで終わる例もいくつか観察された。また、日本語における言いさし文の使用は深く上下関係に関わるが、中国語では、そのような使用例は見つからなかった。

## 第6章 結論

### 6.1 本論文の概要

本論文では、日本語の言いさし文と共話との関係を明らかにし、共話・対話という観点から日中言いさし文の対照分析を行い、日本語と中国語の相違を明らかにした。

第1章では本論文の目的及び構成について述べた。

第2章では、日本語の言いさし文、共話に関する先行研究、及び言いさし文に関する日中対照研究を概観しながら、これらの先行研究で十分に取り扱われてこなかった課題を明らかにし、本研究の位置づけを行った。

第3章では本論文の各章で使われる会話データおよび分析方法について紹介した。

第4章は、日本語の言いさし文についての分析である。まず、分析データから日本語の言いさし文の出現率について調べた。その結果、言いさし文の出現率は約37%、言い換えれば日本語の会話の約三分の一が言いさし文で構成されていることが分かった。言いさし文の形式としては、先行研究の指摘通り接続助詞終了の使用が最も多かったが、品詞の枠を超えた所謂「ぼかし表現」の使用もかなり高いということが明らかになった。そこで、抽出された「たり」、「みたいな」、「かも」などのぼかし表現の用法を再整理し、その使用傾向について調査した。その結果「みたいな」の使用が全体の半数以上となり、かなり偏っている傾向があることが分かった。国語世論調査でも、若者の「みたいな」の使用は逐年増加する傾向にあると報告されているが、本調査結果でも、若者は「みたいな」を言いさし文表現として使用することで、自らの発話を和らげながら相手とのコミュニケーションをとっているという特徴が明らかになった。また、文末におけるぼかし表現の男女差についても、男性と女性を比べると、女性は文末におけるぼかし表現を二つ以上併用することによって、文末におけるぼかし表現の機能をより強化する傾向があることが観察された。最後に、実際の会話例の分析を通して、水谷(1980)が提案した「共話」という概念に基づき、話者間の親疎関係についての分析を行った。分析の結果、言いさし文は、疎である人間関係では、上位者が言いさし文を使って話題をリードする際に用いられる傾向があるのに対して、親である人間関係では、共通経験を共有しながら、積極的に話題に参加することで、話者間の連帯感を形成し、会話を促進させるのに貢献していた。

第5章では、中国語の日常雑談会話を使って、言いさし文の機能について分析し、

4章の日本語の分析結果と対照させた。まず、雑談会話における日中両言語の言いさし文の使用率については、日本語が37%であるのに対して、中国語はわずか8%であった。換言すれば、中国語の雑談会話は、ほとんど完全文で構成されているということが分かった。次に、両言語の言いさし文形式の出現率について比較してみると、日本語では助詞終了が一番多いのに対して、中国語では述語欠落が最も多く観察された。本論文の中心課題である日中両言語における言いさし文と共話の関係に関しては、まず、言いさし文による共話の誘発率は、日本語が83%(326例/392例)であるのに対して、中国語は69(45例/65例)%であり、日本語がやや高いという結果であった。また、日本語の共話の構成では、言いさし文が2文連続から7文連続までの使用例が確認されたのに対して、中国語では、2文連続が四例と4文連続が一例のみという結果となった。言い換えれば、日本語は中国語より言いさし文が言いさし文を呼び、共話を形成させる傾向が強いと言えよう。また、さらに詳しく観察してみた結果、日本語の共話では、文が完成されないままで終わるのに対して、中国語の共話は最後に必ず文が完結されており、日本語会話の言いさし文を利用した共話的特徴が明らかになった。また、日本語の言いさし文の使用は深く上下関係に関わるが、中国語には、そのような現象が見られなかった。

第6章は結論である。本論文の議論をまとめ、本論文の意義を挙げ、最後に今後の課題を述べた。

## 6.2 本論文の意義

本論文の意義としては、以下の三点が挙げられる。

- 1.まず、日本語の言いさし文を共話の観点から分析し、その関係を明らかにした点である。言いさし文と共話との関連を、自然会話を分析することで、量的・質的に示すことができたことは本研究の成果である。
- 2.次に、自然会話を分析していく上で、言いさし文とぼかし表現、さらに倒置文との関わりを示すことができた点である。若者の会話におけるぼかし表現の使用が、言いさし文に深く関係していることを示すことができたことも本論文の意義だと考えられる。
- 3.最後に、共話・対話との観点から日本語と中国語の自然会話における言いさし文の機能を対照させることで、両言語の会話構造の特徴を明らかにすることができたことも、本論文の成果だと言える。

### 6.3 本論文における研究課題の結果

第二章に設けた研究課題の結果を次のようにまとめる。

1. 共話の観点から言いさし文を分析した結果、疎である人間関係においては、基本的に上位にある者は言いさし文を用いて質問の形で下位にある者の発話を誘導し、話し相手にも発話の機会を与えるよう配慮を示す。一方、親である人間関係においては、最初に疎である人間関係と同く、上位者が話題の主導権を握っているが、話が進むにつれて、下位者は上位者の言いさし文を受け取り、自身の似た経験を分かち合い、共有することによって、共話が形成される傾向が観察された。この結果から、親疎関係における言いさし文と共話との関係については、松村・因(1998)が指摘されている「より親密になろうとする意志」と「共同で会話を成功させようという意図」に当てはまると言える。
2. 本論文は、共話の観点から、言いさし文を他者からの割り込みではなく話者自身の意志によって、途中で終了された発話と定義し、倒置文とぼかし表現も言いさし文の研究対象とみなした。まず、言いさし文と倒置文の関わりについては、文を倒置することによって、文を故意に言いさし文の形にし、相手に対する配慮とも取れる。また、言いさし文とぼかし表現の関係に関しては、「みたいな」の使用が多く観察され、特に女性では、複数のなぼかし表現を文末に併用することによって、女性の婉曲的な話し方の特徴の一つと思われた。
3. 共話・対話の観点から見た日中両言語の言いさし文による会話構造の特徴については、日本語では、言いさし文が2文連続から7文連続までで共話を形成させる例が発見されたのに対して、中国語では、2文連続が四例と4文連続が一例のみの結果であった。さらに詳しく観察してみると、中国語では、最後に必ず文が完成させるのに対して、日本語では言いさし文の形で文が未完成の形終える例がいくつか観察されたため、やはり日本語より中国語は対話の傾向が強いと言える。

### 6.4 今後の課題

最後に、本研究で取り扱えなかった部分、すなわち今後の課題を述べる。

1. 今回のデータは二十代の親しい友人同士の会話であるが、違う世代、または疎である人間関係における言いさし文の使用及び共話への影響も分析する必要がある。
2. 言いさし文の使用については、場面がその使用にも影響をもたらすと考えられる。今回は雑談場面しか取り上げなかったが、今後はより多くの場面を取り上げ、さらなる

詳細な分析することが必要である。

3. 言いさし文の使用に関しては、声調にも関わると考えられる。今回は分析対象から外しているが、今後分析する際に声調と言いさし文の関係にも考慮を入れ、さらなる詳細な分析することが必要である。
4. 序論で述べたように、言いさし文は学習者にとっては理解しにくい形式である。本論で論じたように、共話という観点から具体例を挙げながら日本語の言いさし文を教授していく方法を考案していきたい。

## 参考文献

### 日本語参考文献

- 池田裕 (1995) 「文末表現の重要性」『月刊言語』24(13), 128-129. 大修館書店
- 生駒知子・志村明彦 (1993) 「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー『断りという発話行為について』」『日本語教育』(79), 41-52. 日本語教育学会
- 井出祥子(編) (1997)『女性語の世界』明治書院
- 伊藤昭・矢野博之 (1998) 「『共話』—創発的対話の対話モデル」『音声情報処理』20(1), 1-8.
- 伊集院郁子 (2004) 「ポライトネス・ストラテジーとしての発話末省略に関する一考察」『東京大学外国語教育学研究会研究論集』(8), 14-31. 東京大学外国語教育学研究会
- 李恩美 (2008) 「日本語の『中途終了型発話』に関する一考察」『日本語文学』(42), 125-148.
- 李恩美 (2010) 「日韓の『中途終了型発話』とポライトネス」『日本言語文化』(17), 123-143.
- 元智恩 (2005) 「日韓の断りの言語行動の対照研究：ポライトネスの観点から」筑波大学大学院文芸・言語研究科博士論文
- 宇佐美まゆみ (1993) 「初対面二者間会話における会話のストラテジーの分析：対話相手に応じた使い分けという観点から」『学苑』(647), 37-47. 昭和女子大学近代文化研究所
- 宇佐美まゆみ (1995) 「談話レベルから見た敬語使用：スピーチレベルシフト生起の条件と機能」『学苑』(662), 27-42. 昭和女子大学近代文化研究所
- 袁青 (2017) 「日本のドラマにおける言いさし文と中国語字幕の翻訳戦略—ポライトネスの観点から—」『通訳翻訳研究の招待』17号, 50-63.
- 王丹丹 (2015) 「日本と中国の若者の言語使用に見られる対人関係上の志向性：『卑語』、『ぼかし表現』、『アクセサリー化した方言』の使用実態を中心に」九州大学大学院比較社会文化学府博士論文
- 岡田安代・水谷修 (1988) 「日本語の談話進行機能の一特色『共話的わたし』機能の積極的評価」『日本語教育の現代的課題予稿集』149-159. 津田塾会編
- 岡田安代 (1991) 「日本人はなぜ文末まで言わないのか?—会話を成り立たせる『共話』の原理—」『月刊日本語』4(1), 9-13 アルク.
- 荻原稚佳子 (2000) 「日本人の言いさし表現に対する察しの現れ方」『講座日本語教育』(36), 69-85.



- 荻原稚佳子 (2001) 「日本語コミュニケーションにおける『言いさし割り込みの連鎖』」  
『青山国際コミュニケーション研究』(5), 43-64.
- 荻原稚佳子 (2010) 「中国語母語話者の『言いさし』使用とその理解—インタビュー  
会話に焦点をあてて」『明海大学外国語学部論集』(22), 35-49.
- 荻原稚佳子 (2011) 「日本語母語話者による自由会話における『言いさし』の使用と  
解釈」『明海大学外国語学部論集』(23), 17-33.
- 荻原稚佳子 (2012) 「日本語自由会話における『言いさし』使用と解釈の難しさ：中  
国語母語話者の場合」『明海大学外国語学部論集』(24), 1-17.
- 荻原稚佳子 (2013) 「中国語母語話者の中国語自由会話における言いさし使用—日本  
語会話との比較から考える普遍性と個別性—」『明海大学応用言語学研究』  
(15), 131-143.
- 柏崎秀子 (1993) 「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に」『日  
本語教育』(79), 53-63. 日本語教育学会
- 加藤重広 (2009) 『その言い方が人を怒らせる—ことばの危機管理術』ちくま新書  
筑摩書房
- 熊井浩子 (1992) 「留学生にみられる談話行動上の問題点とその背景」『日本語学』  
11(12), 72-80. 明治書院
- 黒崎良昭 (1995) 「日本語のコミュニケーション：『共話』について」『園田学園女子  
大学論文集』30(1), 45-60.
- 現代日本語研究会編 (2002) 『男性のことば・職場編』ひつじ書房
- 国立国語研究所 (1980) 『日本人の知識階層における話し言葉の実態』国立国語研究  
所日本語教育センター
- 笹川洋子 (2007) 「異文化コミュニケーション場面にみられる共話の類型」『神戸親  
和女子大学言語文化研究』(1), 17-40.
- 佐竹秀雄 (1997) 「若者ことばと文法」『日本語学』16(4), 55-64.
- 佐藤響子 (2004) 「インタビュー場面に見られる共同発話」『横浜市立大学人文論叢  
人文科学系列』55(2・3), 133-151.
- 佐藤勢紀子 (1993) 「言いさし『…が／けど』の機能—ビデオ教材の分析を通して—」  
『東北大学留学生センター紀要』(1), 39-48.
- ザトラウスキー, ポリー (2003) 「共同発話から見た「人称制限、『視点』をめぐる問  
題」『日本語文法』(3)1, 49-66.

- 鮫島重喜 (1998) 「コミュニケーションタスクにおける日本語学習者の定形表現・文末表現の習得過程—中国語話者の『依頼』、『断り』、『謝罪』の場合」『日本語教育』(98), 73-84. 日本語教育学会
- 陣内正敬 (2006) 「ぼかし表現の二面性—近づかない配慮と近づく配慮—」『言語行動における「配慮の諸相」』, 115-131.
- 白川博之 (2009) 『「言いさし文」の研究』くろしお出版
- 杉戸清樹 (1987) 「発話のうけつぎ」『国立国語研究所報告 92 談話行動の諸相—座談資料の分析—』 68-106. 三省堂
- 杉山ますよ (2001) 「対談番組にみられる『中途終了型発話』表現形式、生起理由、会話のストラテジー」『別科論集』(3), 35-53. 大東文化大学別科日本語研修課程
- 高田恭子・福盛壽賀子 (2001) 「非言い切り文の考察—教科書分析と『が・けど』文末の使用実態から—」『九州大学留学生センター紀要』(12), 43-54.
- 高橋太郎 (1993) 「省略によってできた述語形式」『日本語学』12(10), 18-26. 明治書院
- 曹英南 (2000) 「用件の会話における言いさし表現について」『言語文化と日本語教育』(20), 27-38. お茶の水女子大学日本言語文化研究会
- 曹英南 (2002) 「韓国人日本語学習者における言いさし表現の習得研究—OPI データを資料として—」『言語文化と日本語教育』(24), 80-85. お茶の水女子大学日本語文化研究会
- 曹英南 (2004) 「字幕付き映画における韓日の言いさし表現の対応関係—『述部あり』の言いさし文表現を中心として—」『言語文化と日本語教育』(27), 102-115. お茶の水女子大学日本言語文化研究会
- 陳文敏 (2000) 「日本語母語話者に見られる『中途終了型発話』—表現形式及びその生起の理由—」『言葉と文化』(1), 125-141.
- 陳文敏 (2001) 「接触場面の会話に見られる『中途終了型発話』—台湾人上級日本語学習者の場合—」『言葉と文化』(2), 175-191.
- 陳文敏 (2008) 「日本語教科書のモデル会話における『中途終了型発話』」『台大日本語文研究』(16), 139-168.
- 陳一吟 (2013) 『日本語におけるジェンダー表現—大学生の使用実態および意識を中心に—』花書院
- 陳宜萱 (2013) 「台湾人中上級日本語学習者における文末省略使用状況—日本語母語

- 話者と比較して—」銘傳大學應用日語學系碩士論文
- 辻大介 (1999) 「若者語と対人関係～大学生調査の結果から」『東京大学社会情報研究  
 究所紀要』 第 57 号, 17-42.
- 田昊 (2015) 「中国語における『けど』類で終わる『言いさし』の扱い方」『一橋大  
 学国際教育センター紀要』 (6), 95-108.
- 永田良太 (2001) 「接続助詞ケドによる言いさし表現の談話展開機能」 『社会言語  
 科学』 (3)2, 17-26.
- 中村明 (1983) 「日本人の表現—その特殊性の行方を考える—」『講座日本語の表現 5  
 日本語のトリック』, 300-310. 筑摩書房
- 中山治 (1985) 「『ぼかしの構造』—日本語の表現心理」『月刊言語』 14(12) 64-69  
 『日本語表現・文型事典』, 2002. 朝倉書店
- 朴仙花 (2012) 「中国人日本語学習者による文末表現の使用に関する考察—断り発話  
 を事例として—」 『言葉と文化』 (13), 95-113.
- 古内綾子 (2003) 「日本人大学生における共同発話の機能—男女の違いと親疎の違い  
 に注目して—」 『山形大学日本語教育論集』 (5), 57-69.
- 平成 26 年度「国語に関する世論調査」の結果概要  
[http://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/kokugo\\_yoronchosa/pdf/h26\\_chosa\\_kekka.pdf](http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/h26_chosa_kekka.pdf)
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』 くろしお出版
- 松村瑞子・因京子 (1998) 「日本語談話におけるスタイル交替の実態とその効果」『言  
 語科学』 33, 109-118.
- 前田直子 (2004) 「文末表現『みたいな。』の機能」『月刊言語』 33(10), 54-57.
- 水谷信子 (1980) 「外国語の修得とコミュニケーション」 『言語生活』 (344), 28-36.
- 水谷信子 (1985) 『日英比較話しことばの文法』 くろしお出版
- 水谷信子 (1988) 「あいづち論」『日本語学』 7(13), 4-11. 明治書院
- 水谷信子 (1989) 『NAFL 選書 4 日本語教育の内容と方法—構文の日英比較を中心に  
 —』 アルク
- 水谷信子 (1993) 「『共話』から『対話』へ」 『日本語学』 12(4), 7-13. 明治書院
- 水谷信子 (2001) 『続・日英比較話しことばの文法』 くろしお出版
- 水谷信子 (2015) 『感じのよい英語 感じのよい日本語 —日英比較コミュニケーショ  
 ンの文法』 くろしお出版

- 嶺川由季 (2000) 「大学院のゼミの談話におけるコミュニケーション・ブレイクダウンの修復について: 『対話』と『共話』の視点から」『国際協力研究誌』6(1), 105-117.
- 嶺川由季 (2001) 「大学院のゼミ談話に見られる日本語母語話者の『対話』と『共話』の使い分け」『社会言語科学』 3(2), 39-51.
- メイナード, 泉子. K (1993) 『会話分析』くろしお出版
- モネイン, 多津子 (1984) 「談話文法分析の教授法への応用」『月刊言語』13(2), 114-122.  
大修館書店
- 守時なぎさ (1994) 「話し言葉における文末表現『ッテ』について」『筑波応用言語学研究』(1), 87-99.
- 山路佳恵 (2009) 「日本語会話における中途終了型発話—ある職場における会話から」『日本語・日本文化研究』(19), 191-202.
- 李曉博 (2008) 「日中両言語における言いさし表現の使用状況についての考察—発話機能とスピーチレベルの機能から」『文体論研究』(54), 1-16.
- 劉丹丹 (2014) 「勧誘における中日のあいづちの対照研究」『日本語教育と日本研究における双方向性アプローチの実践と可能性』, 531-540. ココ出版

#### 英語参考文献

Tannen Deborah(1990) You Just Don't Understand: Women and Men in Conversation, HarperCollins Publishers

#### 引用した会話データ集

- 松村瑞子・因京子編(2008)「久志唯収集の会話例」『平成 19 年度日本語会話資料集』九州大学比較社会文化学府
- 松村瑞子・李曦曦編(2011)「王丹丹収集の会話例」『平成 22 年度日本語会話資料集』九州大学比較社会文化学府
- 松村瑞子・李曦曦編(2013)「李曦曦収集の会話例」『平成 24 年度日本語会話資料集』九州大学比較社会文化学府

## 謝辞

本論文の完成に当たっては、多くの方からご指導、ご支援をいただき、この場を借りて、感謝の意を申し上げます。まず、指導教員主査としてお世話になった松村瑞子先生に心より厚く御礼申し上げます。先生は、いつも研究の進捗状況を気にかけてくださり、懇切にご指導頂きました。不十分ながらも、本論文をまとめることができたのは松村先生のおかげです。そして、本論文の審査においては、副査の井上奈良彦先生、山村ひろみ先生、因京子先生、杉村泰先生から大変細かくご指摘ご助言をいただきました。深く感謝しております。最後に、データ収集のご協力をしていただいた方々と快く日本語チェックを引き受けてくださった松村ゼミの長谷川順子さんにも御礼を申し上げます。本論文を無事に完成できたのは、皆様からの心温まるご支援とご協力のおかげです。心より感謝しております。